

令和6年度 名古屋大学 一般選抜学生募集要項

志願者は、この「学生募集要項」をダウンロードして印刷し、一般選抜の内容、各手続の方法や締切日（時間）、注意事項等を十分に確認したうえで、必要な手続や準備を行ってください。

また、本要項は入学手続や成績開示の確認まで保管してください。

不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により、試験日程や選抜方法等を変更する可能性があります。変更が生じた場合は、下記の〔入試に関するお知らせ（NEWS）〕で随時公表しますので、出願前や受験前は特に注意して最新の情報を確認するようにしてください。

○名古屋大学 受験生応援サイト〔入試に関するお知らせ（NEWS）〕
<https://www.nagoya-u.ac.jp/admissions/news>



緊急時の諸連絡

災害や感染症の流行などによる試験日程及び選抜内容の変更，出願状況による試験会場の変更など，本募集要項の内容から変更する必要がある場合には，下記の本学ホームページ及び大学情報センターウェブサイト等により周知しますので，出願前や受験前はとくに注意して確認するようにしてください。

出願状況の案内

本学の一般選抜の出願状況の案内は，本学ホームページ及び大学情報センターウェブサイトにより次の日時から行います。

令和6年1月25日（木）9時から

○本学ホームページ

▶名古屋大学 受験生応援サイト〔入試に関するお知らせ（NEWS）〕

<https://www.nagoya-u.ac.jp/admissions/news>

▶名古屋大学トップページ → 受験生の方へ → 入試に関するお知らせ

<https://www.nagoya-u.ac.jp>



○大学情報センターウェブサイト

<https://daigakuju.jp/nagoya-u/>



名古屋大学学術憲章

名古屋大学は、学問の府として、大学固有の役割とその歴史的、社会的使命を確認し、その学術活動の基本理念をここに定める。

名古屋大学は、自由闊達な学風の下、人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献することを、その使命とする。とりわけ、人間性と科学の調和的發展を目指し、人文科学、社会科学、自然科学をとともに視野に入れた高度な研究と教育を実践する。このために、以下の基本目標および基本方針に基づく諸施策を実施し、基幹的総合大学としての責務を持続的に果たす。

1. 研究と教育の基本目標

- (1) 名古屋大学は、創造的な研究活動によって真理を探究し、世界屈指の知的成果を産み出す。
- (2) 名古屋大学は、自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てる。

2. 社会的貢献の基本目標

- (1) 名古屋大学は、先端的な学術研究と、国内外で指導的役割を果たしうる人材の養成とを通じて、人類の福祉と文化の発展ならびに世界の産業に貢献する。
- (2) 名古屋大学は、その立地する地域社会の特性を生かし、多面的な学術研究活動を通じて地域の発展に貢献する。
- (3) 名古屋大学は、国際的な学術連携および留学生教育を進め、世界とりわけアジア諸国との交流に貢献する。

3. 研究教育体制の基本方針

- (1) 名古屋大学は、人文と社会と自然の諸現象を俯瞰的立場から研究し、現代の諸課題に応え、人間性に立脚した新しい価値観や知識体系を創出するための研究体制を整備し、充実させる。
- (2) 名古屋大学は、世界の知的伝統の中で培われた知的資産を正しく継承し発展させる教育体制を整備し、高度で革新的な教育活動を推進する。
- (3) 名古屋大学は、活発な情報発信と人的交流、および国内外の諸機関との連携によって学術文化の国際的拠点を形成する。

4. 大学運営の基本方針

- (1) 名古屋大学は、構成員の自律性と自発性に基づく探究を常に支援し、学問研究の自由を保障する。
- (2) 名古屋大学は、構成員が、研究と教育に関わる理念と目標および運営原則の策定や実現に、それぞれの立場から参画することを求める。
- (3) 名古屋大学は、構成員の研究活動、教育実践ならびに管理運営に関して、主体的に点検と評価を進めるとともに、他者からの批判的評価を積極的に求め、開かれた大学を目指す。

＜目 次＞

○緊急時の諸連絡／出願状況の案内	(表紙の次)
○名古屋大学学術憲章	1
○名古屋大学の教育を支える3つの方針／○各学部の教育を支える3つの方針	3～19
I 募集人員	20
II 出願手続から入学までの日程	21
III 入学者選抜	
1. 出願資格	22
2. 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目	23～25
3. 併願に関する留意事項	25
4. 受験上の配慮を必要とする者の出願	26
5. 入学者選抜方法等	26～27
6. 医学部医学科の前期日程（地域枠）について	28
7. 個別学力検査 期日・時間	29
8. 個別学力検査 試験場	30～31
9. 個別学力検査 実施教科・科目	31～32
10. 個別学力検査 実施教科・科目の出題方針	33～35
11. 大学入学共通テストと個別学力検査の配点	36～37
IV 出願手続	
1. 出願の流れ	38
2. 事前準備	39～40
3. インターネット出願登録期間および入学検定料等納入期間、出願期間	40～41
4. 検定料・納入方法、自然災害等による検定料免除について	41～42
5. 郵送で提出する出願書類	42～43
6. インターネット出願の方法	44～47
7. 受験票の交付	48
8. 検定料の返還について	48
V 受験に関する注意事項	49～50
VI 合格発表～入学手続	
1. 入学手続完了までの流れ	51
2. 合格発表	52
3. 入学手続	52～54
4. 入学辞退の手続	54
5. 追加合格	54
VII 個人情報取り扱い	55
VIII 一般選抜における試験成績の開示	55
IX 修学費支援・学生の宿舎等・学研災保険制度・学生生活の準備	
1. 修学費支援	56～57
2. 学生の宿舎等	57
3. 学研災保険制度	58
4. 学生生活の準備	58～59
【参考】① 令和5年度 名古屋大学入学試験結果（概要）	60～61
② 令和7年度以降の入学者選抜方法について	62～75
③ 名古屋大学 学生数	76
④ 大学案内及び学部紹介冊子の請求方法	76
キャンパス案内／各試験場へのアクセス	77～79
【問い合わせ先】	80

名古屋大学の教育を支える3つの方針

■名古屋大学の教育の基本理念と育成する人間像

名古屋大学は「学術憲章」（2000年制定）で、「名古屋大学は、自由闊達な学風の下、人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献することを、その使命とする。とりわけ、人間性と科学の調和的発展を目指し、人文科学、社会科学、自然科学をともに視野に入れた高度な研究と教育を実践する」と、その使命を定めています。さらに「学術憲章」では「研究と教育の基本目標」として、「(1)名古屋大学は、創造的な研究活動によって真理を探究し、世界屈指の知的成果を産み出す。(2)名古屋大学は、自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てる」という基本理念を掲げています。

この「学術憲章」に示される基本理念の下で、名古屋大学は日本における基幹総合大学の一つとして、創造的な教育・研究活動を通じ、豊かな文化の構築と科学・技術の発展に寄与してきました。21世紀に入り6名のノーベル賞受賞者を輩出するなど世界屈指の研究成果を産み出すとともに、既存の権威

にとらわれることのない自由闊達な学風の下、多数の進取の気性に富んだリーダー人材を育成してきています。名古屋大学はこれらの人材や知的成果を広く社会に提供するための開かれた大学づくりに努めています。冒頭で述べたように、「**勇気ある知識人**」を育成する人間像として示しています。

「勇気ある知識人」とは、責任感をもって社会に貢献しようとする高い志とグローバルな視野をそなえ、幅広い教養と高い専門性を身につけ、人々の幸福や持続可能な社会の発展を妨げる諸問題の解決に積極的に寄与できる人材を言います。このような真の勇気と知性を持ち、未来を切り拓いていける人が、名古屋大学が育成しようとしている人間像なのです。

この「勇気ある知識人」を支える力となるのが、十分な知識・技能、主体的な創造性、立ち向かう探究心です。こうした優れた資質・能力を持った人を、名古屋大学は、多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践によって育成しています。

■3つの方針に基づく大学教育の質の向上

名古屋大学では、このような教育を適切に実施するため、①卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、②教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、③入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）という3つの方針を学士課程及び大学院課程において定め、広く学内外に向けて公表しています。

これらの方針は、名古屋大学の教職員にとっては、大学がめざす教育を実現するための指針であり、つねに立ち戻って教育のあり方を点検するための指標でもあります。名古屋大学への入学を志望する者にとっては、入学後に期待できる教育のあり方や、入学までに身につけておくべき素養について知るための情報源となります。また、名古屋大学に在学する

学生にとっては、本学で提供されている教育が何をめざしているのかを普段から意識するための手がかりとなります。さらに卒業生や修了生の活躍の場となる社会にとっては、名古屋大学がどのような資質・能力をそなえた人材を育てているのかを理解する拠りどころとなります。

これら3つの方針は、相互に密接に関連してこそ、その真価を發揮します。名古屋大学では、教育の基本理念と育成をめざす人間像を起点として、3つの方針を一体的に定めています。そして、このように一体的に定められた3つの方針に照らして、本学の教育のあり方を自己点検・評価し、教育の質を向上させていく取組を積極的に進めています。

各学部の教育を支える3つの方針

01 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

名古屋大学は、各学部の教育目標と基準に沿った資質・能力の卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学士の学位を授けます。名古屋大学の学位は、真の勇気と知性を持ち、未来を切り拓いていく「勇気ある知識人」として、それぞれの学術分野で、十分な知識・技能、主体的な創造性、立ち向かう探究心が培われたことを証します。

名古屋大学では、学部・学科ごとに、学術分野の特徴に基づき、社会からの期待に応えるために育成する人間像を教育目標として設定しており、それに基づく基準を定めています。学士の学位は、各学部・学科のカリキュラムの履修を通して、その基準に対応した資質・能力を身につけた学生に対して授与されます。

02 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

名古屋大学は、高度で幅広い教養を育むための教養教育と、飽くことなき探究心の涵養と新たな知の主体的創造につながる専門教育との二本柱からなる体系的な教育課程により、学生を育てます。多様な授業形態の組み合わせによる教育課程の展開と自発的な学修の促進を図り、学術分野の特徴を活かした、教育実践及び学修指導を適切に実施します。

名古屋大学では、学部・学科ごとに教育目標として設定した、育成する人間像に対応する資質・能力を培うためにふさわしい教育課程を編成し、実施しています。

03 入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

名古屋大学は、未来の「勇気ある知識人」を目指す人を国内外に求めます。各学部・学科の学術分野の特徴に基づき、基礎的な学力とそれを活用する能力、さらにそれを発展させようとする意欲や態度を適正に評価して選抜する入試を実施します。

名古屋大学では「学術憲章」に掲げているように、「勇気ある知識人」の育成を目指しています。「勇気ある知識人」として必要な資質・能力は、大学教育での学びだけで培われるわけではありません。中等教育で身に付けた土台の上に立ってこそ、勇気ある知識人への成長が可能になります。そのため、名古屋大学では、基礎的な学力とそれを活用する能力、さらにそれを発展させようとする意欲や態度を備える人を国内外に求めています。

各学部・学科の特徴に基づき、多様な評価方法を適宜組み合わせた入試を実施し、ひとりひとりの学生を選抜します。

文学部の教育を支える3つの方針

■卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

文学部は、以下に示す資質・能力等を備え、卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学位を授与します。

文学部が授与する学位は、言語・文化・歴史に対する深い探究心と社会・環境への強い関心を持ち、高い異文化理解力を備えた人材であり、また、人文学的教養を通して、国際社会・地域社会の諸問題の解決に寄与しうる人材であること、そして、「高い異文化理解能力と言語運用能力」、「文献や資料を収集・読解・分析する能力」、「専門分野における基本的な研究方法を理解し、応用する力」、「論旨の一貫した文章構成能力とプレゼンテーション能力」、「現代社会が直面する諸問題に専門分野の知見に基づき対応できる能力」を備えていることを証します。

（2）卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

文学部の卒業要件は、原則として4年以上在学し、所定の授業科目のうち、全学教育科目を40単位以上、専門科目を84単位以上、合計124単位以上を履修し、かつ卒業論文の試験に合格することです。なお、専門科目の単位数には卒業論文10単位が含まれます。

■教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部では、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質や能力を身につけた人材を育成するため、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

1. 全学教育科目の中の言語文化科目によって、「高い異文化理解能力と言語運用能力」の基礎を身につけます。
2. 全学教育科目の中の基礎セミナーによって、「文献や資料を収集・読解・分析する能力」および「論旨の一貫した文章構成能力とプレゼンテーション能力」の基礎を身につけます。
3. 全学教育科目の中の教養科目「現代教養科目（自然系・学際・融合系）」によって、「現代社会が直面する諸問題」を高度で幅広い教養の観点から理解する力を身につけます。
4. 全学教育科目の中の分野別基礎科目「人文・社会系基礎科目」によって、「専門分野における基本的な研究方法を理解し、応用する力」の概略を学びます。
5. 専門科目の履修によって、「専門分野における基本的な研究方法を理解し、応用する力」を修得し、「文献や資料を収集・読解・分析する能力」や「論旨の一貫した文章構成能力とプレゼンテーション能力」、「高い異文化理解能力と言語運用能力」を高めます。
6. これらの能力について、小論文や筆記試験、口頭発表、討議への貢献度など、各授業において定める方法によって単位認定を行います。
7. 卒業論文を書き上げることによって、これらの能力が身についたことを確認します。
8. カリキュラム全体の履修を通して、「現代社会が直面する諸問題に専門分野の知見に基づき対応できる能力」を身につけます。

上記のカリキュラム編成のもと、それぞれの科目区分の中に、講義、演習、実習などの多様な形態の授業を配置し、学年進行にそって、基礎力、応用力、課題解決能力が段階的に涵養されます。

■入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（1）入学者受入れの方針

文学部では、養成する人材像とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、「人文学分

野の研究に取り組むのに必要な基礎的な学力を備え、人間の営為としての言語・文化・歴史に深い関心を持ち、社会・環境など現代社会が抱える諸問題を考えることに意欲がある人」を入学者として選抜します。

(2) 一般選抜の基本方針

アドミッション・ポリシーに適合した人材を選抜するため、調査書、大学入学共通テストの成績および個別学力検査の成績を総合的に判断し選抜を行います。「人文学分野の研究に取り組むのに必要な基礎的な学力」は大学入学共通テスト、個別学力検査で判定します。個別学力検査においては、論理的な思考力も人文学分野の研究に取り組むのに必要な基礎的な学力の一部であることから、国語、地歴、外国語に加えて、数学を課しています。「人間の営為としての言語・文化・歴史に対する深い関心」や「社会・環境など現代社会が抱える諸問題を考える意欲」については、調査書を含めて総合的に判定します。

教育学部の教育を支える3つの方針

■卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

(1) 育成する人材像（教育目標）

教育学部は、以下に示す資質・能力等を備え、卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学位を授与します。

「人間発達科学の知見と方法を学び、論理的・批判的思考力と判断力、協働的コミュニケーション能力を有し、省察と探究の習慣を自ら育むことができる」

「人間と社会の諸問題に絶えず関心をよせ、勇気と熱意をもって向き合い、問題解決に協働的に取り組むことができる」

「社会的正義の感覚を有し、人類と社会の調和的発展とウェルビーイングに貢献できる」

(2) 卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

学士学位授与のためには、全学の「名古屋大学の教育を支える3つの方針」に則って開講される「全学教育科目」（合計41単位以上）ならびに、上記の目的のために本学部で開講される「教育学部専門科目」（専門科目、コース科目、卒業論文、合計84単位以上）を履修することが要件となります。

■教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育学部では、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質や能力を備えた人材を育成するために、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。

- 1) 本学部のカリキュラムは、全学教育科目と専門科目から構成され、専門科目は専門基礎科目、コース科目、卒業論文から構成されています。
- 2) 全学教育科目により「高度で幅広い教養」を身につけるとともに、「人間と社会の諸問題に対する関心」を高め、また「コミュニケーション能力や論理的・批判的思考力と判断力」を養います。
- 3) 専門科目の専門基礎科目により、「人間発達科学の専門基礎的な知識と技能」について幅広く学び、さまざまな視点と知見、基礎的な研究技法を習得します。専門科目のコース科目は、小規模な開講形態（講義、演習、実験演習、実習、調査研究等）により実施し、これらの履修により、「人間発達科学の専門的な知識と技能」を獲得し、また「人間と社会の諸問題」に対する「省察と探究の精神、問題解決能力、協働性とリサーチ・マインド」を身につけます。
- 4) これらの能力について、小論文や筆記試験、口頭発表、討議への貢献度など、各授業において定める方法によって単位認定を行います。

- 5)卒業論文では、指導教員の指導のもとで、独自の研究テーマを設定し特定の研究方法により探究をおこなうとともに、上記の能力が身につけていることを確認します。
- 6)カリキュラム全体の履修を通して、「社会的正義の感覚を有し、人類と社会の調和的発展とウェルビーイングに貢献できる」能力を身につけます。

■ 入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（1）入学者受入れの方針

本学部は、人間の成長発達と教育をめぐるさまざまな問題を研究の対象とする教育発達科学の知見と方法を総合的に学ぶことによって、論理的・批判的思考力と判断力、協働的コミュニケーション能力を有し、省察と探究の習慣を自ら育むことができ、人間と社会の諸問題に絶えず関心をよせ、勇気と熱意をもって向き合い、問題解決に協働的に取り組むことのできる人材、さらには、社会的正義の感覚を有し人類と社会の調和的発展とウェルビーイングに貢献できる人材の育成を目的としています。

上記の目的を理解したうえで本学部への進学を志望する者には、次のような能力や資質が求められます。

- 1) 人間発達科学を学ぶための基礎的学力
- 2) 人間の成長発達と教育をめぐる多様な事象と問題に対する関心と問題意識
- 3) 人間と社会の諸問題に対して深い関心をもち、教育と発達および社会的正義の視点から探究し、問題解決を志向し、人類と社会の調和的発展に貢献しようという意欲と熱意

（2）一般選抜の基本方針

人間発達科学を学ぶための基礎的学力を評価するため、大学入学共通テストと個別学力検査(国語, 数学, 外国語)により選抜を実施します。

法学部の教育を支える3つの方針

■ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

法学部は、以下の資質・能力等を備え、卒業要件を満たした者に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

- (1) グローバル化社会に通用する法律学・政治学の総合的な知識を、論理的に体系づけて修得する。
- (2) 大局の見地に立ってものごとを総合的に判断し、的確な価値判断・意思決定を行う能力を身につける。
- (3) 現代社会のさまざまな問題に積極的に関わり、専門分野の知見に基づいてその解決に寄与する能力を身につける。

（2）卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

法学部では、全学教育科目を「専門導入系」（基礎セミナー、人文・社会系基礎科目等）と「非専門系」（教養科目、健康・スポーツ科学科目、言語文化科目等）とに分類し、全学教育「専門導入系」科目12～14単位、同「非専門系」科目28単位、法学部「専門科目」82～84単位（関連専門科目として、他学部の専門科目を20単位まで含めることができます）、合わせて124単位の修得を通じて、教育目標に掲げる人材であると証される者に、卒業を認定し、学士（法学）の学位を授けます。

■ 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

法学部は、教育目標に掲げた資質・能力を学生が身につけることができるよう、以下の方針に基づいて教育を実施します。

＜教育課程の編成の方針＞

- (1) 学生が、グローバル化社会に通用する法律学・政治学の総合的な知識を、論理的に体系づけて修得するために、1年次には、専門的な学修の土台として、政治学・法律学の各専門領域に通底すべき導入的・基礎的な科目群と、我が国の法体系の根底を成す基本的な専門科目「憲法Ⅰ」「民法Ⅰ」「政治学原論」を配置し、2年次以降、政治・公法領域、民刑事法領域、基礎法・社会法領域のそれぞれにおいて、各分野の基礎的な科目から発展的な科目まで、多様な科目を、国際的な視野の提供にも重きを置いて段階的・体系的に配置します。
- (2) 学生が、大局的見地に立ってものごとを総合的に判断し、的確な価値判断・意思決定を行う能力を身につけるために、全学教育科目は、専門導入系科目（基礎セミナー、人文・社会系基礎科目）に加え、非専門系科目（教養科目、健康・スポーツ科学科目、言語文化科目等）をも幅広く履修しなければならないこととし、それによって各専門科目の複眼的な学修を促進しています。人文・社会系基礎科目のうちの「日本国憲法」「法学」「政治学」は履修しても卒業単位に算入されないこととしているのも、同じ理由によるものです。
- (3) 学生が、現代社会のさまざまな問題に積極的に関わり、専門分野の知見に基づいてその解決に寄与する能力を身につけるために、演習科目による少人数教育を重視しています。1年次には、全学教育科目「基礎セミナー」を配置し、2年次以降、「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」を順次配置するほか、4年次には、「卒業論文」を配置します。これらの履修によって、各担当教員の専門分野のアクチュアリティーに触れ、具体的な課題へのアプローチとその解決に向けての探究を実践する学びが積まれることを促進しています。

＜教育・学習方法の方針＞

学生が、学年進行に沿って、視野を広げ、基礎を固め、発展的に学ぶプロセスを履み、それによって前記資質・能力等を段階的に培うことができるよう、各専門領域において、多様な内容・形態の授業科目を体系的に配置します。全ての授業科目について、その概要、到達目標、成績評価方法、各回のテーマ等を明記したシラバスを示します。ウェブシステムを利用するなどして、教科書・参考書・参考資料、授業時間外学習の指示、質問への対応方法等を提示し、学習を支援します。

＜学習成果の評価の方針＞

成績評価に当たっては、各授業科目のシラバスに示された、筆記試験、レポート、口頭発表その他の方法によって前記資質・能力等を確認し、単位認定を行います。講義科目においては、主に、法律学・政治学等の総合的な知識を、論理的に体系づけて修得していること、大局的見地に立ってものごとを総合的に判断し、的確な価値判断・意思決定を行う能力を身につけていることを、厳格に判定します。演習科目においては、主に、現代社会のさまざまな問題に積極的に関わり、専門分野の知見に基づいてその解決に寄与する能力を身につけていることを、厳格に判定します。

■ 入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（1）入学者受入れの方針

法学部は、社会のルールの学としての法律学・政治学を学ぶことを通じて、大局的見地に立って的確な価値判断・意思決定を行い、グローバル化社会のさまざまな問題の解決に向けて積極的に寄与し、未来を切り拓いていくことを目指し、かつ、そのために必要となる以下の資質や能力を備えた人を、国内外に求めます。

- 1) 幅広い基礎学力及び法律学・政治学を学ぶ上で重要となる論理的思考を発展させるために必要な学力
- 2) グローバル化社会のさまざまな問題の解決に向けて積極的に寄与するために必要な意欲や能力

(2) 一般選抜の基本方針

幅広い基礎学力を大学入学共通テスト（5または6教科8科目，900点）により評価するとともに，これまでに身につけた基礎学力を活用する能力を個別学力検査（3科目，600点）により評価します。個別学力検査では，とりわけ法律学を学ぶ上で重要となる論理的思考を発展させるために必要な学力を数学（200点）により，また，グローバル化社会のさまざまな問題の解決に向けて積極的に寄与するために必要な意欲や能力を，外国語（200点）および高等学校の地理歴史，公民の学習を前提とする小論文（200点）により評価します。

経済学部の教育を支える3つの方針

■卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

(1) 育成する人材像（教育目標）

経済学部は，以下に示す資質・能力等を備え，卒業資格を満たした者に，卒業を認定し，学位を授与します。

「経済学・経営学の知識を有し，ビジネス活動を行う上でのコミュニケーション能力と協調性，将来のリーダーとしての資質を備えている」

「経済学・経営学の知見を駆使して，現代の企業や経済社会が直面する諸課題を把握・分析し，課題解決に取り組むことができる」

「現代のグローバルに活動を行う企業や経済社会において，合理的で実践的な意思決定を主体性をもって行える」

「現代の企業活動において必要不可欠な専門知識を備え，文献・資料から必要なデータやエビデンスを収集し，それに基づいた分析的なレポートを作成・プレゼンテーションする能力を有する」

(2) 卒業，修了判定時に課している基準（必要要件）

卒業論文を含み，全学教育科目の所定の単位40単位以上，専門基礎科目28単位以上，専門科目・関連専門科目56単位以上を修得した者に対して，(1)の教育目標が求める資質や能力が育成されたものと総合的に判断し，学士の学位を授けます。

■教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学部は，「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質や能力を身につけた人材を育成するため，以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

(1) 全学教育科目で幅広い教養を修得する，

(2) 専門基礎科目で各専門分野の基礎知識を確実に修得する，

(3) 専門科目（卒論研究を含む）と関連専門科目で基礎知識を応用する能力を育成する，

という三つの基本方針を打ち立てて，経済学・経営学において必要とされる幅広い教養を学び，それを基礎として学術の理論および応用を習得します。

上記のカリキュラム編成のもと，それぞれの科目区分の中に，講義・演習などの多様な形態の授業を配置し，学年進行にそって，基礎力，応用力，課題解決能力が段階的に涵養されるように教育・学習方法の方針を定めています。

上記の学習による成果の評価については，「全学教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」では，筆記試験・レポート・口頭発表など，各授業においてシラバスで定める方法により，上記で掲げた能力が身についたことを確認し，単位認定を行います。また，「卒業論文」に取り組むことによって「現代の企業や経済社会が直面する諸課題を理解・分析し，問題解決に取り組むことができる」力を身につけます。

カリキュラム全体の履修を通して、「経済学・経営学の知見を駆使して、現代の企業や経済社会が直面する諸課題を理解・分析し、問題解決に取り組むことができる能力」を身につけます。

■ 入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（1）入学者受入れの方針

経済学・経営学の専門的な知識を学ぶための基礎的な学力を備え、ダイナミックに変化する現代の経済社会への鋭い関心を持って、経済活動に関わる諸問題を理論的・実証的に探究することができる学生の入学を求めます。

（2）一般選抜の基本方針

経済学・経営学の専門的な知識を学び、経済活動に関わる諸問題を理論的・実証的に探究するための基礎的な学力を備えた者を、大学入学共通テストと国語・数学・外国語の3教科の個別学力検査により選抜します。

情報学部の教育を支える3つの方針

■ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

情報学部は、以下の基準にそった学力及び資質・能力等の卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学位を授けます。

情報学部の学位は、細分化した学問諸分野を統合していくハブの役割を果たすと期待される「情報学」の教育と研究を通して、次のような資質・能力等が培われたことを証します。

- 1) 情報学の知見を駆使して、取り組むべき課題を発見し、それを解決できる
- 2) 情報学の知見を駆使した、組織マネジメントや制度設計について理解している
- 3) 情報社会の基盤となる仕組みやシステムの構想・設計について理解している

（2）卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

情報学部においては、全学教育科目は、共通基礎科目、教養科目、分野別から各学科が定める履修要件により、自然情報学科とコンピュータ科学科は41単位以上、人間・社会情報学科は40単位以上修得します。専門系科目は専門基礎科目、専門科目、関連専門科目、卒業研究からなります。専門基礎科目から30～34単位、専門科目から42単位以上、関連専門科目から2～10単位の自然情報学科とコンピュータ科学科は合計87単位以上、人間・社会情報学科は合計88単位以上を修得します。専門科目には、卒業研究6単位が含まれます。卒業要件は、原則として4年以上在学し、合計128単位以上を修得し、かつ卒業研究の審査に合格することです。

■ 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

情報学部では、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」で掲げた資質を共通して涵養するために、想定される社会での活躍場面に応じた、より専門的な知識・技能・態度を獲得することを可能とする専門教育の課程を次の科目により編成します。

1) 全学教育科目

「基礎セミナー、言語文化、健康・スポーツ科学、文系基礎科目、文系教養科目、理系基礎科目、理系教養科目、全学教養科目」

2) 専門基礎科目

「スタートアップ科目群」

「情報科学技術の基礎となる科目群」

「自然や社会をシステムとして理解する基礎となる科目群」

「論理的に課題を発見・解決するための基礎となる科目群」

3) 学部共通の専門科目

「社会とのインタラクションのための科目群」

「情報倫理と法」, 「アカデミック・イングリッシュ」, 「アカデミック・ライティング」, 「マネジメント」等

4) 学科ごとの専門科目

5) 関連専門科目

6) 卒業研究

情報学部では、共通的な資質と高度な専門性を兼ね備えた融合的人材を育成するため、全学教育科目、学部共通の科目（専門基礎科目、および、学部共通の専門科目）、学科ごとの専門科目、関連専門科目、卒業研究で教育課程を編成します。一定の専門性を身につけた上で、さらに専門性を超えた知識・技能・態度を涵養するため、学部共通科目を、1～2年生だけでなく3～4年生に対しても配置します。

それぞれの科目区分の中に、講義、演習、実習などの多様な形態の授業を配置し、学年進行にそって、基礎力、応用力、課題解決能力が段階的に涵養されます。

「全学教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」「関連専門科目」では、レポート、筆記試験、口頭発表など、各授業においてシラバスで定める方法により、単位認定を行います。

これら適切に配置された科目を修得し、「卒業論文」に取り組むことによって、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた3つの資質・能力等を兼ね備えた人材を育成します。

■ 入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（1）入学者受入れの方針

情報学部は、情報学の各分野の研究者になりうる人材のみならず、情報学を駆使して、新しい価値の創出、課題の発見と解決、情報社会の基盤的仕組みの構想・設計等ができる人材、あるいは、企業や政府機関・国際機関等の組織を情報の観点からマネジメントできる人材、情報学に通じた科学諸分野の研究者になりうる人材を養成することを目標としています。そのため、このような人材育成の基盤となる次のような資質を持った多様な学生を、幅広く対象として入学者選抜を実施します。

- ア 幅広い情報学の知識とスキルを身につけるために必要な、十分な基礎的学力を有していること。（学部共通）
- イ 情報の観点から世界を理解し、情報技術を駆使して諸科学を革新しようとする意欲を有すること。（主に自然情報学科）
- ウ 社会の抱える問題と未来の社会像について問題意識をもち、情報学を用いて問題を解決し価値を創造しようとする意欲を有すること。（主に人間・社会情報学科）
- エ 社会と調和し、社会に価値をもたらす情報技術を創造しようとする意欲を有すること。（主にコンピュータ科学科）

自然情報学科、人間・社会情報学科、コンピュータ科学科への多様な資質と興味を持った学生を獲得するために学科ごとに選抜します。

（2）一般選抜の基本方針

情報学部の一般選抜による募集人員は113名です。入学者選抜については、大学入学共通テスト及び本学

が実施する個別学力検査等により、情報学部が文理融合を特色とする学部であることから、大学入学共通テストにおいては、幅広い知識と能力を担保するために、国語、地歴・公民、数学、理科、外国語から5教科または6教科について7科目または8科目を課しています。また、個別学力検査等では、全学科に共通して外国語を課すとともに、各学科においては人材養成をする上で基礎となる理解力や素養を判断できる科目を課しています。

自然情報学科

特定の分野のサイエンスに深い関心を抱き、情報学を用いてそれをさらに一歩進めたいと願う学生を求めており、このような、ある意味で「尖った」サイエンス志向の学生を受け入れるため、個別学力検査において理科4科目から1科目選択とします。入学後の自然情報学科のカリキュラムを通じて広く学ばせることにより、こうした学生の関心を他分野そして社会へとより広げていくことを目指しています。

人間・社会情報学科

社会とそれを構成する人間に関心をもつ学生を求めています。人間・社会情報学科は社会情報系と心理・認知科学系からなりたっています。情報科学技術を人文社会学や心理・認知科学に適用することから、情報学に理解のある文系学生と人文社会学に興味を持つ理系学生の双方を受け入れるため、個別学力検査において地理歴史と数学の選択としています。

コンピュータ科学科

情報技術の創造による社会貢献というテクノロジー志向の学生を求め、技術創造力の向上を目指す教育を行うために、理科全般への関心をもつ学生を対象とすることが有効であると考えています。したがって、個別学力検査において、物理を含む理科4科目のうち2科目を指定します。物理を必須とするのは、物理が高校理科の科目のうちでは、コンピュータ科学科の教育内容に最も親近性が高いこと等を考慮しています。

理学部の教育を支える3つの方針

■卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

理学部は、以下に示す資質・能力等を備え、卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学位を授与します。

- ・自然の理を解き明かそうとする探究心と独創的で柔軟な思考を有する
- ・基礎科学の研究をとおして、科学的素養を身に付け、社会の様々な分野で貢献することができる

（2）卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

学位を取得するためには、入学後、本学部にて4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位（数理学科132単位、物理学科127単位、化学科126単位、生命理学科124単位、地球惑星科学科128単位）以上を修得することが必要です。

■教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

理学部は、自然への探究心を涵養し独創的で柔軟な思考力を育成するために、年次進行に沿って下記の方針を定めています。

- (1) 初年次教育は、基礎を学びながら自分の進みたい学科を選ぶ期間を設定しています。
- (2) 全学教育科目と1年次に配置されている専門基礎科目を受講することにより、数学や理科の基礎科目はもちろん、物事に対する考え方や議論の方法そのものを学ぶ専門リテラシー、人文社会系の教養科目、外国語など、高度知識人に相応しい教養を身につけます。
- (3) 1年終了時に、希望や成績などによって各学科への配属が決定される学科分属制度を採用しています。この制度は、理学部の大きな特長で、総合的な視座から研究や社会をリードできる人材を育成しようとする考えに基づいています。
- (4) 2年次以降は、各学科に分かれて、専門基礎科目や専門科目により、基礎から専門的な講義までを体系的に受講します。演習を取り入れ、実験系では多くの時間を実習にあてて重点的な指導を行っています。いずれの学科でも最新の研究成果を取り入れた教育を行っています。加えて、他学科の講義も履修でき、自然科学の基礎知識を一層広げることができます。
- (5) 4年次には、さらに専門的な講義を実施するとともに、各研究室に配属されて、これまで3年間の蓄積を実際の研究現場で活用し、自主的な学習と研究による卒業研究に取り組みます。
- (6) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、セミナー発表など、シラバスで定める方法により評価します。

これらのカリキュラムに適切に配置された科目を修得し、卒業研究に取り組むことにより、教育目標に掲げた資質・能力を兼ね備えた人材を育成します。

■ 入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（1）入学者受入れの方針

自然界を貫く真理の探究に挑むため、総合的な基礎学力に加えて理学の諸分野における幅広い教養と深い知識を持ち、チャレンジ精神と知的好奇心に満ちあふれた、瑞々しい創造力をもつ人を求めています。

（2）一般選抜の基本方針

一般選抜では、大学入学共通テストにより総合的な基礎学力を測り、個別学力検査では「数学」「理科」「外国語」及び「国語」を課すことにより、理学の諸分野における教養の幅広さと知識の深さに加えて、読解力、表現力、論理的思考力を測ります。

医学部（医学科）の教育を支える3つの方針

■ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）学位授与の方針および育成する人材像（教育目標）

名古屋大学医学部の理念に則り、以下のような資質・能力（学修成果）を身につけた人材を育成します。

1. 新しい医学・医療の開拓

豊かな想像力を発揮し、未知の領域に常に挑戦し続けながら、革新的な医学・医療を創造する研究者になるための基本的な姿勢を身につける

2. 異文化理解力と国際性

物事を多面的に捉え、多様であることを受容し、国際的な視点を持つ

3. 科学的かつ論理的な知識

臨床・研究の実践に必要な、科学的根拠に基づいた基礎・臨床・社会医学の知識を身につける

4. 飽くなき好奇心

知的好奇心に素直であり、新しいことを吸収する

5. 東海地域での基盤

愛知・岐阜・三重・静岡を中心とする東海地方を基盤とし、日本や世界の医療を担っていくという意識を持つ

6. プロフェッショナルリズム

人の命に関わるという医師の職責を自覚し、豊かな人間性と高い倫理性を持つ

7. 患者中心で安全な医療

患者の苦痛や不安に寄り添い、心理・社会的背景を踏まえながら患者と共に意思決定を行い、安全で患者中心の医療を提供する医師になるための基本的な姿勢を身につける

8. 卓越した技術

己の持つ強みを生かして優れた技術を磨き、それを遺憾無く発揮するための基盤を作る

9. チームワーク

自分にできることとできないことを適切に判断し、高いコミュニケーション能力と協調性、およびリーダーシップを身につける

10. データ科学リテラシー

医学・医療に関わるデータを適切に分析・統合・評価できるための知識・技能を身につける

(2) 卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

全学教育科目をはじめ、基礎医学、社会医学及び臨床医学からなる専門科目、臨床実習について所定の単位（全学教育科目44単位、基礎医学、社会医学及び臨床医学からなる専門科目103単位、臨床実習63単位の計210単位）以上を修得した者に対して、このような資質や能力が育成されたものと総合的に判断し、学士の学位を授けます。

■教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

＜教育課程の編成、教育内容および教育の実施方法に関する方針＞

- (1) 教養ある知識人を育成するために、全学教育として開講されている教養教育を縦断的カリキュラムとして編成します。
- (2) 論理的な科学者を養成するために、国際的に活躍する医学研究者が基礎医学・社会医学・臨床医学の講義・実習を行います。
- (3) 研究医を育成するために、半年間にわたる基礎医学セミナーをとおして所属研究室でリサーチマインドを養います。
- (4) 異文化理解力のある国際人を養成するために、世界最高の教育水準にある海外大学医学部との単位互換プログラムを実施します。
- (5) 倫理性や人間性を涵養するために、医学入門や社会医学の講義・実習、行動科学に関する授業や臨床実習を実施します。
- (6) 知的好奇心に溢れた医療人を育成するために、教育課程にPBLチュートリアルをはじめとするアクティブラーニングを組み入れます。
- (7) 臨床現場で実践的に働ける医療人を養成するために、模擬患者やシミュレーターなどによるシミュレーション教育を積極的に導入します。
- (8) 豊富な知識と優れた技術、そして患者中心の視点を持った臨床医を育成するために、名古屋大学医学部附属病院及び地域の連携病院での診療参加型臨床実習を充実化します。
- (9) 多職種と協働できる臨床医を養成するために、患者安全文化の浸透した名古屋大学医学部附属病院における臨床実習を行い、患者安全を考える機会を作ります。
- (10) 医学・医療に関連するデータを適切に分析・統合・評価できる能力を身につけるために、情報学やデー

タ科学に関する講義や実習を積極的に実施します。

<学修成果を評価する方法に関する方針>

- (1) 知識領域の評価については、筆記試験や多選択肢問題形式の試験（医療系大学間共用試験CBTを含む）によって評価を行います。
- (2) 技能・態度領域の評価については、医療系大学間共用試験OSCEなどの実技試験を実施するほか、観察評価による評価も実施します。

■ 入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（1）入学者受入れの方針

豊かな人間性，高い倫理性，科学的論理性を備え，創造力に富む医師・医学研究者へと成長するために必要な能力と資質を備えた学生を求めています。そのために，幅広い教養及び十分な基礎学力のみならず，知的好奇心や科学的探究心をもって新たな分野を開拓するような意欲を持ち，物事を多面的に捉え深い洞察力を持って発展させることができる思考力を有し，人間に対する共感や高い協調性といった医学に携わる者としての適性を兼ねそなえた入学者を選抜します。

（2）一般選抜の基本方針

大学入学共通テストにより基礎学力の評価を行います。さらに前期日程においては，個別学力検査により幅広い教養と知識について，面接により将来の医師，医学研究者としての適性について評価し，加えて，県内の地域医療を担う意欲を持った人物を重視した選抜（地域枠）も行います。一方，後期日程においては面接試験にて将来の医師，医学研究者としての適性及び学力を評価する選抜を行います。

医学部（保健学科）の教育を支える3つの方針

■ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

医学部保健学科は，以下に示す資質・能力等を備え，卒業資格を満たした者に，卒業を認定し，学位を授与します。

「保健医療における専門的な知識や技能を有し，主体的な創造性および立ち向かう探求心を兼ね備える」
「科学的論理性，倫理性，人間性に富み，豊かな想像力と使命感を持って保健医療を推進することができる」

（2）卒業，修了判定時に課している基準（必要要件）

教育目標と基準に沿った資質・能力を満たした者に卒業を認め，学士の学位を授けます。卒業には，全学教育科目を36単位以上（全専攻共通）に加え全専攻とも卒業研究（4単位）を含み，看護学専攻91単位，放射線技術科学専攻98単位，検査技術科学専攻99単位，理学療法学専攻88単位，作業療法学専攻93単位以上の専門系科目を修得する必要があります。

■ 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

保健学科は「科学的論理性と倫理性・人間性に富み，豊かな想像力・独創性と使命感をもって保健医療を推進する人の育成」を学部教育の基本方針としています。将来の保健医療を担うリーダーとなりうる人材の育成をめざし，看護学・放射線技術科学・検査技術科学・理学療法学・作業療法学の5専攻を設けています。医学部の教育目標を達成するために，以下のような教育課程を用意しています。

- (1) 1年次には、主として全学教育科目と専門（基礎）科目の一部を学びます。全学教育科目では、幅広い学問体系の知識を獲得し、総合的な分析・把握力・論理性に裏付けされた基礎的な主体性や探究心を、また豊かな人間性を育みます。また、専門基礎科目として、解剖学・生理学や生命倫理学などの5専攻共通基礎科目を通して専門技術に不可欠な保健医療の幅広い知識を習得し、科学的論理性や主体的な創造性の基礎を育成します。
- (2) 2年次以降は、各専門の段階的な講義・演習・実習の教育カリキュラムを設け、各領域の専門科目で高度な専門知識や技能の取得に加え、幅広い視野と高い倫理性を身につけます。
- (3) 3年次および4年次には、医療福祉機関や地域において臨地・臨床実習を行い、これまで習得した知識の実践的活用方法および保健医療の実際を学びます。また、使命感をもつ保健医療人との関わりから、保健医療への使命感や立ち向かう探究心を育成します。

あわせて、各研究室に配属のうえで卒業研究に取り組み、科学的論理性、豊かな想像力による問題発見・解決能力を身につけます。

<学習成果の評価の方針>

- (1) 「全学教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」「関連専門科目」では、レポート、筆記試験、目標への到達度など各授業において、シラバスで定める方法によって、単位認定を行います。
- (2) これらの適切に配置された科目を修得し、「臨地・臨床実習」および「卒業論文」に取り組むことによって、DPで掲げた資質・能力等を兼ね備えた人材を育成します。

■ 入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（1）入学者受入れの方針

保健学科では、未来の「勇気ある知識人」を目指す人を国内外に求めます。保健学科の学術分野の特徴に基づき、基礎的な学力とそれを活用する能力、さらにそれを発展させようとする意欲や態度を適正に評価して選抜する入試を実施します。入学者が次のような資質を有することを期待します。

1. 生命への畏敬の念、弱者への思いやり
2. 科学的探究心と積極的意欲並びに行動力
3. 多様な価値観を受け入れる寛容さ
4. ボランティア精神とフロンティア精神
5. 穏やかな情緒と協調性

（2）一般選抜の基本方針

前期日程により選抜します。大学入学共通テストでは、国語（配点200点）・地理歴史もしくは公民（100点）・数学（200点）・理科（200点）・外国語（200点）により、基礎的な学力を評価します。個別学力検査では、国語（配点150点）・数学（500点）・理科（500点）・外国語（500点）により、理解力・論理的思考力などを通して問題解決の思考力を有することを評価し、これらを総合的に判断します。

工学部の教育を支える3つの方針

■ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

工学部は、以下に示す資質・能力等を備え、卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学位を授与します。

工学部が授与する学位は、工学を拓くための専門領域の知識や技術を身につけるとともに、幅広い視野と応用力・思考力を有し、科学に対する強い興味をもって、豊かな未来社会の創出に貢献できる人材であることを証します。

(2) 卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

各学科の教育課程に沿って、十分な教養と専門知識・技術を修得し、卒業判定に合格することが必要です。卒業要件単位数は、全学教育科目が44～51単位、専門系科目が卒業研究を含め82～90単位で、合計132～137単位です。

■教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

<教育課程の編成及び教育・学修方法の方針>

- (1) 科学的な基礎知識と工学基礎を充実させます。
- (2) 人文・社会科学等の関連する学問分野についての幅広い視野を確立させます。
- (3) 基礎知識を柔軟に適用する豊かな応用力を養成します。
- (4) 将来の創造性につながる基礎学力と技術・研究のあり方に対する基本的な素養を養成します。
- (5) 十分な基礎知識を教授した後、多様な専門分野の選択肢を提供し、必要な専門性を養います（Late Specialization）。

これらの教育方針にそって、全学教育科目の基礎のもと、学科ごとに教育プログラムを編成しています。専門系科目を専門基礎科目、専門科目、関連専門科目に区分し、それぞれの科目区分の中に、講義、演習、実習、実験などの多様な形態の授業を配置し、学年進行にそって、基礎力、応用力、創造力・総合力が段階的に涵養されるよう配慮しています。

学部教育カリキュラムは卒業後、大学院に進学しさらに高度な学問分野の修得と研究を行う学生のために必要な基本的な内容を網羅するとともに、大学院の教育カリキュラムとの密接な関係をもつように配慮しています（3 + 3 + 3型教育システム）。

<学修成果の評価の方針>

- (1) 「全学教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」「関連専門科目」では、レポート、筆記試験、口頭発表など各授業において、シラバスで定める方法によって、単位認定を行います。
- (2) これらの適切に配置された科目を修得し、「卒業研究」に取り組むことによって、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた資質・能力等を兼ね備えた人材を育成します。

■入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

(1) 入学者受入れの方針

自然科学に対する強い興味と、人間や社会に対する幅広い関心をもち、工学を学ぶために十分な基礎学力を有するとともに、現代社会で直面する諸問題に果敢に挑戦し、それぞれの専門分野でグローバルなリーダーとして、社会に貢献し続ける意欲を有する人材を求めています。

(2) 一般選抜の基本方針

入学者受入れの方針にしたがって、特に、工学を学ぶための基礎学力と素養を持った意欲のある人材を選抜します。具体的には、大学入学共通テスト、個別学力検査、調査書により、各学科において基礎的な学力を評価し、選抜します。

農学部の教育を支える3つの方針

■卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

農学部は、以下に示す資質・能力等を備え、卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学位を授与します。

「農学領域における科学的知識と基礎的技術および豊かな教養を有し、自発的、継続的に学ぶことができる」

「生物に対する深い理解と論理的思考力に裏付けられた総合的判断力をもって、将来を切り拓いていくことができる」

（2）卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

全学教育科目、学部専門基礎科目、卒業論文研究を含む学部専門科目について所定の単位を修得した者に対して、農学の学術分野における資質や能力が育成されたものと総合的に判断し、学士の学位を授けます。卒業に必要な単位数は、全学教育科目49単位、専門基礎科目40単位、専門科目45単位の計134単位です。

■教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

農学部は、“食・環境・健康”に関して多様な視点から問題を発見・解決できる力を養うとともに、大学院教育との連携や社会からの要請に応えるために、以下の教育プログラムを実施しています。

- （1）基礎学力の養成：1・2年次では、あらゆる学問分野の基礎となる全学教育科目を履修して、基礎学力を養成します。
- （2）農学領域における基礎知識と関連する技術の習得：1・2年次では、3学科に共通して必要な生物系・化学系・数物系の基礎科目、“食・環境・健康”に関わる課題認識のための基礎科目「生命農学序説」を履修して、基礎知識を習得します。
- （3）自発的、継続的に学ぶ能力の習得：科学・技術・社会に対する視野を広げるとともに、今後の学修の方向性や取り組み方を考えます（「生命農学序説」「生命と技術の倫理」など）。また、科学英語の読解能力、プレゼンテーション能力、課題解決能力の向上を目指します（「農学セミナー」など）。
- （4）課題を見出し、学んだ知識や技術を応用して解決する能力の習得：3・4年次では、様々な学問領域につながる専門科目の講義と実験実習、また専門横断的科目（「フードシステム論」など）や各種資格の取得に必要な科目を履修し、生物のもつ機能の多面的な利用と技術開発に関する方法論や専門知識を学びます。
- （5）グローバルな視野をもって行動し、社会に貢献できる人材の養成：各学科の実習、研修、講義を通じて農学領域における国内外の諸問題を発見・解析・探求する能力を養います（「海外実地研修」など）。
- （6）卒業論文研究：4年次を各専門分野に対応した専門教育の期間と位置付け、学生が研究室に所属して、学生が主体となって卒業研究に取り組み、最先端研究の一端を担うことで、高度な専門知識と課題解決方法を習得します。

（1）～（4）の「全学教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」「関連専門科目」では、主に定期試験やレポート課題で評価します。（5）グローバルな視野をもって行動し、社会に貢献できる人材を養成する科目では、主に口頭発表や平常点で評価します。

各科目の学習成果は、全学統一の成績評価基準に準拠して評価し、シラバスで定める方法によって、単位認定を行います。

これらの適切に配置された科目を修得し、「卒業論文」に取り組むことによって、ディプロマ・ポリシーで掲げた資質・能力等を兼ね備えた人材を育成します。

■ 入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）**（1）入学者受入れの方針**

「食・環境・健康」に関わる学問を探究するために必要な基礎的学力を有し、それぞれの専門分野で指導者や専門家として知識と技術を社会に役立てようという志をもつ人材を求めています。

（2）一般選抜の基本方針

一般選抜においては、理科にやや重点を置き、大学入学共通テスト（5教科7科目）とともに、国語・数学・理科・外国語の個別学力検査を課します。基礎知識・理解力・論理的思考力・応用力などを総合的に評価し、選抜します。

I 募集人員

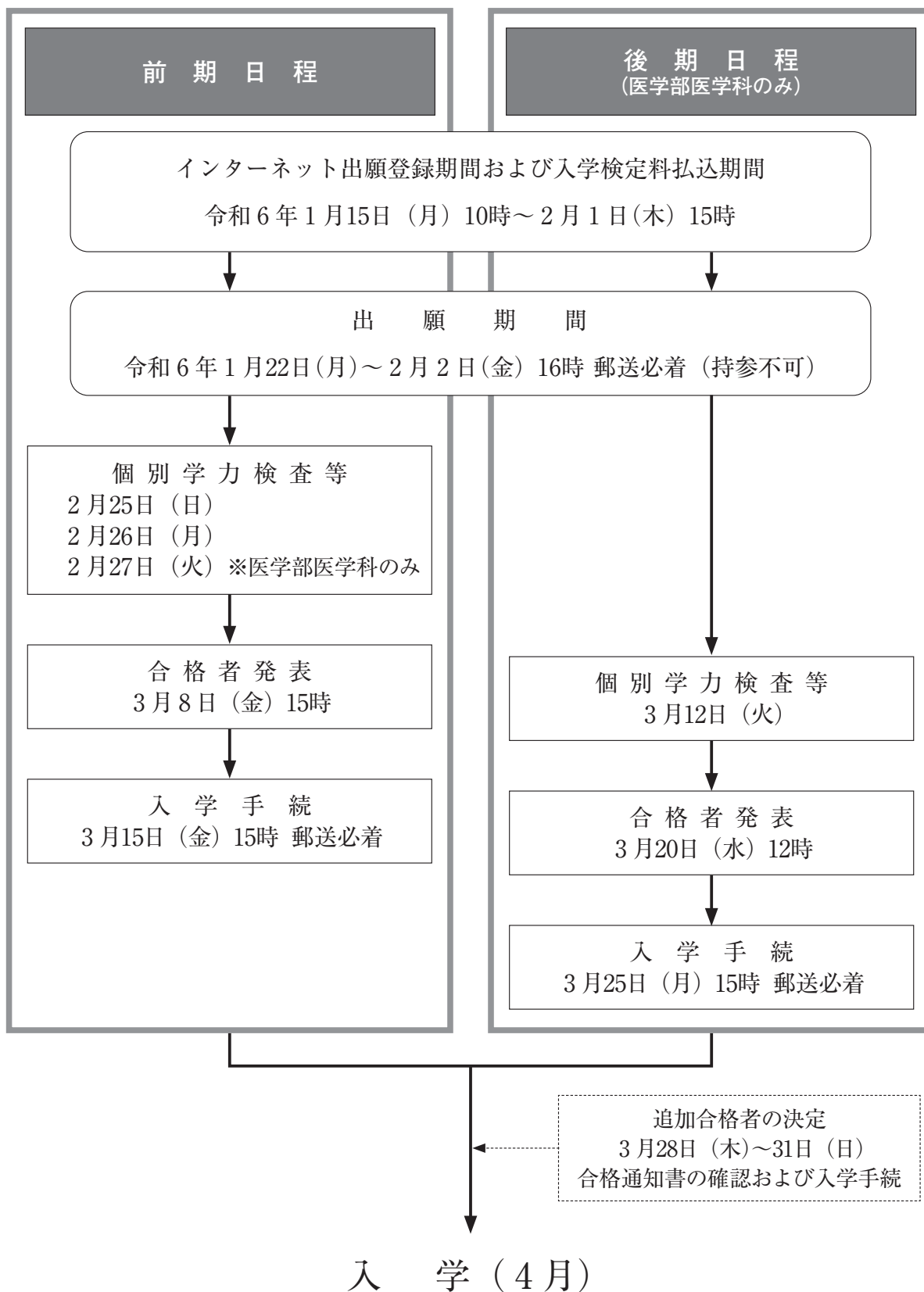
一般選抜は、分離分割方式による前期日程（全学部）、後期日程（医学部医学科）で試験を実施し、次の定員で募集します。

学部・学科等		入学定員	募集人員		その他の入試 (学校推薦型選抜)	
			前期日程	後期日程		
文 学 部		125	110		15	
教 育 学 部		65	55		10	
法 学 部		150	105		45	
経 済 学 部		205	165		40	
情 報 学 部	自 然 情 報 学 科	38	30		8	
	人 間 ・ 社 会 情 報 学 科	38	30		8	
	コ ン ピ ュ ー タ 科 学 科	59	53		6	
	小 計	135	113		22	
理 学 部		270	220		50	
医 学 部	医 学 科	一 般 枠	85	5	12	
		地 域 枠	5			
	保 健 学 科	看 護 学 専 攻	80	45		35
		放 射 線 技 術 科 学 専 攻	40	30		10
		検 査 技 術 科 学 専 攻	40	25		15
		理 学 療 法 学 専 攻	20	13		7
		作 業 療 法 学 専 攻	20	13		7
		計	200	126		74
	小 計	307	216	5	86	
工 学 部	化 学 生 命 工 学 科	99	90		9	
	物 理 工 学 科	83	75		8	
	マ テ リ ア ル 工 学 科	110	99		11	
	電 気 電 子 情 報 工 学 科	118	106		6 女子枠 6	
	機 械 ・ 航 空 宇 宙 工 学 科	150	135		15	
	エ ネ ル ギ ー 理 工 学 科	40	34		3 女子枠 3	
	環 境 土 木 ・ 建 築 学 科	80	72		環境土木工学プログラム 4 建築学プログラム 4	
		小 計	680	611		69
農 学 部	生 物 環 境 科 学 科	35	27		8	
	資 源 生 物 科 学 科	55	43		12	
	応 用 生 命 科 学 科	80	66		14	
		小 計	170	136		34
合 計		2,107	1,731	5	371	

- 【注】 1. 入学定員には、「私費外国人留学生入試」および「国際プログラム群学部学生入試」の募集人員（若干名）を含みます。
2. 文学部のその他入試（学校推薦型選抜）については、出願の受付が終了しています。
3. その他の入試（学校推薦型選抜）において入学手続き者が募集人員に達しない場合には、その欠員分は「一般選抜」の募集人員に加えます。
4. その他の入試（学校推薦型選抜）は、「女子枠」と記載があるもの以外については、一般枠の選抜として取り扱います。

Ⅱ 出願手続から入学までの日程

●追試験は実施しません。



Ⅲ 入学者選抜

1. 出願資格

本学の一般選抜に出願することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者で、令和6年度大学入学共通テストで本学が指定した教科・科目（23～25ページ「2. 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目」参照）を受験した者としてします。

- 1 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和6年3月卒業見込みの者
- 2 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和6年3月修了見込みの者
- 3 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び令和6年3月31日までにこれに該当する見込みの者

これらの者は、次のとおりです。

ア 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び令和6年3月31日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

イ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び令和6年3月31日までに修了見込みの者

ウ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和6年3月31日までに修了見込みの者

エ 文部科学大臣の指定した者

オ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規定による大学入学資格検定に合格した者を含む。）及び令和6年3月31日までに合格見込みの者で、令和6年3月31日までに18歳に達する者

カ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和6年3月31日までに18歳に達する者

【注】 上記出願資格3のカにより出願する者は、個別の入学資格審査が必要となります。令和6年度大学入学共通テスト出願の際、他大学の入学資格審査を受けた者で、その後、本学に志望変更する者については、下記の申請期間に申請してください。なお、審査対象、申請手続等の詳細については、以下で確認してください。

名古屋大学受験生応援サイト → <https://www.nagoya-u.ac.jp/admissions/exam/us-exam/review/>
〔入試情報を知りたい(学部入試)〕

<申請期間> 令和6年1月15日(月)～1月19日(金)17時必着

医学部医学科前期日程（地域枠）の出願要件

医学部医学科前期日程（地域枠）を第1志望として出願することができる者は、上記の出願資格を有し、かつ、以下の要件のいずれかを満たす者としてします。

1. 入学志願者の出身高等学校又は中等教育学校が愛知県内であること
2. 入学志願者本人又は入学志願者の保護者の現住所が出願時に愛知県内であること

※前期日程（地域枠）については、28ページを参照してください。

2. 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目

一般選抜に出願することができる者は、「令和6年度大学入学共通テスト」の教科・科目のうち、各学部（学科）が指定した下記の教科・科目を受験した者に限ります。一つでも受験しなかった場合には、出願できません。受験を要する教科・科目は、志願する学部（学科）により異なっていますので十分に注意してください。本学では、大学入学共通テストの成績の複数年度利用は行いません。

出願前には、志願者自身で志願する学部（学科）の受験科目を下表でチェックし、本学の出願資格を満たしていることを必ず確認したうえで、出願するようにしてください。

医学部医学科前期日程（地域枠）については、出願資格および22ページの出願要件も確認してください。

大学入学共通テストの受験を要する教科・科目確認表

■文学部，法学部，経済学部，情報学部（人間・社会情報学科）

[5教科8科目又は6教科8科目]

教科	科目	確認欄
国語	国語	
地理歴史・公民	世界史B，日本史B，地理B，「倫理，政治・経済」から2	
数学	数学Ⅰ・数学A	注1)
	数学Ⅱ・数学B，簿記・会計，情報関係基礎 から1	
理科	物理基礎，化学基礎，生物基礎，地学基礎 から2	注2)
外国語	英語，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語 から1	注3)

■教育学部

[5教科7～8科目又は6教科7～8科目]

教科	科目	確認欄
国語	国語	
地理歴史・公民	世界史B，日本史B，地理B，「倫理，政治・経済」から1又は2	注5)
理科	物理基礎，化学基礎，生物基礎，地学基礎，物理，化学，生物，地学から1又は2（ただし，基礎を付した科目×2科目で1とする。）	
数学	数学Ⅰ・数学A	注1)
	数学Ⅱ・数学B，簿記・会計，情報関係基礎 から1	
外国語	英語，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語 から1	注3)

■情報学部（自然情報学科），農学部

[5教科7科目]

教科	科目	確認欄
国語	国語	
地理歴史・公民	世界史B，日本史B，地理B，「倫理，政治・経済」から1	注4)
数学	数学Ⅰ・数学A	注1)
	数学Ⅱ・数学B，簿記・会計，情報関係基礎 から1	
理科	物理，化学，生物，地学 から2	
外国語	英語，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語 から1	注3)

■情報学部（コンピュータ科学科）

[5 教科 7 科目]

教科	科目	確認欄
国 語	国語	
地理歴史・公民	世界史B, 日本史B, 地理B, 「倫理, 政治・経済」から 1	注 4)
数 学	数学 I ・ 数学 A	
	数学 II ・ 数学 B, 簿記・会計, 情報関係基礎 から 1	注 1)
理 科	物理	
	化学, 生物, 地学 から 1	
外 国 語	英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語 から 1	注 3)

■理学部

[5 教科 7 科目]

教科	科目	確認欄
国 語	国語	
地理歴史・公民	世界史B, 日本史B, 地理B, 「倫理, 政治・経済」から 1	注 4)
数 学	数学 I ・ 数学 A	
	数学 II ・ 数学 B, 簿記・会計, 情報関係基礎 から 1	注 1)
理 科	物理, 化学, 生物, 地学 から 2 (ただし, 物理, 化学のいずれかを含むこと。)	
外 国 語	英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語 から 1	注 3)

■医学部（医学科, 保健学科）

[5 教科 7 科目]

教科	科目	確認欄
国 語	国語	
地理歴史・公民	世界史B, 日本史B, 地理B, 「倫理, 政治・経済」から 1	注 4)
数 学	数学 I ・ 数学 A	
	数学 II ・ 数学 B, 簿記・会計, 情報関係基礎 から 1	注 1)
理 科	物理, 化学, 生物 から 2	
外 国 語	英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語 から 1	注 3)

■工学部

[5 教科 7 科目]

教科	科目	確認欄
国 語	国語	
地理歴史・公民	世界史B, 日本史B, 地理B, 「倫理, 政治・経済」から 1	注 4)
数 学	数学 I ・ 数学 A	
	数学 II ・ 数学 B, 簿記・会計, 情報関係基礎 から 1	注 1)
理 科	物理	
	化学	
外 国 語	英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語 から 1	注 3)

注1)「数学」において、「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校の普通科・理数科系を除く学科において、これらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。

なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目（社会と情報・情報の科学等）を履修した者は該当しません。

注2)「理科」において、基礎を付した4科目のうちから2科目と基礎を付していない4科目のうちから1科目を選択した場合には、基礎を付した2科目の成績を用います。（ただし、教育学部については、注5）を参照のこと）

なお、基礎を付した科目を2科目とも選択せずに、基礎を付していない科目から1科目を選択した場合も出願を認めることとし、基礎を付していない1科目（2科目選択した場合は、第1解答科目）の成績を用います。（ただし、教育学部については、注5）を参照のこと）

「理科」における基礎を付した科目とは物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎を示します。

「理科」における基礎を付していない科目とは物理、化学、生物、地学を示します。

注3)「外国語」の「英語」を選択した場合には、リスニングテストを全学部で課します。

注4)「地理歴史」及び「公民」において、指定した教科・科目数を超えて受験した場合には第1解答科目の成績を用います。

なお、第1解答科目が指定した科目でない場合には、出願することができません。

注5)教育学部における「地理歴史」及び「公民」と「理科」の選択については、以下のとおりとします。ただし、「理科」において基礎を付した科目×2科目で1（科目）として扱います。

「理科」は同一名称を付した科目の組み合わせ（「物理基礎、化学基礎」と「物理」など）はできません。この組み合わせで受験した場合は、基礎を付した科目と基礎を付していない科目のうちから高得点の1科目のみを有効とします。

「地理歴史」及び「公民」と「理科」をそれぞれ2科目受験し、いずれも有効な場合は、「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目に加えて、以下に示す2科目の計3科目を採用します。

- ・「理科」において基礎を付した科目を受験した場合は、「理科」の2科目と、「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目のうちから高得点の2科目を採用します。
- ・「理科」において基礎を付した科目を受験しなかった場合は、理科の第1解答科目に加えて、「理科」と「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目のうちから高得点の1科目を採用します。

3. 併願に関する留意事項

(1) 本学学部間の併願

本学では、「前期日程」で試験を実施する全学部と「後期日程」で試験を実施する医学部医学科との併願を認めます。

(2) 他大学との併願

本学の「前期日程」に出願する者は、他の国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。以下同じ）の「前期日程」には出願することができません。また、本学の「後期日程」に出願する場合も他の国公立大学・学部の「後期日程」には出願することができません。

※公立大学協会ホームページ (<https://www.kodaikyo.org/nyushi>) 参照

(3) 学校推薦型選抜及び一般選抜における併願受験の「合格者」の取扱い

- ①本学及びすべての国公立大学・学部の学校推薦型選抜または総合型選抜の合格者は、当該選抜を実施する大学の定める手続により入学辞退の許可を得ている場合を除き、本学の一般選抜を受験しても、その合格者とはなりません。
- ②「前期日程」の試験に合格し、当該大学の定める期日までに入学手続を行った者は、「後期日程」又は「中期日程」の試験を受験しても、その合格者とはなりません。

4. 受験上の配慮を必要とする者の出願

病気・負傷や障害のある者等で、受験上の配慮を必要とする者は、出願に先立ち、あらかじめ以下の申請をしてください。

(1) 申請の提出期限

令和5年12月15日(金)まで

※提出期限以降に、不慮の事故等で申請が必要となった場合は、できるだけ早く入学試験事務室へ連絡してください。

(2) 申請方法

以下の3点の書類を郵送で提出してください。なお、必要に応じて、本学において志願者またはその立場を代弁し得る出身学校関係者との面談等を行います。

- ①病気・負傷や障害等の状況及び受験上の配慮を希望する事項等を記載したもの(様式1)
- ②病気・負傷や障害等に関する医師の診断書、障害者手帳等(写し可)
- ③出身学校関係者の添書(様式2)

※①と③の様式は、以下の本学の受験生応援サイト〔入試情報を知りたい(学部入試 → 一般選抜)〕よりダウンロードして使用ください。

<https://www.nagoya-u.ac.jp/admissions/exam/us-exam/cat/>

なお、大学入学共通テストの受験に際して受験上の配慮を受ける者は、大学入試センターから交付される「受験上の配慮事項決定通知書」の写しを添付して申請ください。

(3) 申請先・相談先(80ページ〔問い合わせ先〕と最終ページ下部を参照)

- 受験上の配慮に関する申請 : 入学試験事務室
- 入学後の修学に関する事前相談: アビリティ支援センター

(4) 出願時

申請後、本学から交付される「配慮事項決定通知書」の写しを、出願時に他の出願書類と一緒に提出してください。

提出期限後の申請については、受験上の配慮が講じられないこともありますので、なるべく早く提出願います。なお、出願までに「配慮事項決定通知書」が手元に届いていない場合は、入学試験事務室へ電話あるいはメールで《お名前・申請日・申請概要・「配慮事項決定通知書」が届いていない旨》を連絡してください。

5. 入学者選抜方法等

本学の一般選抜における入学者選抜では、大学入学共通テストとともに個別学力検査を重視し、これら二つの試験を通して、基礎知識、理解力、論理的思考力、論述能力、構成力、計算能力、応用力などを問います。

〔前期日程〕

選抜方法: 大学入学共通テスト、個別学力検査、調査書、志願理由書(医学部医学科のみ)および面接(医学部医学科のみ)により総合的に行います。なお、医学部医学科は面接の結果によっては、その他の成績にかかわらず、不合格となる場合があります。また、医学部医学科では、愛知県内の地域医療を担う人材の育成を目指す者の選抜(地域枠)も行います。(28ページ参照)

実施学部: 全学部

〔後期日程〕

選抜方法：大学入学共通テスト、志願理由書、調査書および面接により総合的に行います。

実施学部・学科：医学部医学科

- ①文学部、教育学部、法学部、経済学部および理学部は学部全体として募集し、合格者を決定します。
- ②情報学部、工学部および農学部は学科別に募集し、合格者を決定します。
- ③医学部では、医学科は学科で募集し、保健学科は専攻別に募集し、合格者を決定します。
- ④医学部医学科では、地域枠を第1志望の志願者のみ、一般枠を第2志望として志願することを認めます。
- ⑤医学部保健学科では、第2志望専攻までの志願を認めます。ただし、保健学科の各専攻は、それぞれ教育内容に特徴があることを十分考慮してください。
選抜に当たっては、各専攻の募集人員の8割程度については、第1志望の志願者を対象に行います。
そのうえで、2割程度については、第1志望および第2志望の志願者を対象に行います。
- ⑥工学部および農学部では第2志望学科までの志願を認めます。

(1) 大学入学共通テスト及び個別学力検査の配点

大学入学共通テスト及び個別学力検査の配点は、36～37ページに記載のとおり取り扱います。

(2) 高得点者選抜

前期日程試験の合格者の決定に当たっては、工学部では大学入学共通テストおよび個別学力検査の高得点者選抜を、農学部では個別学力検査の高得点者選抜を下記のとおり行います。

〔工学部〕

○大学入学共通テストの高得点者選抜

各学科の前期日程募集人員の10%を限度として、個別学力検査の成績が定められた基準を上回る者について、第1志望学科に限り、大学入学共通テストの成績によって選抜を行います。

○個別学力検査の高得点者選抜

各学科の前期日程募集人員の10%を限度として、第1志望学科に限り、大学入学共通テストの成績にかかわらず、個別学力検査の成績によって選抜を行います。

〔農学部〕

○個別学力検査の高得点者選抜

合格者の決定に当たっては、個別学力検査の高得点者について第1志望学科に限り、各学科の前期日程募集人員の20%を限度として大学入学共通テストの成績にかかわらず、個別学力検査の成績によって選抜を行います。

(3) 2段階選抜

医学部医学科のみ2段階選抜を実施します。

▶前期日程：大学入学共通テストの成績が900点満点中600点以上の者を第1段階選抜の合格者とし、

▶後期日程：募集人員（5名）の約12倍までの者を、大学入学共通テストの成績に基づいて第1段階選抜の合格者とし、

第1段階選抜の合格者に対しては、〔第1段階選抜の合格通知と受験票（圧着ハガキ1枚）〕を、不合格者に対しては〔不合格通知〕を、大学から発送することによりお知らせします。

<発送時期> 前期日程：令和6年2月9日(金)以降

後期日程：令和6年2月29日(木)以降

6. 医学部医学科の前期日程（地域枠）について

国の施策に基づき、本学医学部医学科の前期日程試験において、愛知県内の地域医療を担う人材を育成することを目的とした募集（地域枠）を行います。

本選抜は、22ページの出願要件を満たす者で、医学部卒業後に愛知県内の地域医療に従事しようとする強い意欲を持つ者とします。これには、愛知県出身または県内在住の高校既卒者等も志願することができます。

本選抜で入学した者は、愛知県から月額15万円程度の（注1）奨学金貸与を受けることが必須となります。また、卒業後は、愛知県内の基幹型臨床研修病院のプログラムに基づく2年間の研修と、愛知県が指定する（注2）公的医療機関における7年間の勤務とを合わせて9年間の地域医療に従事することを義務としています。また、愛知県では義務年限等に関する取扱いを規定した（注3）「キャリア形成プログラム」を策定しており、このプログラムに参加する必要があります。

さらにカリキュラムについては、正規カリキュラムの一部科目の履修指定及び課外学習から構成される「地域医療に関するカリキュラム」の履修を義務付けています。正規カリキュラムにおいては、3年次の基礎医学セミナーや4年次の選択講義等で、地域医療教育学講座が担当する授業の選択が必須となります。また、課外実習として、地域医療セミナー（年6回程度開催）や愛知県主催の研修会への参加も義務付けられています。

なお、「地域医療に関するカリキュラム」は年度ごとに見直されるため、カリキュラム・課外学習等の変更があり得ます。

また、前期日程（地域枠）の志願者は、出願時に、（注4）愛知県地域医療確保修学資金貸与条例に定める第8条「返還の債務の当然免除」要件と第10条「返還」（修学資金の返還）要件等への「同意書」の提出が必須です。

（注1）「愛知県地域医療確保修学資金」については、

〔URL：<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/imu/chiikiwaku.html>〕に掲載されています。

（注2）愛知県内の医師の確保が困難な地域に所在する公的医療機関及び社会医療法人が開設する医療機関のうち、知事が指定する医療機関で、「地域の中核病院」などを想定しています。

（注3）「キャリア形成プログラム」については、

〔URL：<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/imu/kyariakeisei.html>〕に掲載されています。

（注4）「愛知県地域医療確保修学資金貸与条例」については、

〔URL：<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/imu/0000083900.html>〕に掲載されています。

【卒業後の勤務パターン（一例）】

下表により卒業後の勤務パターンの一例を示します。

大学1年生	大学6年生			
在学期間 6年間	県内で 臨床研修 (2年間)	知事の承認を受けて 専門医(後期)研修 (3~4年以内) [うち2年間で 義務年限に算入(※)]	県の指定する 公的医療機関に 勤務① (2年間)	県の指定する 公的医療機関に 勤務② (3年間)

※県内の公的医療機関、社会医療法人が開設する医療機関、大学病院を基幹施設とするプログラムによる専門医研修の場合は、2年間で義務年限に算入できます。
また、専門研修期間中に知事の指定する医療機関での研修期間があった場合は、2年間を超えて義務年限に算入できます。

このほかに、専門研修の開始時期は、本人の希望により柔軟に対応できます。例えば、臨床研修修了後、県の指定する公的医療機関に2年間勤務した後に、専門研修を経て、県の指定する公的医療機関等に勤務することも可能です。

7. 個別学力検査 期日・時間

(1) 前期日程

学部・学科		2月25日(日)		2月26日(月)		2月27日(火)			
		教科等	時間	教科等	時間	教科等	時間		
文学部		外国語 地理歴史	10:00~11:45 13:45~15:15	数学 国語	10:00~11:30 14:10~15:55	実施しません			
教育学部		外国語	10:00~11:45	数学 国語	10:00~11:30 14:10~15:55				
法学部		外国語 小論文	10:00~11:45 13:45~15:15	数学	10:00~11:30				
経済学部		外国語	10:00~11:45	数学 国語	10:00~11:30 14:10~15:55				
情報学部	自然情報学科	外国語 理科	10:00~11:45 13:45~15:00	数学	10:00~12:30				
	人間・社会 情報学科	外国語 地理歴史(選択)	10:00~11:45 13:45~15:15	数学 (選択)	10:00~11:30				
	コンピュータ 科学科	外国語 理科	10:00~11:45 13:45~16:15	数学	10:00~12:30				
理学部		外国語 理科	10:00~11:45 13:45~16:15	数学 国語	10:00~12:30 14:10~14:55				
医学部	医学科	外国語 理科	10:00~11:45 13:45~16:15	数学 国語	10:00~12:30 14:10~14:55			面接	8:20 入室開始 16:30頃終了予定
	保健学科	外国語 理科	10:00~11:45 13:45~16:15	数学 国語	10:00~12:30 14:10~14:55			実施しません	
工学部		外国語 理科	10:00~11:45 13:45~16:15	数学	10:00~12:30				
農学部		外国語 理科	10:00~11:45 13:45~16:15	数学 国語	10:00~12:30 14:10~14:55				

【注】情報学部人間・社会情報学科は、「地理歴史」または「数学」のうち、出願時に選択した1教科を受験しなければなりません。

(2) 後期日程

学部・学科	3月12日(火)	
	教科等	時間
医学部医学科	面接	8:20 入室開始 16:30頃終了予定

8. 個別学力検査 試験場

(1) 個別学力検査試験場（77～78ページ参照）

個別学力検査は、下表の試験場で実施する予定です。出願状況によって、これ以外の試験場に変更する場合は、本学の受験生応援サイト（→入試に関するお知らせ）でお知らせします。なお、前期日程（筆記試験）の各学部の試験場（建物）は、試験日の一週間ほど前に、受験生応援サイトへ掲載します。

各試験場とも自動車、バイク等での入構はできませんので、公共交通機関等をご利用ください。また、感染症予防として、介助等の必要な場合を除いて付き添い人の構内への入場を原則禁止していますので、ご理解をお願いします。

ア 前期日程（筆記試験）

学部・学科	試 験 場
文 学 部 教 育 学 部 法 学 部 経 済 学 部 情 報 学 部 理 学 部 医学部 医学科 工 学 部 農 学 部	名古屋大学東山地区試験場 名古屋市千種区不老町 電話（052）789-5765 地下鉄名城線「名古屋大学」駅下車すぐ
医学部 保健学科	名古屋大学大幸地区試験場 名古屋市東区大幸南1-1-20 電話（052）719-1518・1521 ①地下鉄名城線利用の場合 ・「ナゴヤドーム前矢田」駅下車（1番出口） 徒歩約10分 ・「砂田橋」駅下車（1番出口） 徒歩約10分 ②JR中央本線又は名鉄瀬戸線利用の場合 ・「大曾根」駅から市バス砂田橋行（名駅15） 「大幸三丁目」下車すぐ ・「大曾根」駅からガイドウェイバス・ゆとりーとライン 「ナゴヤドーム前矢田」駅下車 徒歩約7分

イ 前期日程（面接）

学部・学科	試 験 場
医学部 医学科	名古屋大学鶴舞地区試験場 名古屋市昭和区鶴舞町65 電話（052）744-2430 ①地下鉄鶴舞線利用の場合 ・「鶴舞」駅下車（4番出口） 徒歩約8分 ②JR中央本線利用の場合 ・「鶴舞」駅下車（名大病院口） 徒歩約3分

ウ 後期日程（面接）

学部・学科	試 験 場
医学部 医学科	名古屋大学鶴舞地区試験場 名古屋市昭和区鶴舞町65 電話（052）744-2430 ①地下鉄鶴舞線利用の場合 ・「鶴舞」駅下車（4番出口） 徒歩約8分 ②JR中央本線利用の場合 ・「鶴舞」駅下車（名大病院口） 徒歩約3分

(2) 試験場下見

下記の日時に、各学部の試験場にて試験室の案内などを掲示します。(建物内への入場はできません)
 試験室の案内などは、建物の入口(建物外あるいは建物外から見られる場所)に設置しますので、
 下記の日時以降でも確認できます。

ア 前期日程(東山地区試験場, 鶴舞地区試験場, 大幸地区試験場)

令和6年2月22日(木)14時から18時まで

イ 後期日程(鶴舞地区試験場)

令和6年3月11日(月)14時から16時まで

9. 個別学力検査 実施教科・科目

各学部(学科)が指定するすべての教科・科目等を受験しなければなりません。

学部・学科等		教科・科目等		
文 学 部	前期日程	国 語 地理歴史 数 学 外 国 語	国語総合・現代文B・古典B 世界史B, 日本史B, 地理Bから1科目選択 数学I・数学II・数学A・数学B 英語	
	前期日程	国 語 数 学 外 国 語	国語総合・現代文B・古典B 数学I・数学II・数学A・数学B 英語	
法 学 部	前期日程	数 学 外 国 語 小 論 文	数学I・数学II・数学A・数学B 英語 高等学校の地理歴史, 公民の学習を前提とします。	
	前期日程	国 語 数 学 外 国 語	国語総合・現代文B・古典B 数学I・数学II・数学A・数学B 英語	
情 報 学 部	自然情報学科	前期日程	数 学 理 科 外 国 語	数学I・数学II・数学III・数学A・数学B 物理基礎・物理, 化学基礎・化学, 生物基礎・生物, 地学基礎・地学から1科目選択 英語
		前期日程	地理歴史 数 学 外 国 語	世界史B, 日本史B, 地理B 数学I・数学II・数学A・数学B } から1科目選択 英語
	コンピュータ科学科	前期日程	数 学 理 科 外 国 語	数学I・数学II・数学III・数学A・数学B 物理基礎・物理, 化学基礎・化学, 生物基礎・生物, 地学基礎・地学から2科目選択 ただし, 物理基礎・物理を含むこと。 英語
理 学 部	前期日程	国 語 数 学 理 科	国語総合・現代文B(古文・漢文を除く。) 数学I・数学II・数学III・数学A・数学B 物理基礎・物理, 化学基礎・化学, 生物基礎・生物, 地学基礎・地学から2科目選択 ただし, 物理基礎・物理, 化学基礎・化学のいずれかを含むこと。	
		外 国 語	英語	

学部・学科等		教 科 ・ 科 目 等	
医 学 部	医 学 科	前期 日程	国 語 国語総合・現代文B（古文・漢文を除く。） 数 学 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B 理 科 物理基礎・物理，化学基礎・化学，生物基礎・生物から2科目選択 外 国 語 英語 面 接 ※医師あるいは医学研究者になるにふさわしい適性をみます。 また，地域枠においては，県内の地域医療を担う意欲をみます。
		後期 日程	面 接 ※大学入学共通テスト，志願理由書，調査書及び面接（英文の課題に基づいた口頭試問を含む。）により選抜します。
	保 健 学 科	前期 日程	国 語 国語総合・現代文B（古文・漢文を除く。） 数 学 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B 理 科 物理基礎・物理，化学基礎・化学，生物基礎・生物から2科目選択 外 国 語 英語
工 学 部		前期 日程	数 学 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B 理 科 物理基礎・物理と化学基礎・化学 外 国 語 英語
農 学 部		前期 日程	国 語 国語総合・現代文B（古文・漢文を除く。） 数 学 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B 理 科 物理基礎・物理，化学基礎・化学，生物基礎・生物から2科目選択 外 国 語 英語

【注】(1) 情報学部人間・社会情報学科の「地理歴史」と「数学」については，出願時に選択した受験教科を受験しなければなりません。試験当日，受験教科を変更して受験することはできません。

(2) 出題範囲等について

①「数学」

「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」は全範囲から出題し，「数学B」は「数列」，「ベクトル」から出題します。「数学」の試験については，試験室において公式集を配付します。

②「理科」

物理：「物理基礎・物理」は「物理基礎」，「物理」の全範囲から出題します。

化学：「化学基礎・化学」は「化学基礎」，「化学」の全範囲から出題します。

生物：「生物基礎・生物」は「生物基礎」，「生物」の全範囲から出題します。

地学：「地学基礎・地学」は「地学基礎」，「地学」の全範囲から出題します。

③「外国語」

英 語：「コミュニケーション英語Ⅰ」・「コミュニケーション英語Ⅱ」・「コミュニケーション英語Ⅲ」・「英語表現Ⅰ」・「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて出題します。

(3) 得点調整について

選択科目間で得点調整を行う場合があります。

10. 個別学力検査 実施教科・科目の出題方針

〔前期日程〕

教科・科目等		出題方針
国	語	<p>国語の問題は〈現代文〉1題、〈古文〉1題、〈漢文〉1題の計3題を出題します。(国語を課す学部のうち、理学部、医学部および農学部の志望者は〈現代文〉のみを解答することになります。) いずれも、国語に関する基礎知識を前提に、問題文の正確な読解力と思考力、そして解答をまとめる表現力を問います。</p> <p>〈現代文〉は、まず、問題文が正確に読み取れているかを問います。そのため、漢字の読み・書き取りについても、文脈を正確に理解していないと解けない問題も出題しています。設問は、記述式の問題が中心ですが、その設問に答えていくことで、問題文のより深い読解ができるように配慮しています。また、傍線部や空欄の前後だけではなく、文章全体を論理的に把握した上で、細部にも目を向けていくような読み方を求めています。解答にあたっては、与えられた字数内で的確に表現する力も測ります。</p> <p>〈古文〉は、まず、基本的な語彙・文法、和歌・俳句などについての知識、そして文学史などの基本的な知識が身につけていることが前提です。その上で、問題文の全体的な論旨の流れ、作者の心情、和歌・俳句などの解釈、比喩の意味などを理解することを求めます。さらに、解答にあたっては、限られた範囲の字数で適切に表現する能力についても測ります。</p> <p>〈漢文〉は、漢文を読み解く前提となる、基本的な重要語および句法(句形)を理解しているか、そして、文脈の中で適切に口語訳あるいは書き下しができるかを問います。その上で、問題文の読解にあたっては、文脈を正確に把握することはもちろん、その文章内の時代背景や思想、登場人物についても理解できているかを判断します。また、解答にあたっては、与えられた字数内で適切に表現する能力についても測ります。</p>
地	世界史	<p>世界史では、古代から現代までの世界の歴史事象について、高等学校までに学校教科書で学ぶ世界史の基礎知識を踏まえて、問題文と関連史資料を正確に理解し、設問に的確に答える力を判定します。また、論述問題では、これまでに修得した世界史の知識を踏まえて、制限字数の範囲内で設問に対する自分の考えを論理的にまとめる思考力と構成力を特に重視します。</p> <p>世界史が対象とする地域は多岐にわたっていますが、それらの地域の歴史について考えるにあたっては、常に私たちが暮らしている現代の社会がその出発点となります。しかし、このことは、決して時空間を遠く隔てた世界の歴史事象の軽視を正当化するものではありません。世界の歴史は時系列に沿って単純に展開するものではなく、そこにはその時々において繰り返し参照される過去があり、それが歴史の動態に様々な影響を及ぼしていることを見逃してはならないでしょう。また、複数の世界のあいだで行われた交易や戦争、あるいは思想の伝播などの複雑な異文化交渉がしばしば歴史の原動力となったことにも、注意が向けられなくてはなりません。これらのことは、教科書の静態的な叙述を漫然と読み流しているだけでは理解が難しいことかもしれませんが、歴史書、文学作品、映像、絵画や音楽などの芸術作品も手がかりとすることによって、世界各地の過去の人々の暮らしに対するイメージを膨らませながら、個々の歴史事象とその相互関係を理解するように努めてください。</p>
理	歴史	<p>日本史では、原始・古代から現代までを対象にして、高等学校までに学校教科書で学ぶ歴史・日本史・世界史の基礎知識を踏まえて、問題文を正確に読み解き、設問および関連資料をも活用しながら、与えられた制限字数の範囲内で的確な語句・文または文章で答案を作成する力を判定します。</p> <p>日本史が対象とする地域は「日本」ですが、その意味する範囲は時代によって広がったり縮んだりして変化します。そうした変化は、「日本」という地域内に生きた人々の営みや、「日本」を取り巻く周辺地域との人的・物的・文化的な様々な相互交渉によってもたらされてきました。「日本」を取り巻く周辺地域として分かりやすいのは、たとえば朝鮮半島や中国大陸といった「外国」でしょうが、日本史を教える立場からすれば、日本列島内部にもそうした周辺地域は存在します。また、そうした「日本」という地域の伸縮は、「日本」という概念にも変化を与えることとなりますから、現代における「日本」「日本人」「日本文化」について、相対的、批判的、多角的に考え直すことが必要となってきます。こうした様々な変化は学校教科書にも記述されていますが、少し意識しないと見過ごしてしまうかもしれません。時代や地域の変化に留意しながら、原始・古代から現代にいたる時代それぞれの歴史的事象を理解するよう努めてください。</p> <p>設問には歴史資料や図表などが添えられることがあります。それらは学校教科書に掲載されている資料・図表ばかりではありませんが、これまでに学習してきた日本史等の教科を通して身につけた知識を使うことによって読み解くことができるものばかりです。未知の資料・図表であっても、そうした既知の知識を活用して的確に判断できるよう求めるものです。そして、答案は一定の字数制限のもとで作成することとなりますから、筋道を立てて説明する論理的な文章を的確に整理して書くよう努めてください。</p>
	日本史	

教科・科目等		出題方針
地理歴史	地理	<p>地理では、現代世界にかかわる様々な地理的事象について、高等学校までに学校教科書で習得する〈系統地理〉、〈地誌〉の知識を踏まえて、問題文と図表を正確に読解し、的確な表現と適切な字数で設問に答える能力を判定します。</p> <p>〈系統地理〉は、自然地理学と人文地理学の二つに大別されます。前者においては、地震や火山、河川、氷河などによって形成される地形、気温や降水量、風といった要素の総合的な状態を扱う気候、気温や降水量と密接に関係する植生や土壌、さらには環境問題や災害などに代表される自然環境と人間生活との関わりを理解することが求められます。後者においては、現代世界における資源、農林水産業や工業、商業といった産業、人口分布やその変化、都市・村落の機能とそれらの変容、衣食住に代表される生活文化、民族・宗教に関する諸事象の空間的特徴とそれらが生起する要因について問います。〈地誌〉では、歴史や文化などを基礎とし、現代世界を構成する諸地域をさまざまな空間スケールで多面的・多角的に考察し、現代における多様な地域の今日的な特徴や課題を深く理解する能力が要求されます。</p> <p>地理の出題では、こうした〈系統地理〉と〈地誌〉に関する基本的な知識とともに、総合的な地域理解の基本ができていくかどうかを重視します。地表面における自然環境と人間活動を基本として、地理的事象にどのような空間的な規則性や傾向性がみられるのか、位置や距離、空間的な配置、時間変化に留意して、各種の地図や図表、写真などからそれらを読み取ることができるかどうかを問題にします。とくにさまざまな地理情報が表現されている地図の活用および読解能力は必須です。</p>
数学	数学	<p>数学では、答えを求めさせる問題以外に、証明問題も出題することがあります。いずれの場合も、解答の形式は、いわゆる論述形式であり、答えを求めさせる問題の場合でも、答えの導出にいたるまでの道筋を記述させて評価対象とします。これにより、高校までに学習する数学の基礎に対する理解を前提とし、名古屋大学での学習に必要な数学的能力が十分に身に付いているかを評価します。問題の趣旨を的確に把握する理解力はもちろんのこと、与えられた前提条件から結論にいたるまでの解答の筋道を組み立てる論理的思考力や、必要な計算をこなして結果を導く計算力、限られたスペースに解答を筋道だった文章で的確にまとめる表現力を測ります。さらに、数学的知識の系統的な理解を必要とする分野融合問題の出題などを通じて、数学の応用力も測ります。これらの能力は互いに独立ではなく、例えば適切な計算量によって計算結果を導くには、計算も予測を持って行う必要があり、論理的に考える力が必要になります。また、それぞれの問題がいくつかの小問から成る場合は、小問の間の関連性を捉えることが求められ、理解力に留まらず、論理的思考力や直観力が問われます。この意味で、数学の能力は総合的に測られるべきものであり、総合的な数学力を測ることのできる問題を出題するようにしています。なお、文系と理系では、出題範囲・試験時間・問題数は異なりますが、出題方針は同じです。</p>
物理	物理	<p>物理では、「物理基礎」および「物理」の範囲から出題します。高等学校の物理では、目的意識をもって観察・実験を行うことを通じて、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、体系化された知識に基づいて自然の事物・現象を分析的かつ総合的に考察する能力を身につけることを目標としています。物理学の基礎知識や考え方は、「力と運動」、「熱とエネルギー」、「波」、「電気と磁力」といった様々な概念や原理・法則を系統的に理解するために必須のもので、これらの十分な修得が必要です。</p> <p>出題では、物理学に関する基本的事項の理解度と物理学的な考察力・探求する能力を見るために、本学が指定する出題範囲から、なるべく分野的な偏りがないようにします。出題にあたっては、物理法則や関係式などの知識や最終的な答を問うだけでなく、そこに至る過程を論理的に述べる記述式問題も出題し、物理的な知識、思考力、理解力、計算力、論証力を総合的に評価します。</p>
化学	化学	<p>化学では、「化学基礎」および「化学」の範囲から出題します。高等学校の化学では、原子・分子と化学結合に関する正しい理解に基づいて、物質の性質や変化についての基本的な概念や原理・法則の理解を深めることを目標としています。自然界に存在する物質、生物体を形成し生体内で働く物質、人間生活を支える目的で作り出された物質、環境問題や持続性に関連する物質などについての幅広い知識を論理的に組み合わせ活用する能力、またそれらを観察や実験を通して得られた知見と結び付けて活用する能力が必要です。</p> <p>出題では、「無機化学分野」、「有機化学分野」、「理論化学分野」などの枠にとらわれず、教科書の発展的内容なども出題するなど、各分野にわたった総合的な内容を重視します。化学反応式や数式で表された物質やエネルギーの状態や変化を理解し予測する力、観察・実験結果を物質の性質や変化に関する原理や法則と結びつける力、グラフ・図・化学構造式などの含まれる化学的な情報を読み解く力、実験結果などの図表として記述する力、観察・実験の目的と試薬・器具・条件・手順などとの関連を理解する力、解答に至る過程を論理的に記述する力、などを評価します。</p>

教科・科目等		出題方針
理科	生物	<p>生物では、「生物基礎」および「生物」の範囲から出題します。高等学校の生物では、大学で学ぶ生物学だけでなく、農学、医学、創薬学、環境学など広範なライフサイエンス分野全般の基礎を身につけることを目標としています。生物学で取り扱う空間的スケールは、原子・分子レベルのミクロの事象から、細胞、個体を経て、生態レベルのマクロな事象まで幅広く、時間的スケールも「一瞬」から数十億年にも及びます。結果として、生物は理科の中では教科書の情報量が最も多く、とすると暗記科目とみなされがちですが、生命現象の基本原則を理解することが必要です。</p> <p>出題では、生命体の構造、物質代謝、生理、遺伝など、生命現象の根幹に関する基礎知識や理解を幅広く問いますが、各論的な事象に関する知識のみを問う問題を中心に据えることはありません。「観察に基づいて検証可能な仮説を立て、実験的に検証する」という自然科学の普遍的な方法論は生物学においても不可欠です。したがって、複雑な生命現象を注意深く観察する力、実験を組み立てる力、データを正しく読み取り分析する力、生命現象の背景にある物質的基盤やメカニズムを論理的に洞察し、論述する力、を評価します。</p>
	地学	<p>地学では、「地学基礎」および「地学」の範囲から出題します。高等学校の地学では、宇宙から地球、さらに地球を構成する原石中の鉱物に至るまでの幅広い空間スケールの対象を学びます。また時間スケールも、宇宙や地球の進化から私たちが日常的に接している気象現象まで、広い範囲の対象を学ぶことを目標としています。こうした様々な対象を扱う分野についての基礎知識の理解度とそれに基づいた考察力を身につけることが必要です。</p> <p>出題では、教科書の発展的内容に相当することや、環境問題や自然災害などの最近の話題に関することも出題するなど、地学の各分野の基礎知識だけでなく、分野をまたいだ総合的な内容を重視します。解答を通じて、地学に関する基礎知識の理解度、図表が示す情報を読み解く力、式の組み立てや計算などを通じて定量的に考察できる能力、与えられた情報や得られた結果に対する総合的な思考力、結果や考察を論理的に説明・記述する能力などを評価します。</p>
英語		<p>名古屋大学の英語教育では、「英語の専門書を読み、英語で論文を書いて口頭発表するために必要な基礎力を養成する」点に主眼が置かれています。したがって個別学力検査「英語」では、リーディングとライティングの問題を通して、英語で表現された情報を正確に把握する力と英語を使って発信する力があるかどうかを問います。</p> <p>リーディングの総合問題では、論旨の展開をおさえながら読み、書かれた内容を正確に理解する力や、文脈に即して作者の意図を読み解く力を測定します。</p> <p>会話文形式のリーディング問題では、談話の流れに沿って内容を把握する力や、英語の質問に英語で答える力を測ります。</p> <p>ライティングの問題では、適切な単語・表現・文法を使って自然な英文を書く力や、自身の意見を英語で論理的かつ正確に表現する力を問います。</p>
小論文		<p>小論文では、論述式の問題を通して、課題文の論理を的確に理解したうえで、その理解に基づいて関連する現実の歴史や社会の問題を分析し、自身の理解や分析を与えられた文字数の中で文章として表現する能力を問うています。課題文は、広い意味で法や政治に関わるテーマのものから出題しており、高等学校で学ぶ地理、歴史および公民科目の知識を前提に、課題文を理解するために必要な基礎的な学力を有しているかを評価しています。また、歴史や社会の問題に関心を持っているか、課題文の論理に即して分析するために適切な問題を見つけているか、課題文の論理を応用して自身の視点から問題を分析することができるか、そうして導いた自身の考えを論理的に表現することができるか、などを総合的に評価しています。</p>

11. 大学入学共通テストと個別学力検査の配点

大学入学共通テストと個別学力検査の配点は、次のとおりです。

事 項 学部・学科等		配		点			
		大学入学共通テスト		個 別 学 力 検 査			
文 学 部	前期日程	国 語	200	} 900点	} 1,200点		
		地理歴史	200				
		公 民	200				
		数 学	200				
理 科	100						
		外 国 語	200				
教 育 学 部	前期日程	国 語	200	} 900点	} 1,800点		
		地理歴史	100又は200				
		公 民	200				
		数 学	200				
理 科	100又は200						
		外 国 語	200				
法 学 部	前期日程	国 語	200	} 900点	} 600点		
		地理歴史	200				
		公 民	200				
		数 学	100				
		理 科	200				
		外 国 語	200				
経 済 学 部	前期日程	国 語	200	} 900点	} 1,500点		
		地理歴史	200				
		公 民	200				
		数 学	100				
		理 科	200				
		外 国 語	200				
情 報 学 部	前期日程	国 語	200	} 900点	} 1,100点		
		地理歴史	100				
		公 民	200				
		数 学	400				
		理 科	300				
		外 国 語	400				
人 間 ・ 社 会 情 報 学 科	前期日程	国 語	200	} 900点	} 1,100点		
		地理歴史	200				
		公 民	200				
		数 学	100				
		理 科	100				
		外 国 語	200				
コ ン ピ ュ ー タ 科 学 科	前期日程	国 語	200	} 900点	} 1,300点		
		地理歴史	100				
		公 民	200				
		数 学	200				
		理 科	200				
		外 国 語	200				
		数 学	500				
		理 科	500				
		外 国 語	300				

事 項 学部・学科等		配		点	
		大学入学共通テスト		個 別 学 力 検 査	
理 学 部	前期日程	国 語	200	} 900点	} 1,450点
		地理歴史	100		
公民	200				
数 学	200				
理 科	200				
外 国 語	200				
医 学 部	前期日程	国 語	200	} 900点	} 1,650点
		地理歴史	100		
	公民	200			
	数 学	200			
後期日程	理 科	200	} 900点	面接（医師あるいは医学研究者になるにふさわしい適性をみる。また、地域枠においては、県内の地域医療を担う意欲をみる。）	
	外 国 語	200			
保 健 学 科	前期日程	国 語	200	} 900点	} 1,650点
		地理歴史	100		
公民	200				
数 学	200				
理 科	200				
外 国 語	200				
工 学 部	前期日程	国 語	200	} 600点	} 1,300点
		地理歴史	100		
公民	100				
数 学	100				
理 科	100				
外 国 語	100				
農 学 部	前期日程	国 語	200	} 900点	} 1,550点
		地理歴史	100		
公民	200				
数 学	200				
理 科	200				
外 国 語	200				

【注】大学入学共通テストにおいて「外国語」の「英語」を選択した場合には、リスニングテストを全学部で課し、リーディングは150点満点に、リスニングは50点満点にそれぞれ換算し、合計点200点満点とします。（工学部は100点満点に換算します。）

なお、受験上の配慮事項によりリスニングテストを免除された者については、リーディングを200点満点に換算します。（工学部は100点満点に換算します。）

Ⅳ 出願手続

1. 出願の流れ

出願完了までの流れは以下のとおりです。すべての手続を行い、期日までに必要書類（郵送）が名古屋大学へ到着することで出願が完了します。詳細は次ページ以降を確認してください。

※インターネット出願で利用する「SakSak出願システム」は、合格者発表や「合格通知書」の確認（入学手続に必要）等にも利用します。

① 事前準備・必要書類の取得



② インターネット出願サイトで出願登録 (SakSak出願システム)



<令和6年1月15日(月)10時～2月1日(木)15時>

③ 検定料等の納入 (SakSak出願システムを利用)



<令和6年1月15日(月)10時～2月1日(木)15時>

※出願登録と入学検定料等の納入だけでは、出願したことになりません。

④ 出願書類の印刷, 準備



⑤ 出願書類の郵送

<令和6年1月22日(月)～2月2日(金)16時 必着>

○郵便局の窓口から<簡易書留・速達郵便>で、出願書類を郵送する。

※期日までに到着しない場合は、出願を受理しません。(持参不可)

2. 事前準備

インターネット出願（SakSak出願システムを利用）に際して、パソコンや情報端末等の必要なデバイスの環境・設定条件、志願者が準備しておくことは以下のとおりです。

(1) 動作状況の確認

出願登録をするにあたり、インターネットに接続されたパソコン、あるいはスマートフォン、タブレットを使用します。次の動作環境を満たすデバイスを用意してください。推奨ブラウザ以外のブラウザを使用した場合、正常に動作しないことがあります。ご家庭に該当する環境がない場合は、学校、知人等で利用できるよう確認しておいてください。

【推奨環境】

○Windows10, Windows11

Microsoft Edge 111.0

Google Chrome 111.0

○Mac (OS 13.3)

Safari 16.4

○スマートフォン・タブレット

iOS 16.4 Safari 16.4

Android 13.0以降 Google Chrome 111.0以降

ポップアップブロックを無効に設定してください。

※Androidスマートフォン・タブレットを使用の場合は、使用機種の標準ブラウザでは入学検定料納入後に発行の「提出用書類」(PDF) がダウンロードできない場合があります。Androidスマートフォン・タブレットのブラウザはChromeを使用してください。

○ブラウザの設定

JavaScriptを有効にする／Cookieを有効にする

【スマートフォン利用時の注意点】

ブラウザアプリ（iPhoneのSafari, AndroidのChrome）以外のスマートフォンアプリ（LINE, Twitter, Yahoo等）内で、SakSak出願システムのURL（<https://sak-sak.net/app/nagoyau>）をクリックし、スマートフォンアプリの中の画面でSakSak出願システムを起動した場合は、「志願票」、「送付ラベル」が印刷できない等システムが正常に動作しないことがあります。ブラウザアプリを直接起動してSakSak出願システムのURLを入力してください。

印刷時にエラーが発生した場合は、上記の推奨環境でユーザーID・パスワードを入力の上、再出力してください。

(2) 必要なソフトウェア

○Adobe Acrobat Reader；

「志願票」、「送付ラベル」は、PDFまたはGoogleDocsで表示されます。これらの文書をご覧いただくためには、アドビシステムズ社のAdobe Acrobat Readerが必要です（無償）。出願に使用するパソコンにAdobe Acrobat Readerがインストールされていない場合は、最新版をインストールしてください。

（スマートフォン、タブレットの場合は、GoogleDocsでの表示を推奨。閲覧に際し、アプリのダウンロードなどは不要）

(3) 印刷できる環境

入学検定料の納入後に発行される「志願票」、「送付ラベル」等、提出用書類を印刷するためにプリンターが必要です。ご使用のパソコンにプリンターが接続されていることを確認してください。

※プリンターを使用できない環境の場合、提出用書類等はPDFで表示されますので、PDFファイルを保存し、保存したファイルをコンビニエンスストア等で別途印刷してください。

※送付ラベルと「志願票」の印刷は、必ずA4サイズの白の用紙に、カラーで片面印刷してください。

(4) メールアドレス

志願者情報登録時にメールアドレスの入力が必須となります。登録したメールアドレスに「出願登録完了」、「入学検定料支払い完了」のお知らせメールが届きます。また、提出された書類に不備等があり出願を受理できない場合、メールで連絡することもあります。

※メール受信設定の影響で、メールが届かないことがあります。

必ず@sak-sak.netを受信可能なドメインとして設定してください。

※インターネット出願で利用する「SakSak出願システム」は、合格発表、「合格通知書」の確認（入学手続に必要）や成績開示開始の連絡などにも利用します。令和6年5月末まで変更や削除の可能性がなく、日常的に志願者本人が確認しやすいものを準備してください。

(5) 検定料等の納入方法の確認

検定料等の納入には、クレジットカード、ネットバンキング、コンビニエンスストア、ペイジー（Pay-easy）対応の銀行ATMが利用できますが、利用可能なカード、金融機関、手続きなどに制限や注意事項があります。

(6) 顔写真データ（43ページ②参照）

SakSak出願システムからアップロードする志願者本人の顔写真データが必要です。

○写真条件：出願前 3 か月以内に撮影した本人と確認できるもの

正面向き、上半身、無帽、背景なし、カラー写真

○ファイル形式：jpegまたはjpg形式

(7) 調査書

発行に時間がかかる場合があります。在籍する（出身の）高校等に早めに発行依頼をしてください。

(8) 市販の角形2号封筒（240mm×332mm）

出願書類を郵送するため、この大きさの封筒を準備してください。

3. インターネット出願登録期間および入学検定料等納入期間、出願期間

出願手続は、SakSak出願システムでの出願登録および入学検定料等の納入、出願書類などを<簡易書留・速達郵便>で郵送（以下の出願期限内に必着）することにより、完了します。

SakSak出願システムでの出願登録及び入学検定料の納入だけでは、出願手続完了にはなりません。

なお、納入期限は、出願登録日を含め4日間です。納入期限内に入金がない場合は、出願登録は自動的にキャンセルとなりますのでご注意ください。（キャンセルとなったときは再登録してください）

※納入締切日までの日数が4日より短い場合は、納入締切日・時間が優先されます。

試験区分	インターネット出願登録期間 及び 入学検定料等の納入期間	出願期間
一般選抜（前期日程）	令和6年1月15日(月)10時～ 2月1日(木)15時	令和6年1月22日(月)～ 2月2日(金)16時 郵送必着
一般選抜（後期日程）		

【注】2月2日(金)16時までに名古屋大学の入学試験事務室に到着することを、出願書類の郵送時に確認願います。荒天や輸送事情等のトラブルにより、期日までに到着しないことが想定される場合には、必ず志願票の内容をコピーして、予め入学試験事務室にメールもしくはFAX(最終ページ下部参照)で送信してください。

※上記の事情を除き出願期限後に到着したものは受理しません。ただし、1月31日(水)以前の発信局(日本国内)の消印がある簡易書留の速達郵便に限り、期限後に到着した場合でも受理します。また、持参した書類は受理しません。

※出願書類の到着有無に関する問い合わせには一切応じません。各自、書留の受領証に記載されている引受番号を用いて、郵便追跡システムで確認してください。なお、出願書類の受理(処理)が済むと、SakSak出願システムの「提出用書類」欄が〔済〕と表示されます。

〔出願状況確認〕→(該当の出願受付番号を選択)→〔出願状況詳細〕管理情報の「提出用書類」

4. 検定料・納入方法、自然災害等による検定料免除について

(1) 検定料等の料金、納入方法

ア 出願登録の際に必要な料金

①入学検定料：17,000円

②受験票送料： 323円 (はがき送料63円+速達料金260円)

③成績開示手数料： 300円 ※希望者のみ(55ページ参照。出願時に希望しない者には試験成績は開示されません)

以上①～③の料金のほかに支払手数料が必要となります。

※出願書類を受理した後は、48ページ「8. 検定料の返還について」に該当する場合を除き、いかなる理由があっても納入済みの検定料は返還しません。

※検定料免除の対象者((2)参照)は、出願期間を考慮して、出願登録前に入学試験事務室[(052)789-5765]までご連絡ください。

イ 納入期間

令和6年1月15日(月)10時～2月1日(木)15時

ただし、出願書類の到着期限は令和6年2月2日(金)16時 郵送必着(持参不可)となりますので、検定料は早めに納入してください。

ウ 納入方法等

入学検定料等の納入は、以下のいずれかの方法で行ってください。詳細については、46ページ「手順4(入学検定料の納入)」を確認してください。

- ・クレジットカード
- ・コンビニエンスストア
- ・ネットバンキング
- ・Pay-easy対応銀行ATM

(2) 自然災害等による検定料免除について

名古屋大学では、自然災害等による経済的負担を軽減し、受験生の進学機会の確保を図るため、本入試について検定料免除の特別措置を実施します。対象とする自然災害等や申請方法の詳細は、以下のサイトから確認してください。申請書も、こちらからダウンロードできます。

▶名古屋大学受験生応援サイト

[入試情報を知りたい→インターネット出願・入学手続→検定料の特別措置]

<https://www.nagoya-u.ac.jp/admissions/exam/cat/saigai/>

ア 免除申請の対象

対象とする自然災害等により被災した入学志願者のうち、罹災証明書の交付があり、検定料免除の申請があった者

イ 免除申請の手続

- ①出願登録前（＝検定料納入前）に、入学試験事務室 [(052)789-5765] へ検定料免除申請の連絡をする。
- ②該当すると判断された者は、上記の受験生応援サイトより「検定料免除申請書」をダウンロードして必要事項を記入し、罹災証明書（写し可）とともに、出願書類に同封して提出する。

5. 郵送で提出する出願書類

(1) 書類の送付方法

SakSak出願システムでの出願登録及び入学検定料の支払いを行ったあと、「出願に必要な書類等」（43ページ参照）を、送付ラベルを貼った角形2号封筒（240mm×332mm）に入れて郵送してください。

ア 送付先

SakSak出願システムの画面から「送付ラベル」をA4サイズでカラー印刷してください。送付ラベルに宛先と差出人、出願学部等が印字されます。

イ 送付方法

出願書類の提出は郵送（簡易書留・速達郵便）に限ります。

ウ 併願の場合

本学の「前期日程試験」と「後期日程試験」を併願する場合であっても、各試験区分ごとに1名分を封入してください。

(2) 出願に必要な書類等

43ページの一覧を確認してください。注意事項は以下のとおりです。

- 提出された書類等に不備・不足がある場合には、受理しません。
- いったん受理した出願書類等は、いかなる理由があっても返却しません。また、受理後の出願書類等の変更は認めません。
- 志願票はじめ出願書類等に虚偽の記載をした場合、記載すべき事項を記載しなかった場合又は提出すべき書類を提出しなかったことが判明した場合は、入学決定後でも入学許可を取り消すことがあります。

※医学部医学科の所定の様式(⑤⑥)については、以下のサイトから令和6年度選抜のものをダウンロードしてください。
(サイトへの掲載は出願締切日まで)

▶名古屋大学 受験生応援サイト [入試情報を知りたい(学部入試→一般選抜)]

<https://www.nagoya-u.ac.jp/admissions/exam/us-exam/cat/>

出 願 書 類 等		注 意 事 項
①	送付ラベル 出願書類の郵送先、 差出人等が印字されます	○入学検定料納入後に、SakSak出願システムの「出願状況確認」から、出願内容選択画面にて該当する〔出願受付番号〕→〔提出用書類印刷〕の順にクリックし、ダウンロードした送付ラベルを、A4サイズでカラー印刷してください。 ○郵送用の角形2号封筒(240mm×332mm)に貼ってください。
②	志願票 (志願票と写真票で1枚) 【注1】	<志願票> ○入学検定料納入後に、①と同様にダウンロードをして、A4サイズでカラー印刷してください。 <顔写真について> ○出願前3か月以内に撮影した正面向き、上半身、無帽、背景なし、カラーの顔写真データを用意し、SakSak出願システムからアップロードしてください。 ※この写真は、入学試験時の本人確認の写真として使用します。
③	令和6年度大学入学 共通テスト成績請求票	○「②志願票」の所定欄に貼ってください。 誤った請求票を貼ってある場合は受理しませんのでご注意ください。 ※前期日程試験に出願→「前」国公立前期日程用 ※後期日程試験に出願→「後」国公立後期日程用
④	調査書 【注1】【注2】	○出身学校長が作成し、厳封したものに限り、 ○既卒の方は、卒業後に発行されたものを提出してください。 <高等学校等の進路指導ご担当の方々へ> 本学では、学習成績概評がAに属する生徒のうち、人物、学力ともに特に優秀な者については、「学習成績概評」の欄に④と標示することを希望します。この場合、「備考」の欄にその理由を必ず明示してください。
⑤	※医学部医学科(前期・後期) 志願者のみ提出 志願理由書	○上記の受験生応援サイトから所定の様式をダウンロードし、A4サイズで印刷の上、自筆で作成してください。 ただし、一般枠用と地域枠用は、様式、内容が異なりますので注意してください。なお、前期日程の地域枠と一般枠を併願する場合は、地域枠用の様式を提出してください。
⑥	※医学部医学科(前期) 地域枠の志願者のみ提出 同意書	○上記の受験生応援サイトから所定の様式をダウンロードし、A4サイズで印刷の上、本人および保護者もしくは法定代理人が自筆でサインしてください。 サインの前に、28ページの<医学部医学科の前期日程(地域枠)について>、特に(注4)のサイトを確認してください。
⑦	※医学部医学科(前期) 地域枠の志願者のみ提出 住民票の写し等	○前期日程(地域枠)を志願する者で、22ページの「出願要件2(入学志願者本人又は入学志願者の保護者の現住所が出願時に愛知県内であること)」に該当する場合のみ、住民票の写し(コピー不可)等を提出してください。 ※1 住民票の写しは、個人番号(マイナンバー)及び本籍の記載がないものを提出してください。 なお、取得した住民票の写しに個人番号及び本籍が記載されている場合は、油性ペン等を使用して塗りつぶし、完全に見えない状態で提出してください。 ※2 「入学志願者の保護者の現住所が出願時に愛知県内であること」に該当の場合は、続柄が記載された住民票を提出してください。 なお、志願者本人と保護者の現住所が異なる場合は、志願者本人と保護者の関係がわかる書類〔健康保険証など(続柄が記載されているもの。コピー可)、市町村役場が発行するもので関係がわかるもの等〕を併せて提出してください。

【注1】②志願票と④調査書の姓が異なる場合は、証明する公的書類を添付してください。

【注2】やむを得ない事由により出身学校長等の調査書が得られない場合は、以下により対応してください。

ア 廃校、被災、調査書の保存期限の経過、その他の事情により出身高等学校長等の調査書が得られない場合は、卒業証明書と単位修得証明書(単位修得証明書が得られない場合は、成績通信簿の原本)をもってこれに代えることができます。

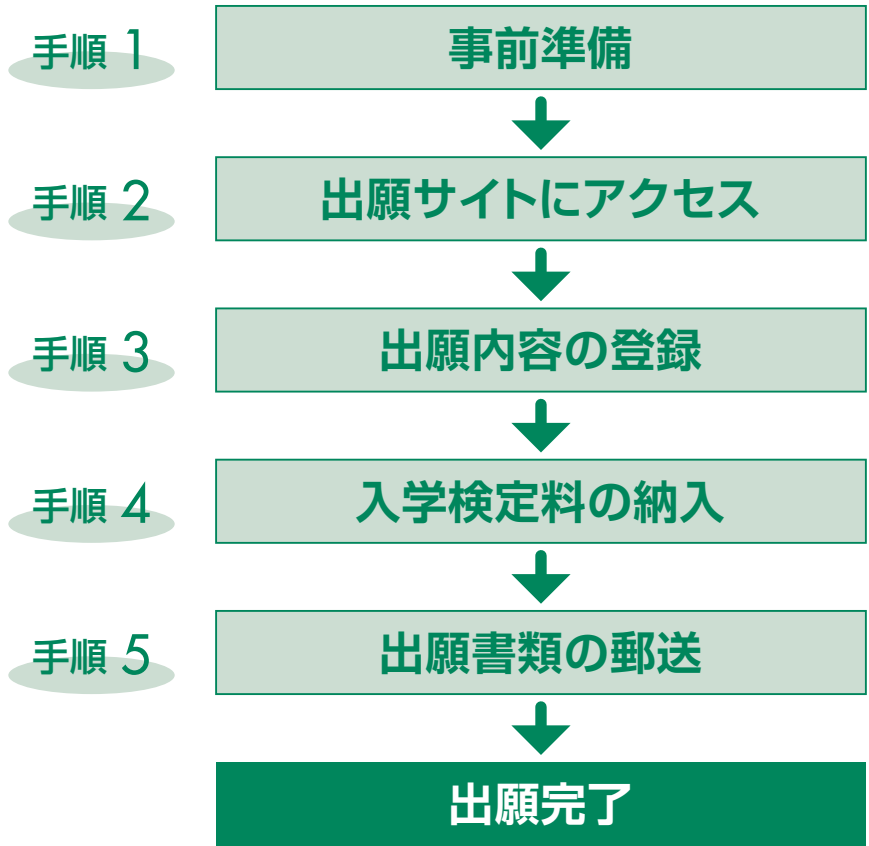
イ 志願者本人が被災等により上記アの書類を入手できない場合は、出身学校所管の教育委員会、知事又は出身高等学校長等が作成したこれに関する証明書を提出してください。

ウ 高等学校卒業程度認定試験等の合格者については、当該試験の合格成績証明書をもって、調査書に代えることができます。

エ 22ページの出願資格3(オ以外)により出願する者の提出書類については、入学試験事務室(最終ページの下部参照)に照会してください。

インターネット出願の流れ

出願完了までの流れは、以下の通りです



手順 ① 事前準備

インターネットに接続されたパソコン、スマートフォン、タブレット、プリンターなどを用意してください。
出願書類※は、発行まで時間を要する場合があります。早めに準備を始め、出願前には必ず手元にあるようにしておいてください。

※出願書類…調査書、顔写真データ、大学入学共通テスト成績請求票など詳細は本募集要項の該当ページを参照



手順 ② SakSak出願システムにアクセス

SakSak出願システム → <https://sak-sak.net/app/nagoyau>

または、

大学ホームページ → <https://www.nagoya-u.ac.jp/admissions/exam/cat/internet/index.html>
からアクセス



手順 ③

出願内容の登録



出願情報登録完了後は、登録内容の修正・変更ができませんので誤入力のないよう注意してください。ただし、入学検定料納入前であれば正しい出願内容で再登録することで、実質的な修正が可能です。

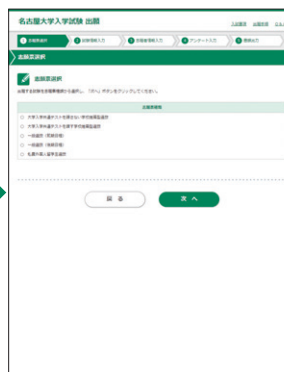
試験区分	インターネット出願登録期間 及び入学検定料納入期間	出願期間
一般選抜(前期日程)	令和6年1月15日(月)10時～ 2月1日(木) 15時まで	令和6年1月22日(月)～ 2月2日(金) 16時 郵送必着
一般選抜(後期日程)		

画面の手順や留意事項を必ず確認して、画面に従って必要事項を入力してください。

名古屋大学の学校推薦型選抜に出願登録済で、一般選抜へ出願する者は、①で「ユーザ登録済の志願者」にログインをし、〔出願開始〕へ進んでください。



①利用案内ページの **出願開始** ボタンをクリックし、インターネット出願手続きを開始



②試験区分、出願学部学科等を選択



③志願者情報の入力
※メールアドレス登録時に〔メール受信確認〕ボタンを押下し、お知らせメールが届くことを必ず確認してください。



④顔写真のアップロード



⑤アンケートの入力



⑥出願情報登録完了
※出願受付番号(10桁)は必ず控えてください。
出願情報等を確認する際に使用することがあります。



⑦入学検定料の支払い
(支払い方法)
●コンビニエンスストア
●ページ対応銀行ATM
●ネットバンキング ●クレジットカード



⑧出願書類の出力・印刷
(イメージ)
※検定料納入後に出力可能となります。
出力は①画面の〔出願状況確認〕より可能です。

入学検定料の納入は、出願情報登録完了画面に表示された「お支払い期限」内に必ずお支払いください。

【注】出願情報登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は、送信元(@sak-sak.net)からのメール受信を許可してください。
※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので、注意してください。

手順 4

入学検定料の納入

1 クレジットカードでの支払い

出願内容の登録後に選択し、支払いができます。

【ご利用可能なクレジットカード】

VISA, Master, JCB, AMERICAN EXPRESS, MUFGカード, DCカード, UFJカード, NICOSカード



Webで手続き完了

2 ネットバンキングでの支払い

出願内容の登録後、ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので、画面の指示に従って操作し、お支払いください。

※決済する口座がネットバンキング契約されていることが必要です

Webで手続き完了

3 コンビニエンスストアでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、コンビニエンスストアでお支払いください。

●レジで支払い可能

●店頭端末を利用して支払い可能



Loppi



マルチコピー機

あなたも、コンビニ、
FamilyMart



4 ペイジー対応銀行ATMでの支払い

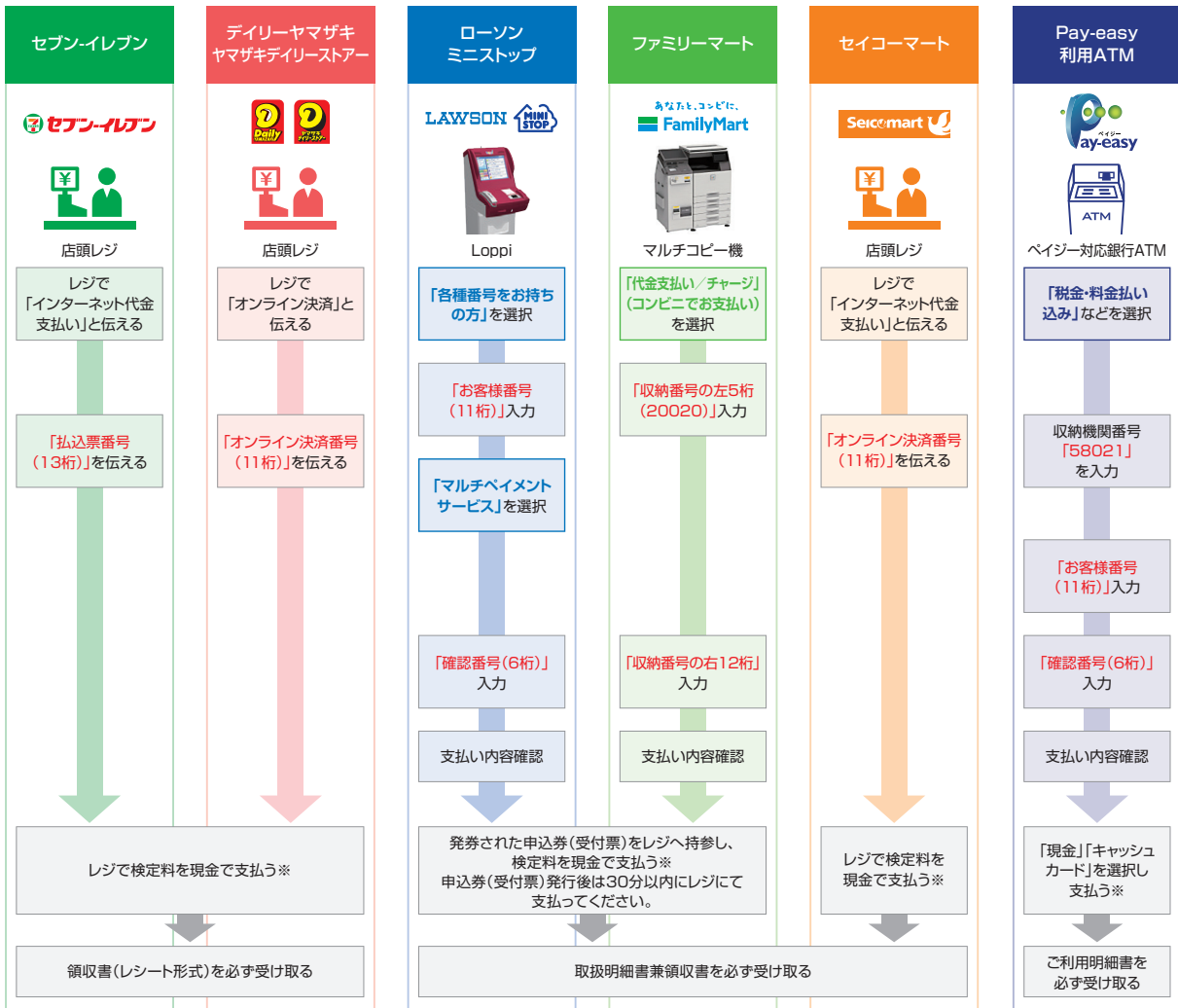
出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、ペイジー対応銀行ATMにて画面の指示に従って操作のうえお支払いください。



※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認してください。

各コンビニ端末画面・ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し、内容を確認してから入学検定料を支払ってください。

3 コンビニエンスストア



※ゆうちょ銀行・銀行ATMを利用する場合、現金で10万円を超える場合はキャッシュカードで支払ってください。コンビニエンスストアを利用の場合は現金で30万円までの支払いとなります。

手順 5

出願書類の印刷と郵送

出願登録、入学検定料の納入後にダウンロードできる書類を全て**カラー印刷**し、その他の必要書類と併せて出願期間内に郵便局窓口から「簡易書留・速達郵便」で郵送してください。

■ 出願書類

出願に必要な書類は、本募集要項の該当ページを参照。
SakSak出願システムから印刷する書類以外に調査書(厳封)、志願理由書(医学部医学科のみ)等がありますので、注意してあらかじめ準備をすすめてください。



出願書類の郵送先は送付ラベルに自動で印字されます。



出願書類提出用送付ラベル
市販の角形2号封筒(24cm×33.2cm)
に貼り付けて作成

※一旦受理した入学検定料・出願書類は返却しません。

〈出願完了〉

出願時の 注意点

出願はSakSak出願システムでの登録完了後、入学検定料を納入し、必要書類を郵送して完了となります。登録が完了しても出願書類の提出期限に書類が届かなければ出願を受理できませんので注意してください。
期限は上記(手順3)を参照してください。

インターネットでの出願登録は24時間可能です。出願登録、検定料の納入は出願締切日の前日15時(営業時間はコンビニエンスストアやATMなど、施設によって異なります)です。必要書類の郵送は定められた期間内に行ってください。ゆとりを持った出願を心がけてください。

7. 受験票の交付

受験票は、SakSak出願システムで登録した住所へ、本人宛に速達で、圧着ハガキにて送付します。

受験票が届いたら、試験日などの記載事項を必ず確認してください。不備がある場合は速やかに入学試験事務室（80ページ〔問い合わせ先〕参照）まで連絡してください。

なお、コンピュータで表記できない氏名の文字については、文字を置き換えるか、カタカナ等で表記されます。

○前期日程試験

令和6年2月9日(金)以降に、大学から発送します。

○後期日程試験

令和6年2月29日(木)以降に、大学から発送します。

<第1段階選抜不合格者>

医学部医学科（前期日程・後期日程）の第1段階選抜不合格者には、不合格通知が上記日程で送付され、受験票は送付されません。

<受験票の未着>

前期日程試験の受験票が、令和6年2月14日(水)までに、後期日程試験の受験票が令和6年3月5日(火)までに到着しない場合は、入学試験事務室（80ページ〔問い合わせ先〕参照）に確認してください。

個別学力検査当日は、「名古屋大学受験票」と「大学入学共通テスト受験票」の二つを必ず持参してください。

8. 検定料の返還について

出願書類を受理した後は、納入済みの検定料は原則返還しません。ただし、以下のA、Bに該当する者には、納入された検定料を返還します。なお、返還にかかる振込手数料は差し引かせていただきます。

A. 検定料納入後、出願しなかった者または出願が受理されなかった者

B. 検定料を二重に払い込んだ者

【手続方法】 該当者は、以下の本学サイトから規定の様式「返還金請求書」をダウンロードし、必要事項を漏れなく記入のうえ、申請期限までに名古屋大学入学試験事務室（本募集要項の最終ページ下部参照）に郵送してください。

▶名古屋大学受験生応援サイト（申請受付期間のみアップロードします）

〔入試情報を知りたい→インターネット出願・入学手続→インターネット出願（学部入試）〕

<https://www.nagoya-u.ac.jp/admissions/exam/cat/internet/index.html>

【申請期限】 令和6年3月15日(金) 郵送必着

また、以下のC、Dに該当する者には、申請により13,000円を返還します。なお、返還にかかる振込手数料は差し引かせていただきます。

C. 医学部医学科（前期日程・後期日程）の第1段階選抜不合格者

D. 大学入学共通テストの受験科目の不足により出願資格がないことが判明した者

【手続方法】 該当者へは、受験票送付時期のあとに本学より「返還金請求書」を送付します。同封する手続方法にしたがって、申請期限までに「返還金請求書」を郵送してください。

【申請期限】 令和6年3月15日(金) 郵送必着

V 受験に関する注意事項

○感染症対応について

学校保健安全法で出席停止が定められている感染症（インフルエンザ、麻疹、水痘、新型コロナウイルス感染症等）に罹患し、入院中又は自宅や宿泊施設において療養中の場合は、受験できません。この場合は追試験や別室受験等の特別措置および入学検定料の返還は行いません。

日頃から、手洗いなどの手指衛生、換気等により感染防止に努め、体調管理には十分注意してください。

〔前期日程〕

(1) 試験場・試験室について

- ①指定された試験場以外では、いかなる理由があっても受験できません。個別学力検査筆記試験当日は2日間とも、最初の試験開始時刻の30分前までに指定の試験室に到着してください。
(入室開始時刻は2日間とも、8時45分の予定です。)
- ②試験室では、「名古屋大学受験票」の受験番号と同じ番号の席に着き、「名古屋大学受験票」と「大学入学共通テスト受験票」を机上の番号札のわきに置いてください。
- ③試験室内では、監督者の指示に従ってください。試験開始後は、監督者の指示があるまで退室できません。
- ④試験開始及び終了の合図は各試験室の監督者が伝えます。
- ⑤試験時間中、発言する必要があるときは、手を挙げて合図し、監督者の許可を受けてください。

(2) 遅刻者の扱い

- ⑥試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始後30分以内に限り、受験を認めます。

(3) 所持品の扱い

- ⑦個別学力検査当日は、「名古屋大学受験票」と「大学入学共通テスト受験票」の2つを必ず持参し、机の上に置いてください。
※この2つの受験票は、諸手続に必要なので試験終了後も保管しておいてください。
- ⑧試験時間中、机の上に置けるものは、答案作成に必要な黒鉛筆（シャープペンシルも可）、消しゴム、鉛筆削り（電動式を除く）、時計（計時機能だけのもの）、眼鏡、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー（袋または箱から中身だけ取り出したもの）です。
数学の試験では、直線定規・コンパスを使用できます。（折りたたみ式定規、分度器付き定規、三角定規は使用不可）
※病気・負傷や障害等により、机の上に置けるもの以外のものを試験時間中に使用したい場合は、事前に受験上の配慮申請（→26ページ）が必要です。
- ⑨耳栓は、監督者の指示が聞こえない場合があるので使用できません。
- ⑩感染症対策として、試験会場の換気を行いますので、必要な受験生は暖かい服装を持参してください。

(4) 厳禁事項

- ⑪試験室では、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末（スマートウォッチなど）、タブレット端末、電子辞書、ICレコーダー、イヤホン、音楽プレーヤー等の**電子機器類は、必ずアラーム設定を解除した上で電源を切ってください**。また、これらを身に付けることは認めないので、かばん等に入れてください。
※試験開始前に、監督者の指示で電源が切られているか等の確認を行います。
- ⑫大学構内での喫煙は厳禁とします。

(5) 不正行為

- ⑬ 次のことをすると不正行為となります。不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を命じられ、それ以後の受験はできなくなります。また、受験したすべての教科・科目の成績を無効とします。なお、不正行為については、状況により警察へ被害届を提出するなどの対応をとる場合があります。

- ア 入学志願票・写真票，受験票，解答用紙へ故意に虚偽の記入（本人以外の写真を登録することや解答用紙に本人以外の名前・受験番号を記入する等）をすること。
- イ カンニング（カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案等を見ること，他の人から答えを教わること等）をすること。
- ウ 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをしたりすること。
- エ 試験時間中に，問題冊子を試験室から持ち出すこと。
- オ 解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- カ 解答開始の指示の前に，問題冊子を開いたり解答を始めたりすること。
- キ 試験時間中に，携帯電話，スマートフォン，ウェアラブル端末（スマートウォッチなど），タブレット端末，電子辞書，ICレコーダー，イヤホン，音楽プレーヤー，電卓等の電子機器類を使用すること。
※イヤホンについては，耳に装着していれば使用しているものとします。
※病気・負傷や障害等により試験時間中に補聴器等を使用したい場合は，受験上の配慮申請（→26ページ）が必要です。
- ク 解答終了の指示に従わず，鉛筆や消しゴムを持っていたり解答を続けたりすること。

- ⑭ 上記以外にも，次のことをすると不正行為となることがあります。指示に従わず，不正行為と認定された場合の取扱いは，上記と同様です。

- ア 試験時間中に，携帯電話，スマートフォン，ウェアラブル端末（スマートウォッチなど），タブレット端末，電子辞書，ICレコーダー，イヤホン，音楽プレーヤー，電卓等の電子機器類をかばん等にしまわず，身に付けていたり手に持っていたりすること。
- イ 試験時間中に携帯電話，スマートフォンや時計等の音（着信・アラーム・振動音等）を長時間鳴らすなど，試験の進行に影響を与えること。
- ウ 試験に関することについて，自身や他の受験者を利するような虚偽の申出をすること。
- エ 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- オ 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- カ その他，試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

(6) その他

- ⑮ 個別学力検査下見日及び当日に，本学より受験生へ連絡事項がある場合は，試験室案内を掲示した場所に掲示します。
- ⑯ 各試験会場は，自動車，バイク等での入構はできませんので公共交通機関等を利用してください。
- ⑰ 試験時間中，監督者が試験室内の巡視を行います。その際，監督者が顔を上げるよう指示することや，マスクや眼鏡，帽子等を一時的に外すよう指示することなどがあります。
- また，不正行為に見えるような行為については，監督者が注意をする場合があります。

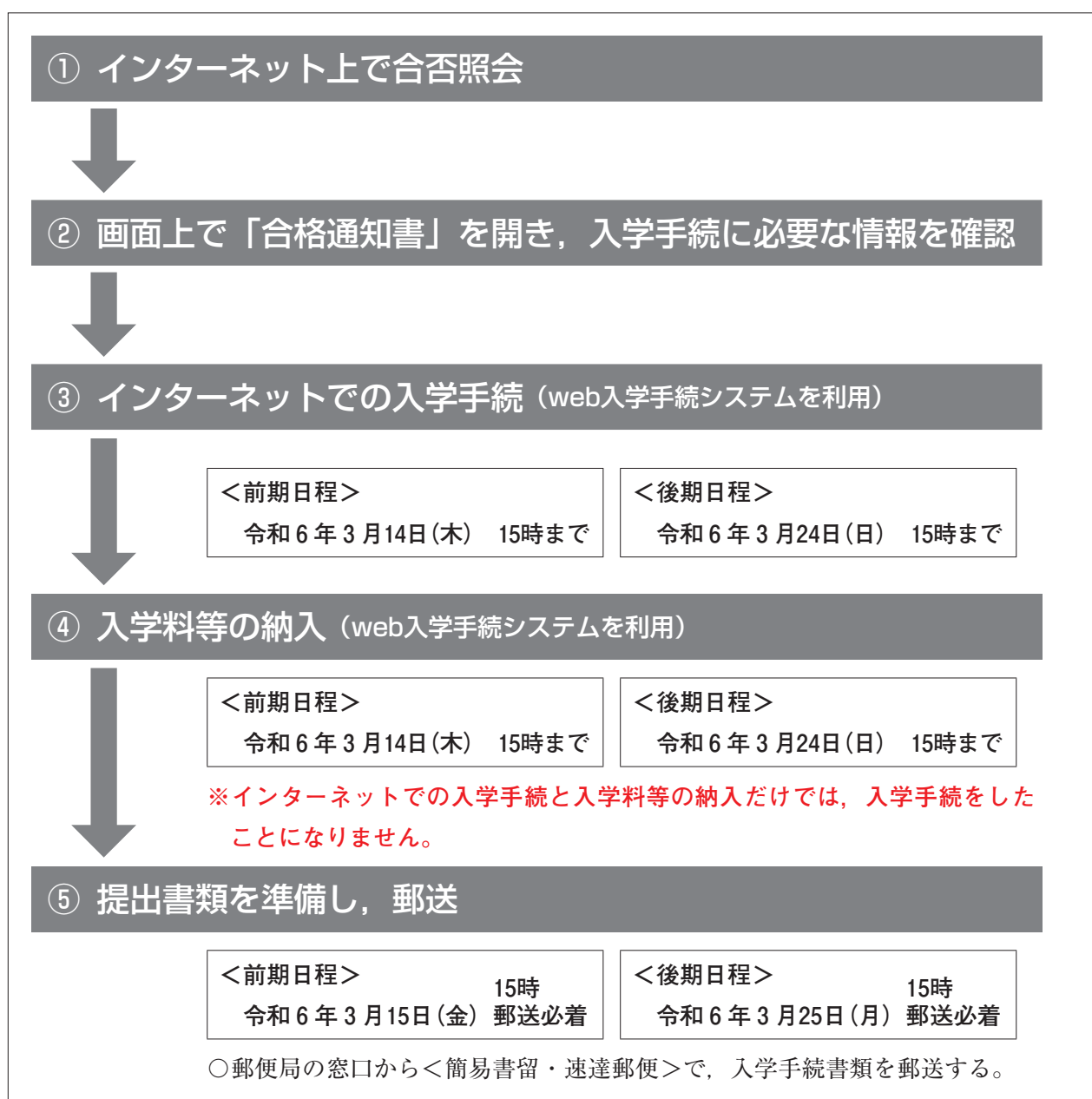
上記の他，監督者から特別な指示があった場合は，その指示に従ってください。

Ⅵ 合格発表～入学手続

1. 入学手続完了までの流れ

合格発表から、合格者の入学手続完了までの流れは以下のとおりです。すべての手続を行い、期日までに必要書類が名古屋大学に到着することで入学手続が完了します。詳細は次ページ以降を確認してください。

合格発表から手続期日までの期間が短いため、事前に手続の内容と流れを確認しておいてください。
所定の期限内に入学手続を行わなかった場合は、本学への入学を辞退したものと取り扱いますので、十分注意してください。



2. 合格発表

(1) 発表方法・発表日時

令和6年度一般選抜各日程の結果は、次の日時に合否照会システム (<https://sak-sak.net/app/pass/nagoyau>) と、大学情報センターウェブサイト (<https://daigakuic.jp/nagoya-u/>) で発表します。

大学情報センターウェブサイトでの発表は、本学の情報提供の一環として行うものであり、必ず合否照会システムより確認してください。

前期日程試験	令和6年3月8日(金)15時
後期日程試験	令和6年3月20日(水)12時

なお、合格者の掲示発表は行いません。電話・メール等による合否の問い合わせには一切応じません。

(2) 合格通知書

本学から受験者へ、紙（印刷物）での「合格通知書」の発行・発送はありません。

合格者は、SakSak出願システムで「合格通知書」の確認およびダウンロードをしてください。

「合格通知書」には、入学手続きサイトのURL (<https://sak-sak.net/fapp/nagoyauniv>)、ユーザIDとパスワードが記載されていますので、本学への入学を希望する合格者は、確認のうえ、期間内に入学手続きを進めてください。

※紙（印刷物）の「合格通知書」が必要な方は、ダウンロードしたものを各自で印刷してください。

画面で閲覧できる期間：令和6年3月25日（月）17時まで

3. 入学手続

(1) 入学手続の期限

入学手続は、下記の期限までに行ってください。

所定の期限までに入学手続を行わなかった場合は、本学への入学を辞退したものと取り扱いますので、十分注意してください。

前期日程試験	入学料等の納入	令和6年3月14日(木)	15時まで
	提出書類	令和6年3月15日(金)	15時郵送必着
後期日程試験	入学料等の納入	令和6年3月24日(日)	15時まで
	提出書類	令和6年3月25日(月)	15時郵送必着

(2) 入学手続の方法・留意事項

本学から合格者へ「入学手続書類」等の送付はありません。入学手続は、出願時と同様にwebでの手続と印刷（記入）した書類の郵送となります。

手続の詳細は、合格者が入学手続きサイトでダウンロードする「令和6年度 名古屋大学入学手続要領」にて確認することになりますが、流れと概略は以下のとおりです。これらすべてを入学手続期限までに完了してください。

①SakSak出願システムの画面で「合格通知書」を開き、入学手続きサイトのURL (<https://sak-sak.net/fapp/nagoyauniv>)、ユーザIDとパスワードを確認する。

- ②入学手続サイト（web入学手続システム）にログインし、各種同意事項を確認し、同意する。
- ③web入学手続システムで、「令和6年度 名古屋大学入学手続要領」をダウンロードし、手続方法や注意事項を確認する。
- ④web入学手続システムで必要事項を確認し、入力する。
- ⑤web入学手続システムを利用し、学生納入金のうち、入学料等の支払いに関する手続を行い、入学料等を納入する。（(3)参照）
- ※日本学生支援機構給付奨学金採用候補者（4月に申請予定の者を含む）および入学料免除等申請予定者は、納入手続等の詳細を「入学手続要領」で確認してください。
- ⑥「入学手続要領」に記載されている必要提出書類を、簡易書留・速達郵便で郵送する。（「大学入学共通テスト受験票」は提出書類の一つです。なくさないようにしてください）

※⑥までを確実に終えたあとは、web入学手続システムにある「【必読】入学当初に関するお知らせ」をダウンロードし、3月下旬から4月上旬の行事予定や準備事項を把握してください。また、それ以外にも入学準備に関わるファイルが複数アップロードされますので、目を通して確認・準備を進めてください。

(3) 入学料等学生納入金、および学生教育研究災害傷害保険料（予定）

web入学手続システムを利用して手続を行い、次の入学料および学生教育研究災害傷害保険料を納入してください。

クレジットカード払いやコンビニエンスストア等からの支払いが可能です。

日本学生支援機構給付奨学金採用候補者（4月に申請予定の者を含む）および入学料免除等申請予定者は、「入学手続要領」にしたがって、web入学手続システムの決済内容を選択し、必要な手続を行ってください。

入学手続の際に納入		学部・学科	(入学後に納入) 授業料
入学料	学生教育研究災害傷害保険料 (学研災付帯賠償責任保険を含む) 58ページ参照		
282,000円	4,660円	文 学 部	前期分 267,900円 年 額 535,800円
	4,660円	教 育 学 部	
	4,660円	法 学 部	
	4,660円	経 済 学 部	
	4,660円	情 報 学 部	
	4,660円	理 学 部	
	7,800円	医学部医学科	
	5,370円	医学部保健学科	
	4,660円	工 学 部	
	4,660円	農 学 部	

【注】 ①入学時又は在学中に学生納入金の改定が行われた場合には、改定時から新たな入学料額および授業料額が適用されます。

②納入済みの入学料は返還しません。

③学生教育研究災害傷害保険料は、学部（学科）により異なります。

なお、保険料の改定が行われた場合、改定時から新たな保険料が適用されます。

④その他、入学に必要な手続の詳細は「入学手続要領」を参照してください。

4. 入学辞退の手続

合格者であって、本学への入学を辞退しようとする者は、下記日時までに本学所定の「入学辞退届」を、入学試験事務室（最終ページ下部参照）に郵送またはFAXにより提出してください。「入学辞退届」は、以下の受験生応援サイト〔入試情報を知りたい（インターネット出願・入学手続→入学手続）〕よりダウンロードしてください。

<https://www.nagoya-u.ac.jp/admissions/exam/cat/cat3/>

なお、「入学辞退届」を提出した者は、本学への入学手続を行うことはできません。

<提出期限>

前期日程試験合格者 令和6年3月15日(金)12時まで

後期日程試験合格者 令和6年3月25日(月)12時まで

5. 追加合格

合格者の追加を行うことがあります。追加合格実施の有無については、令和6年3月27日(水)17時までに本学ホームページ（名古屋大学 受験生応援サイト）に掲載します。

なお、追加合格実施の有無についての電話等による照会には応じません。

(1) 期間・対象・方法

期 間：令和6年3月28日(木)～31日(日)

対 象：本学の一般選抜を受験した者で、他の国公立大学・学部の入学手続を完了していない者

方 法：名古屋大学入学志願票に記載されている「緊急連絡先」へ、本人に電話をします。本人が不在の場合でも連絡が直ちに行えるように所在を明らかにしておいてください。本学からの連絡の際、追加合格候補者が不在等で、本学が連絡してから5時間経過しても連絡・確認ができなかった場合は、入学意思がないものとして取り扱います。

なお、電話が不通の場合には、出願時に登録したメールアドレスに連絡することがあります。

「@t.mail.nagoya-u.ac.jp」からのメールを受信できるよう設定してください。

(2) 入学手続

追加合格の連絡を受け、本学に入学しようとする者は、52ページを参考に、入学手続を行ってください。

【注】追加合格者が本学の入学手続を行った場合、他の国公立大学・学部への入学手続はできません。

VII 個人情報取り扱い

- (1) 個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及び「東海国立大学機構個人情報保護規程」に基づき、適切に管理します。
- (2) 出願時に得た住所、氏名、生年月日、その他の個人情報については、入学者選抜、合格者発表、入学手続業務を行うために利用します。
- (3) 出願時に得た個人情報及び入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。また、入学者についてのみ①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。
- (4) 上記(2)及び(3)の各種業務での利用に当たっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下、「受託業者」という。）において行うため、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる範囲で個人情報の全部又は一部を提供します。また、大学生生活準備の情報提供のため、合格者の氏名・住所等の個人情報を名古屋大学消費生活協同組合に提供します。
- (5) 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名、高等学校等コード及び大学入学共通テストの受験番号に限り、合否及び入学手続等に関する個人情報を、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に情報提供します。

VIII 一般選抜における試験成績の開示

本学では、志願者本人の希望により令和6年度一般選抜に係る試験成績について、次により志願者本人に開示します。ただし、後期日程試験の医学部医学科は試験成績の開示は行いません。

(1) 開示内容

- ・ 大学入学共通テストの合計得点（本学での配点に基づく換算点）
- ・ 合格者の最高点
- ・ 個別学力検査の科目別点数及び募集単位ごとの順位
- ・ 合格者の最低点
- ・ 大学入学共通テストと個別学力検査の合計得点
- ・ 合格者の平均点

【注】(1)工学部及び農学部合格者の点数（最高、最低、平均）は、一般選抜における高得点者選抜を除く合格者の成績に基づいたものです。

(2)医学部医学科の面接に関する評価の開示は行いません。

(2) 申込方法

試験成績の開示を希望する者は、出願登録時の試験選択（学部選択）で「成績開示希望する」の欄を選択し、検定料納入の際に300円をあわせて納入してください。

なお、出願時に試験成績開示を希望しない者には、試験成績の開示はしません。

また、検定料納入後の変更はできませんので注意してください。

(3) 開示方法及び開示期間

- ・ 成績開示システム（<https://sak-sak.net/app/pass/nagoyau>）で開示。共通テストと個別学力検査の各受験票を手元に準備してください。
- ・ 令和6年4月12日(金)12:00～令和6年5月31日(金)12:00

Ⅹ 修学費支援・学生の宿舎等・学研災保険制度・学生生活の準備

1. 修学費支援

(1) 高等教育の修学支援新制度

令和2年4月から、大学等における修学の支援に関する法律に基づく修学支援新制度が始まりました。名古屋大学は、修学支援新制度の対象機関に認定されています。

高等教育の修学支援新制度は、以下2つの支援からなります。

○給付奨学金（原則返還が不要な奨学金）

○授業料等の減免（授業料と入学料の免除または減額）

本制度の申請を行う場合は、文部科学省及び日本学生支援機構の以下のページから制度の詳細を確認の上、新制度に該当する方は、在籍する学校又は卒業した学校を通じて予約採用手続を行うか、入学時に手続を行ってください。詳細は「入学手続要領」にて確認してください。

文部科学省ホームページ	https://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm
日本学生支援機構 奨学金ホームページ	https://www.jasso.go.jp/shogakukin/index.html
日本学生支援機構 進学資金シミュレーター	https://www.jasso.go.jp/shogakukin/oyakudachi/shogakukin-simulator.html

(2) 入学料の免除及び徴収猶予

入学料について、学資負担者が、入学前1年以内に死亡または風水害等に被災するなど、特別な事情により入学料の納入が著しく困難と認められる場合は、選考の上、入学料の全額または一部が免除あるいは徴収猶予される制度があります。名古屋大学のホームページにも記載されていますが、詳細は「入学手続要領」にて確認してください。

(3) 奨学金

人物・学業ともに優れた学生であって、経済的理由により修学が困難と認められる場合には、日本学生支援機構をはじめ、地方公共団体、民間奨学事業団体等から奨学金が給与（給付）・貸与される制度があります。いずれも、選考の上、決定されます。

日本学生支援機構奨学金の詳細は、ホームページ（<https://www.jasso.go.jp/>）にて確認してください。募集日程等については、入学後まもなく、学内の掲示板および名古屋大学ホームページにてお知らせします。

▶(2)入学料の免除及び徴収猶予，(3)奨学金に関する詳細は、次のサイトをご覧ください。

<https://www.nagoya-u.ac.jp/academics/support/index.html>

▶名古屋大学での照会先は以下のとおりです。

（メールで問い合わせの際は[a]を@に変えて送信ください）

(2) 入学料の免除 及び徴収猶予	<照会先>教育推進部 学生支援課／奨学支援係 電話 052-789-2172 E-Mail shien-menjo[a]t.mail.nagoya-u.ac.jp
(3) 奨学金 日本学生支援機構	<照会先>教育推進部 学生支援課／奨学支援係 電話 052-789-2175 E-Mail shien-jasso[a]t.mail.nagoya-u.ac.jp
(3) 奨学金 日本学生支援機構 以外	*応募等の諸手続きは、入学後に在学生専用サイトで案内します。 <照会先>教育推進部 学生支援課／奨学支援係 E-Mail shien-minkanshogaku[a]t.mail.nagoya-u.ac.jp

(4) 国の教育ローン（日本政策金融公庫）

本学の入学者や在学者は、保護者を通じて、日本政策金融公庫の「国の教育ローン」を利用することができます。「国の教育ローン」は、教育のために必要な資金を融資する公的な制度で、入学金やアパートの敷金などの入学時の費用や、授業料や教科書代、アパートの家賃などの在学中の費用に幅広く使えます。なお、申込みは合格発表前にもすることができます。

詳しくは、教育ローンコールセンター（ナビダイヤル0570-008656）にお問い合わせいただくか、以下のページにてご確認ください。

▶日本政策金融公庫ホームページ

<https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html>

融 資 額	学生1人につき350万円以内(一定の要件に該当する場合は、450万円以内)
返 済 期 間	18年以内

2. 学生の宿舎等

(1) 名古屋大学国際^{おうめいかん}嚶鳴館

<概要>

- ア 所在地等 〒466-0811 名古屋市昭和区高峯町165
東山キャンパスから南へ約700m（徒歩：約10分，自転車：約5分）
- イ 入居定員 291名
男子：211人（うち，外国人留学生34人）
女子：80人（うち，外国人留学生26人）
- ウ 入居期間 原則として1年（審査の上，延長可能）
- エ 施設概要 居室は個室（13㎡）ですが，キッチン，リビング，洗濯室は共同利用です。
- オ 設備概要 居室には，机，椅子，ベッド，ワードローブ，戸棚，ユニットバス・トイレ，エアコン，Wi-Fi環境があります。
- カ 経 費 寄宿料 月額16,000円（共益費を含む）／光熱水料 実費
- キ 申込資格 自宅(生計を一にする家族の住居)から通学に要する時間が片道2時間以上であること
- ク 審 査 本学の審査基準に基づいて，経済的状況等総合的に判断します。
参考例：年収（給与収入）が4人家族（両親，本人，私立高校在学の弟または妹）で
700万円以下 等
- ケ 申込方法等 宿舎申込方法等は，名古屋大学のホームページで案内します。（2023年12月中旬予定）
https://www.nagoya-u.ac.jp/academics/others_campuslife/dormitory/index.html

(2) アパート・マンション等

入居希望者には，名古屋大学消費生活協同組合（名大生協）において<合格前予約会>や<お部屋探し相談会>を開催し，紹介しています。

詳細は，58～59ページをご覧ください。

3. 学研災保険制度

学生教育研究災害傷害保険（学研災）は、学部生全員が加入することになっています。
（入学手続き時に入学料と併せて最短修業年限までの期間の保険料を納入）

ア 学生教育研究災害傷害保険制度

正課中（授業中・研究活動中）、学校行事中、学校施設内にいる間、課外活動中及び通学中に生じた不慮の災害事故により身体に傷害を被った場合の被害救済措置としての保険制度です。

イ 学研災付帯賠償責任保険制度

正課中（授業中・研究活動中）、学校行事中、課外活動中、インターンシップ、教育実習、医学部の実習、ボランティア活動及びその往復において他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりしたことにより、法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害を補償する措置としての保険制度です。

前記ア及びイを合計した保険料は、次のとおりです。

文・教育・法・経済・情報・理・工・農の各学部〔保険期間4年間〕	……………4,660円
医学部（医学科）〔保険期間6年間〕	……………7,800円
医学部（保健学科）〔保険期間4年間〕	……………5,370円

4. 学生生活の準備

(1) 定期健康診断及び健康相談

本学では、保健管理室（総合保健体育科学センター）において、毎年春に定期健康診断を行っています。また、心身共に健康で有意義な学生生活を送るために、心身両面にわたる健康に関して学生はいつでも気軽に相談できます。

(2) ノートPCの準備について

オンライン講義や自習等のために、ノートPCを準備していただくことを推奨します。
（ノートPCの推奨スペック等については、入学手続きの際にお知らせします）

(3) 名古屋大学消費生活協同組合（名大生協）からのご案内

■一人暮らし・すまいの紹介（アパート・マンション等）

一人暮らしの希望者には、名古屋大学消費生活協同組合（名大生協）において、お部屋探しの予約会や相談会を実施しています。

名古屋大学周辺の一般賃貸物件のお部屋代は、ワンルームタイプで35,000円～65,000円程度（共益費別）です。食事付きの学生会館もありますのでご相談ください。

詳細は、名大生協の「受験生・新入生応援サイト（<https://www.nucoop.jp/fresh/index.html>）」にて順次情報を掲載します。今後、スケジュールが変更になる場合もありますので、近づきましたら、名大生協の「受験生・新入生応援サイト」にてご確認ください。

<合格前予約会>

※令和5年11月時点

期 間	受付時間	場 所
2月23日(祝)～2月27日(火)	9:00～15:00	南部食堂2階「彩」 ※日程によっては会場変更の場合あり

※試験当日（2月25日～27日）の開催については、詳細が決定次第、名大生協「受験生・新入生応援サイト」でご案内します。

- ・合格の際に必ず入居することを条件に合格前にお部屋を1部屋押さえることができる予約会です。
- ・手付金等の費用は不要です。（一部物件を除く）
- ・円滑に案内が行えるよう到来場予約をお願いしています。

<お部屋探し相談会>

※令和5年11月時点

期 間	受付時間	場 所
3月9日(土)～3月13日(水)	9:00～15:00	南部食堂2階「彩」 ※日程によっては会場変更の場合あり

- ・お部屋探しに合わせて、新生活や入学準備に必要なものをトータルでご紹介します。
- ・来場が集中する期間となりますので原則として新入生サポートセンターの来場予約をお願いしています。
- ・3月14日以降は「すまい紹介コーナー」までお問い合わせください。

e-mail : nu-living@nucoop.jp

TEL : 052-788-7875 11:00～16:00（水、土日祝は閉店 ※2月、3月は土日祝のみ閉店）

■受験生向け情報提供・資料請求について

名古屋大学消費生活協同組合（名大生協）は、名古屋大学受験生・保護者向けに「住まい物件」、「入学準備」、「教科書・教材申込」、「ノートPC（大学の推奨スペックに準拠したもの）のご案内」などに関する情報や冊子を提供しています。

また、合格発表後に入学準備・教科書販売に関する説明会を3月9日（土）～3月13日（水）、3月16日（土）に開催予定です。説明会の詳細確認、申し込み・資料請求は、下記の名大生協「受験生・新入生応援サイト」から行うことができます。

※スケジュールは令和5年11月時点での予定です。今後変更になることもございますので、以下のサイトから最新情報をご確認ください。

※資料冊子の発送は3月上旬以降を予定しています。

<p>名大生協 「名古屋大学生のための 受験生・新入生応援サイト」 https://www.nucoop.jp/fresh/index.html</p>		<p>生協からの入学準備情報を、すぐに受け取ることができる、「名古屋大学生協新入生サポートセンターLINE公式アカウント」への友だち登録 https://www.nucoop.jp/fresh/start/start_346.html</p>	
<p><名大生協の受験生向け資料に関するお問い合わせ先> 名古屋大学消費生活協同組合・本部 Tel : 052-781-1111（平日 10:00～17:00）</p>			

【参考①】 令和5年度 名古屋大学入学試験結果（概要）

志願者・受験者・合格者数及び志願倍率一覧

学部・学科等	募集人員 (総計)	学校推薦型選抜					一般選抜・前期日程					一般選抜・後期日程						
		募集人員	志願者	受験者	合格者	志願倍率	募集人員	志願者	受験者	合格者	志願倍率	募集人員	志願者	受験者	合格者	志願倍率		
文 学 部	125	15	44	28	16	2.9	110	218	217	110	2.0	-	-	-	-	-		
教 育 学 部	65	10	22	19	11	2.2	55	171	158	58	3.1	-	-	-	-	-		
法 学 部	150	45	114	53	45	2.5	105	269	224	106	2.6	-	-	-	-	-		
経 済 学 部	205	40	63	60	40	1.6	165	361	331	171	2.2	-	-	-	-	-		
情報学部	自然情報学科	38	8	15	12	8	1.9	30	69	63	32	2.3	-	-	-	-	-	
	人間・社会情報学科	38	8	17	12	8	2.1	30	111	101	38	3.7	-	-	-	-	-	
	コンピュータ科学科	59	6	28	9	6	4.7	53	154	144	55	2.9	-	-	-	-	-	
	小 計	135	22	60	33	22	2.7	113	334	308	125	3.0	-	-	-	-	-	
理 学 部	270	50	120	75	50	2.4	220	543	497	223	2.5	-	-	-	-	-		
医学部	医学科	一 般 枠	107	12	31	20	12	2.6	85	227	204	89	2.7	5	76	18	5	15.2
		地 域 枠		-	-	-	-	-	5	23	20	5	4.6	-	-	-	-	-
	保健学科	看護学専攻	80	35	46	42	38	1.3	45	91	62	47	2.0	-	-	-	-	-
		放射線技術科学専攻	40	10	29	16	11	2.9	30	87	73	33	2.9	-	-	-	-	-
		検査技術科学専攻	40	15	38	27	15	2.5	25	77	62	26	3.1	-	-	-	-	-
		理学療法科学専攻	20	7	22	15	10	3.1	13	36	28	11	2.8	-	-	-	-	-
		作業療法科学専攻	20	7	9	9	7	1.3	13	36	31	18	2.8	-	-	-	-	-
		計	200	74	144	109	81	1.9	126	327	256	135	2.6	-	-	-	-	-
小 計	307	86	175	129	93	2.0	216	577	480	229	2.7	5	76	18	5	15.2		
工学部	化学生命工学科	99	9	26	20	9	2.9	90	155	149	90	1.7	-	-	-	-	-	
	物 理 工 学 科	83	8	16	15	8	2.0	75	131	125	75	1.7	-	-	-	-	-	
	マテリアル工学科	110	11	25	22	11	2.3	99	232	224	99	2.3	-	-	-	-	-	
	電気電子情報工学科	一 般 枠	118	6	33	14	6	5.5	106	291	279	106	2.7	-	-	-	-	-
		女子枠(女子枠併願含む)		6	9	9	6	1.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	機械・航空宇宙工学科	150	15	38	24	15	2.5	135	366	351	135	2.7	-	-	-	-	-	
	エネルギー理工学科	一 般 枠	40	3	10	7	3	3.3	34	76	72	34	2.2	-	-	-	-	-
		女子枠(女子枠併願含む)		3	5	5	3	1.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	環境土木・建築学科	環境土木工学プログラム	80	4	11	11	4	2.8	72	176	168	73	2.4	-	-	-	-	-
		建築学プログラム		4	7	7	3	1.8										
小 計	680	69	180	134	68	2.6	611	1,427	1,368	612	2.3	-	-	-	-	-		
農学部	生物環境科学科	35	8	18	18	9	2.3	27	60	54	28	2.2	-	-	-	-	-	
	資源生物科学科	55	12	28	28	12	2.3	43	136	124	45	3.2	-	-	-	-	-	
	応用生命科学科	80	14	46	46	14	3.3	66	162	142	67	2.5	-	-	-	-	-	
	小 計	170	34	92	92	35	2.7	136	358	320	140	2.6	-	-	-	-	-	
合 計	2,107	371	870	623	380	2.3	1,731	4,258	3,903	1,774	2.5	5	76	18	5	15.2		

【注】(1) 学校推薦型選抜の受験者には、第1次選考での不合格者は含みません。
(2) 表中の志願倍率は「第1志望の志願者/試験種別の募集人員」で算出してあります。

合格者成績

■一般選抜 前期日程

※合格者成績は得点率で示しています。

区 分	大学入学共通テスト得点		個別試験得点		総合得点 (共通テストと個別試験の合計点)				
	満点	合格者成績 (平均得点率：%)	満点	合格者成績 (平均得点率：%)	満点	合格者成績 (平均得点率：%)			
						最高点	最低点	平均点	
文 学 部	900	80.64	1,200	64.05	2,100	80.24	66.05	71.16	
教 育 学 部		77.16	1,800	65.63	2,700	82.11	65.48	69.53	
法 学 部		78.89	600	60.97	1,500	81.33	68.20	71.71	
経 済 学 部		78.13	1,500	65.28	2,400	83.88	65.04	70.10	
情報学部		自然情報学科	81.23	1,100	58.49	2,000	84.50	63.35	68.72
		人間・社会情報学科	79.98		65.05		79.70	68.35	71.70
		コンピュータ科学科	84.44	1,300	63.56	2,200	85.18	67.55	72.10
理 学 部		79.40	1,450	59.20	2,350	78.98	61.49	66.92	
医学部		医 学 科	88.29	1,650	72.20	2,550	84.35	73.76	77.92
		保健学科	看護学専攻		70.15		48.25	63.73	51.45
	放射線技術科学専攻		70.89		49.39		62.55	52.98	56.80
	検査技術科学専攻		73.90		53.31		70.90	55.22	60.70
	理学療法科学専攻		74.79		53.17		63.84	58.47	60.80
	作業療法科学専攻		68.03		48.36		62.55	51.29	55.14
工学部	化学生命工学科	77.16	1,300	58.07	1,900	81.32	59.11	64.04	
	物 理 工 学 科	75.28		58.81		70.47	61.05	64.01	
	マテリアル工学科	75.71		58.42		76.37	60.74	63.88	
	電気電子情報工学科	78.29		62.09		76.84	62.53	67.21	
	機械・航空宇宙工学科	79.48		62.35		78.16	63.21	67.74	
	エネルギー理工学科	75.91		58.44		71.89	61.63	63.96	
	環境土木・建築学科	78.14		58.79		71.16	61.26	64.90	
農学部	生物環境科学科	77.37	1,550	54.32	2,450	70.69	60.00	62.78	
	資源生物科学科	77.33		58.26		73.35	61.35	65.30	
	応用生命科学科	77.67		58.03		83.47	61.67	65.24	

■学校推薦型選抜

区 分	合格者成績 (平均得点率：%)		
教 育 学 部	77.77		
法 学 部	80.43		
経 済 学 部	77.05		
情報学部	自然情報学科	77.54	
	人間・社会情報学科	78.81	
	コンピュータ科学科	85.31	
理 学 部	79.12		
医学部	医 学 科	88.35	
	保健学科	看護学専攻	71.41
		放射線技術科学専攻	75.31
		検査技術科学専攻	75.12
		理学療法科学専攻	73.82
		作業療法科学専攻	68.32
工学部	化学生命工学科	78.43	
	物 理 工 学 科	78.08	
	マテリアル工学科	78.67	
	電気電子情報工学科	81.48	
	機械・航空宇宙工学科	81.93	
	エネルギー理工学科	77.19	
	環境土木・ 建築学科	環境土木工学プログラム 建築学プログラム	—
農学部	生物環境科学科	78.47	
	資源生物科学科	81.16	
	応用生命科学科	81.66	

【一般選抜：注】

- (1)合格発表時の得点に基づき作成しています。
- (2)総合成績(大学入学共通テストと個別試験の合計点)は、個別試験の選択科目の得点調整を行った上での成績となっています。
- (3)工学部及び農学部の合格者成績は、「高得点者選抜」を除いたものです。
- (4)工学部の合格最低点は、追加合格者を除く合格者の最低点となっています。
- (5)医学部医学科の後期日程試験は試験成績の開示は行いません。
- (6)合格者成績には、医学部保健学科では第2志望専攻の合格者、工学部と農学部では第2志望学科の合格者を含んでいます。

【学校推薦型選抜：注】

- (1)合格者の「大学入学共通テスト」の得点率を示しています。
- (2)合格発表時の得点に基づき作成しています。
- (3)原則として、合格者が5名未満の入試区分に関しては、合格者成績の公開を行いません。

【参考②】 令和7年度以降の入学者選抜方法について

令和7年度以降の入学者選抜について、以下のとおり実施します。変更等があり次第、随時以下のホームページに概要を公表します。

▶名古屋大学受験生応援サイト→入試に関するお知らせ (NEWS)

<https://www.nagoya-u.ac.jp/admissions/news/>

なお、国際プログラム群学部学生入試（10月入学）における入学者選抜方法の変更等は、G30（グローバル30）国際プログラムのサイトで確認してください。（<https://admissions.g30.nagoya-u.ac.jp/>）

(1) 令和7年度以降の大学入学共通テストの利用教科・科目および一般選抜の実施教科・科目等

次ページ以降（P.63～67）の「(令和7年度選抜) 一般選抜の実施教科・科目等」の一覧および【注】を参照してください。なお、学校推薦型選抜における大学入学共通テストの利用教科・科目は、一般選抜の実施教科・科目に準じます。

(2) 本学の令和7年度入試における旧教育課程履修者等に対する経過措置

経過措置が適用される対象者と本学の「大学入学共通テストにおける経過措置」および「個別学力検査における経過措置」の詳細については、P.68～70を参照してください。

(3) 理学部における令和7年度以降の入学者選抜の変更について

理学部では、令和7年度入学者選抜（令和6年度実施）から以下3点の変更を行います。

各詳細は、P.71～74を参照してください。

1. 総合型選抜の導入
2. 学校推薦型選抜の変更
3. 一般選抜の大学入学共通テスト及び個別学力検査の科目と配点の変更

(4) 工学部化学生命工学科および機械・航空宇宙工学科における学校推薦型選抜の変更について

工学部化学生命工学科および機械・航空宇宙工学科では、令和7年度入学者選抜（令和6年度実施）から、学校推薦型選抜において女子枠を設定します。詳細は、P.75を参照してください。

(5) 医学部医学科一般選抜における令和7年度以降の個別学力検査の科目と配点の変更について

令和7年度以降の入学者選抜から以下のとおり変更します。

【変更前】	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	小論文	配点合計
	150		500	500	500		1650
↓	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	小論文	配点合計
			600	600	600		1800
【変更後】							

(1) (令和7年度選抜) 一般選抜の実施教科・科目等

学部学科 専攻名	学力検査等の 区分・ 日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名【注1】		個別学力検査等【注2】			大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等【注3(1)】								
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の区分	国語	地歴・ 公民	数学	理科	外国語	情報	小論文	配点 合計
文学部	前期 2月 25日 ・26日	国 地歴 公民 数 理 外 情	国 地総・地探、歴総・日探、歴総・世探 } から2 公・倫、公・政経 数Ⅰ・数Aと数Ⅱ・数B・数C 物基・化基・生基・地学基（2つの内 容の問題を選択） 英、独、仏、中、韓から1 情Ⅰ 〔6教科8科目又は7教科8科目〕	国 地歴 数 外	現代の国語・言語文化・論理国語・ 文学国語・古典探究 地総・地探、歴総・日探、歴総・世探から1 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B・数C 英（「英語コミュニケーションⅠ」・ 「英語コミュニケーションⅡ」・「英語 コミュニケーションⅢ」・「論理・表現 Ⅰ」・「論理・表現Ⅱ」・「論理・表現Ⅲ」 の6科目をあわせて出題。）	実施 しない	共通テスト	200	200	200	100	200	50		950
							個別学力検査	400	200	200		400			1200
							計	600	400	400	100	600	50		2150
教育学部	前期 2月 25日 ・26日	国 地歴 公民 理 数 外 情	国 地総・地探、歴総・日探、歴総・世探 } から 公・倫、公・政経 } 1又は2 物基・化基・生基・地学基、 } から3 物、化、生、地学から1又は2 (ただし、基礎を付した科目は 2つの内容の問題で1とする。) 数Ⅰ・数Aと数Ⅱ・数B・数C 英、独、仏、中、韓から1 情Ⅰ 〔6教科8科目又は7教科8科目〕	国 数 外	現代の国語・言語文化・論理国語・ 文学国語・古典探究 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B・数C 英（「英語コミュニケーションⅠ」・ 「英語コミュニケーションⅡ」・「英語 コミュニケーションⅢ」・「論理・表現 Ⅰ」・「論理・表現Ⅱ」・「論理・表現Ⅲ」 の6科目をあわせて出題。）	実施 しない	共通テスト	200	100 又は 200	200	100 又は 200	200	50		950
							個別学力検査	600		600		600			1800
							計	800	100 又は 200	800	100 又は 200	800	50		2750
法学部	前期 2月 25日 ・26日	国 地歴 公民 数 理 外 情	国 地総・地探、歴総・日探、歴総・世探 } から2 公・倫、公・政経 数Ⅰ・数Aと数Ⅱ・数B・数C 物基・化基・生基・地学基（2つの内 容の問題を選択） 英、独、仏、中、韓から1 情Ⅰ 〔6教科8科目又は7教科8科目〕	数 外 その他	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B・数C 英（「英語コミュニケーションⅠ」・ 「英語コミュニケーションⅡ」・「英語 コミュニケーションⅢ」・「論理・表現 Ⅰ」・「論理・表現Ⅱ」・「論理・表現Ⅲ」 の6科目をあわせて出題。） 小論文（高等学校の地歴、公民の学習 を前提とする。）	実施 しない	共通テスト	200	200	200	100	200	50		950
							個別学力検査			200		200		200	600
							計	200	200	400	100	400	50	200	1550
経済学部	前期 2月 25日 ・26日	国 地歴 公民 数 理 外 情	国 地総・地探、歴総・日探、歴総・世探 } から2 公・倫、公・政経 数Ⅰ・数Aと数Ⅱ・数B・数C 物基・化基・生基・地学基（2つの内 容の問題を選択） 英、独、仏、中、韓から1 情Ⅰ 〔6教科8科目又は7教科8科目〕	国 数 外	現代の国語・言語文化・論理国語・ 文学国語・古典探究 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B・数C 英（「英語コミュニケーションⅠ」・ 「英語コミュニケーションⅡ」・「英語 コミュニケーションⅢ」・「論理・表現 Ⅰ」・「論理・表現Ⅱ」・「論理・表現Ⅲ」 の6科目をあわせて出題。）	実施 しない	共通テスト	200	200	200	100	200	50		950
							個別学力検査	500		500		500			1500
							計	700	200	700	100	700	50		2450

学部学科 専攻名		学力検査等の 区分・ 日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名【注1】		個別学力検査等【注2】			大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等【注3(1)】									
			教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の区分	国語	地歴・ 公民	数学	理科	外国語	情報	小論文	配点 合計	
情報学部	自然情報 学科	前期 2月 25日 ・26日	国 地歴 公民 数理 外情	国 地総・地探、歴総・日探、歴総・世探 } から1 公・倫、公・政経 数Ⅰ・数Aと数Ⅱ・数B・数C 物、化、生、地学から2 英、独、仏、中、韓から1 情Ⅰ 〔6教科8科目〕	数理 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C 物基・物、化基・化、生基・生、地学 基・地学から1 英〔「英語コミュニケーションⅠ」・ 「英語コミュニケーションⅡ」・「英語 コミュニケーションⅢ」・「論理・表現 Ⅰ」・「論理・表現Ⅱ」・「論理・表現Ⅲ」 の6科目をあわせて出題。〕	実施 しない	共通テスト	200	100	200	200	200	50		950	
								個別学力検査				400	300	400			1100
								計	200	100	600	500	600	50		2050	
人間・社会 情報学科	前期 2月 25日 ・26日	国 地歴 公民 数理 外情	国 地総・地探、歴総・日探、歴総・世探 } から2 公・倫、公・政経 数Ⅰ・数Aと数Ⅱ・数B・数C 物基・化基・生基・地学基（2つの内 容の問題を選択） 英、独、仏、中、韓から1 情Ⅰ 〔6教科8科目又は7教科8科目〕	地歴 数 外	地総・地探、歴総・日探、歴総・世探 } から1 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B・数C 英〔「英語コミュニケーションⅠ」・ 「英語コミュニケーションⅡ」・「英語 コミュニケーションⅢ」・「論理・表現 Ⅰ」・「論理・表現Ⅱ」・「論理・表現Ⅲ」 の6科目をあわせて出題。〕	実施 しない	共通テスト	200	200	200	100	200	50		950		
							個別学力検査				400	400		700		1100	
							計	200	200	200	100	900	50		2050		
コンピュータ 科学科	前期 2月 25日 ・26日	国 地歴 公民 数理 外情	国 地総・地探、歴総・日探、歴総・世探 } から1 公・倫、公・政経 数Ⅰ・数Aと数Ⅱ・数B・数C 物と 化、生、地学から1 英、独、仏、中、韓から1 情Ⅰ 〔6教科8科目〕	数理 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C 物基・物、化基・化、生基・生、地学 基・地学から2（ただし、物基・物を含 むこと。） 英〔「英語コミュニケーションⅠ」・ 「英語コミュニケーションⅡ」・「英語 コミュニケーションⅢ」・「論理・表現 Ⅰ」・「論理・表現Ⅱ」・「論理・表現Ⅲ」 の6科目をあわせて出題。〕	実施 しない	共通テスト	200	100	200	200	200	50		950		
							個別学力検査				500	500	300		1300		
							計	200	100	700	700	500	50		2250		
理学部		前期 2月 25日 ・26日	国 地歴 公民 数理 外情	国 地総・地探、歴総・日探、歴総・世探 } から1 公・倫、公・政経 数Ⅰ・数Aと数Ⅱ・数B・数C 物、化、生、地学から2 英、独、仏、中、韓から1 情Ⅰ 〔6教科8科〕	数理 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C 物基・物、化基・化、生基・生、 地学基・地学から2 英〔「英語コミュニケーションⅠ」・ 「英語コミュニケーションⅡ」・「英語 コミュニケーションⅢ」・「論理・表現 Ⅰ」・「論理・表現Ⅱ」・「論理・表現Ⅲ」 の6科目をあわせて出題。〕	実施 しない	共通テスト	300	100	100	100	250	50		900	
								個別学力検査				600	600	300		1500	
								計	300	100	700	700	550	50		2400	

学部学科 専攻名		学力検査等の 区分・ 日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名【注1】		個別学力検査等【注2】			大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等【注3(1)】								
			教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の区分	国語	地歴・ 公民	数学	理科	外国語	情報	小論文	配点 合計
医学部	医学科	前期 2月 25日 ・26日 ・27日 外情	国 地歴 公民	国 地総・地探、歴総・日探、歴総・世探 } から1 公・倫、公・政経 数Ⅰ・数Aと数Ⅱ・数B・数C 物、化、生から2 英、独、仏、中、韓から1 情Ⅰ 〔6教科8科目〕	数 理 外 その他	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C 物基・物、化基・化、生基・生から2 英（「英語コミュニケーションⅠ」・ 「英語コミュニケーションⅡ」・「英語 コミュニケーションⅢ」・「論理・表現 Ⅰ」・「論理・表現Ⅱ」・「論理・表現Ⅲ」 の6科目をあわせて出題。） 面接	【注4】	共通テスト	200	100	200	200	200	50		950
								個別学力検査			600	600	600			1800
							計	200	100	800	800	800	50		2750	
		後期 3月 12日			その他	英文の課題に基づいた面接（口頭試問）	【注4】	共通テスト	200	100	200	200	200	50		950
								個別学力検査								
							計		200	100	200	200	200	50		950
保健 学 科	看護学専攻	前期	国 地歴 公民	国 地総・地探、歴総・日探、歴総・世探 } から1 公・倫、公・政経 数Ⅰ・数Aと数Ⅱ・数B・数C 物、化、生から2 英、独、仏、中、韓から1 情Ⅰ 〔6教科8科目〕	国 数 理 外	現代の国語・言語文化（古文、漢文を 除く）・論理国語・文学国語 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C 物基・物、化基・化、生基・生から2 英（「英語コミュニケーションⅠ」・ 「英語コミュニケーションⅡ」・「英語 コミュニケーションⅢ」・「論理・表現 Ⅰ」・「論理・表現Ⅱ」・「論理・表現Ⅲ」 の6科目をあわせて出題。）	実施 しない	共通テスト	200	100	200	200	200	50		950
	放射線技術 科学専攻	2月 25日 ・26日						個別学力検査	150		500	500	500			1650
	検査技術 科学専攻							計	350	100	700	700	700	50		2600
	理学療法学 専攻															
作業療法学 専攻																

学部学科 専攻名		学力検査等の 区分・ 日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名【注1】		個別学力検査等【注2】			大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等【注3(1)】												
			教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の区分	国語	地歴・ 公民	数学	理科	外国語	情報	小論文	配点 合計				
工学部	化学生命工 学科	前期 2月	国 地歴 公民	国 地総・地探, 歴総・日探, 歴総・世探 } から1 公・倫, 公・政経	数 理 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C 物基・物と化基・化 英(「英語コミュニケーションⅠ」・ 「英語コミュニケーションⅡ」・「英語 コミュニケーションⅢ」・「論理・表現 Ⅰ」・「論理・表現Ⅱ」・「論理・表現Ⅲ」 の6科目をあわせて出題。)	実施 しない	共通テスト	200	100	100	100	100	35		635				
								個別学力検査			500	500	300		1300					
	計	200	100	600				600	400	35		1935								
	前期 2月 25日 ・26日	数 理 外 情	数Ⅰ・数Aと数Ⅱ・数B・数C 物と化 英, 独, 仏, 中, 韓から1 情Ⅰ (6教科8科目)	数 理 外				現代の国語・言語文化(古文, 漢文を 除く)・論理国語・文学国語 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C 物基・物, 化基・化, 生基・生から2 英(「英語コミュニケーションⅠ」・ 「英語コミュニケーションⅡ」・「英語 コミュニケーションⅢ」・「論理・表現 Ⅰ」・「論理・表現Ⅱ」・「論理・表現Ⅲ」 の6科目をあわせて出題。)	実施 しない	共通テスト	200	100	200	200	200	50		950		
	個別学力検査									150		400	600	400		1550				
	計									350	100	600	800	600	50		2500			
	資源生物科 学科									25日 ・26日	数 理 外 情	数Ⅰ・数Aと数Ⅱ・数B・数C 物, 化, 生, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 情Ⅰ (6教科8科目)	数 理 外	現代の国語・言語文化(古文, 漢文を 除く)・論理国語・文学国語 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C 物基・物, 化基・化, 生基・生から2 英(「英語コミュニケーションⅠ」・ 「英語コミュニケーションⅡ」・「英語 コミュニケーションⅢ」・「論理・表現 Ⅰ」・「論理・表現Ⅱ」・「論理・表現Ⅲ」 の6科目をあわせて出題。)	実施 しない	共通テスト	200	100	200	200
個別学力検査	150					400	600									400		1550		
計	350	100	600		800	600	50				2500									
応用生命科 学科					数 理 外	現代の国語・言語文化(古文, 漢文を 除く)・論理国語・文学国語 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C 物基・物, 化基・化, 生基・生から2 英(「英語コミュニケーションⅠ」・ 「英語コミュニケーションⅡ」・「英語 コミュニケーションⅢ」・「論理・表現 Ⅰ」・「論理・表現Ⅱ」・「論理・表現Ⅲ」 の6科目をあわせて出題。)	実施 しない			共通テスト	200	100				200	200	200	50	
個別学力検査	150		400	600				400		1550										
計	350	100	600	800				600	50		2500									

【注1】〈大学入学共通テストの利用教科・科目名〉欄について

- (1) 教科名は次のとおり略記しています。
国(国語)、地歴(地理歴史)、数(数学)、理(理科)、外(外国語)、情(情報)
- (2) 科目名は次のとおり略記しています。
国(国語)、地総・地探(地理総合、地理探究)、歴総・世探(歴史総合、世界史探究)、歴総・日探(歴史総合、日本史探究)、公・倫(公共、倫理)、公・政経(公共、政治・経済)、数Ⅰ・数A(数学Ⅰ、数学A)、数Ⅱ・数B・数C(数学Ⅱ、数学B、数学C)、物基・化基・生基・地学基(物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎)、物(物理)、化(化学)、生(生物)、英(英語)、独(ドイツ語)、仏(フランス語)、中(中国語)、韓(韓国語)、情Ⅰ(情報Ⅰ)
- (3) 「外国語」の「英語」を選択した場合には、リスニングテストを全学部で課します。
- (4) 指定した教科・科目数を超過して受験した場合には、第1解答科目の成績を用います。第1解答科目が指定した教科・科目でない場合には、出願することができません。
ただし、理科で基礎を付した科目の選択を求めている学部学科等においては、基礎を付していない科目を選択した場合も出願を認めることとし、その場合は基礎を付していない1科目(理科を2科目選択した場合は第1解答科目)の成績を用います。(なお、教育学部については、(5)を参照のこと)
理科における基礎を付した科目は「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」を示します。理科における基礎を付していない科目とは、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」を示します。
- (5) 教育学部における地歴・公民と理科の選択については、以下のとおりとします。ただし、理科において基礎を付した科目は2科目の内容の問題で1(科目)として扱います。
理科は同一名称を付した科目の組み合わせ(「物理基礎、化学基礎」と「物理」など)はできません。この組み合わせで受験した場合は、第1解答科目のみを有効とします。
地歴・公民及び理科をそれぞれ2科目受験し、いずれも有効な場合は、地歴・公民の第1解答科目、理科の第1解答科目に加えて、地歴・公民と理科の第2解答科目のうちから高得点の1科目を採用します。
- (6) 地歴・公民において、2科目受験の場合、「公共、倫理」と「公共、政治・経済」の組み合わせを選択することはできません。

【注2】〈個別学力検査等の教科等及び科目名等〉欄について

- (1) 教科名は次のとおり略記しています。
国(国語)、地歴(地理歴史)、数(数学)、理(理科)、外(外国語)
- (2) 科目名は次のとおり略記しています。
地総・地探(地理総合、地理探究)、歴総・世探(歴史総合、世界史探究)、歴総・日探(歴史総合、日本史探究)、数Ⅰ(数学Ⅰ)、数Ⅱ(数学Ⅱ)、数Ⅲ(数学Ⅲ)、数A(数学A)、数B(数学B)、数C(数学C)、物基(物理基礎)、化基(化学基礎)、生基(生物基礎)、地学基(地学基礎)、物(物理)、化(化学)、生(生物)、英(英語)
- (3) 「数学」
・ 文学部、教育学部、法学部、経済学部、情報学部人間・社会情報学科
数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱは全範囲から出題します。数学Bは「数列」から、数学Cは「ベクトル」から出題します。
・ 情報学部自然情報学科、情報学部コンピュータ科学科、理学部、医学部医学科、医学部保健学科、工学部、農学部
数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学Ⅲは全範囲から出題します。数学Bは「数列」から、数学Cは「ベクトル」と「平面上の曲線と複素数平面」から出題します。
・ 数学の試験については、試験室において公式集を配付します。
- (4) 「理科」
・ 「物理基礎・物理」は物理基礎、物理の全範囲から出題します。
・ 「化学基礎・化学」は化学基礎、化学の全範囲から出題します。
・ 「生物基礎・生物」は生物基礎、生物の全範囲から出題します。
・ 「地学基礎・地学」は地学基礎、地学の全範囲から出題します。
- (5) 「国語」
・ 「論理国語」と「文学国語」について、国語を論理と文学に分割する基準が明確でないという観点から、両科目を併記しています。
- (6) 選択科目間で得点調整を行う場合があります。

【注3】〈大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等〉欄について

- (1) 大学入学共通テストの「外国語」の英語は、リーディングとリスニングの配点比率を「3:1」とし、リーディングは150点満点、リスニングは50点満点にそれぞれ換算し、合計点を200点満点とします。(理学部は250点満点、工学部は100点満点に換算します。)
なお、受験上の配慮事項によりリスニングテストを免除された者については、リーディングを200点満点に換算します。(理学部は250点満点、工学部は100点満点に換算します。)
- (2) 選択教科を表します。

【注4】医学部医学科(前期日程・後期日程)の2段階選抜について

- 前期日程については、大学入学共通テストの成績が950点満点中600点以上の者を第1段階選抜の合格者とします。
後期日程については、募集人員(5名)の約12倍までの者を、大学入学共通テストの成績に基づいて第1段階選抜の合格者とします。

(2) 本学の令和7年度入試における旧教育課程履修者等に対する経過措置

旧教育課程履修者等*に対する経過措置について、以下のとおりとします。

○旧教育課程履修者等*

下記「新教育課程履修者」以外の者（高等学校等卒業者，高等学校卒業程度認定試験合格者又は合格見込者，大学入学資格検定合格者，高等専門学校第3学年修了者又は修了見込者，高等専修学校（文部科学大臣に指定された高等専修学校に限る。）修了者又は修了見込み者，外国の学校等修了者又は修了見込者，在外教育施設修了者又は修了見込者，及び高等学校等を令和7年3月卒業見込みであるが入学は令和4年3月以前の者など上記に該当しない者）

○新教育課程履修者

- ①高等学校（特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。）に令和4年4月に入学し，平成30年告示学習指導要領に基づく教育課程の下で学び，令和7年3月に卒業見込みの者
- ②中等教育学校の後期課程に令和4年4月に進級し，平成30年告示学習指導要領に基づく教育課程の下で学び，令和7年3月卒業見込みの者

1. 大学入学共通テストにおける経過措置について

旧教育課程履修者等に対する経過措置として出題される経過措置科目の選択を認める。

経過措置科目の選択方法及び配点は以下のとおりとする。

学部・学科	教科	科目名等【注1】	配点【注2】
文学部	国語	「国語」	200
	地歴	「旧世界史B」,「旧日本史B」,「旧地理B」	}から2
	公民	「旧倫理,旧政治・経済」	
	数学	「旧数学Ⅰ・旧数学A」と 「旧数学Ⅱ・旧数学B」,「旧簿記・会計」,「旧情報関係基礎」から1	200
	理科	「物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎」(2つの内容の問題を選択)	100
	外国語	「英語」,「ドイツ語」,「フランス語」,「中国語」,「韓国語」から1	200
	情報	「旧情報」	50

学部・学科	教科	科目名等【注1】	配点【注2】
教育学部	国語	「国語」	200
	地歴	「旧世界史B」,「旧日本史B」,「旧地理B」	}から1 又は2
	公民	「旧倫理,旧政治・経済」	
	理科	「物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎」,「物理」,「化学」, 「生物」,「地学」から1又は2(ただし,基礎を付した科目は 2つの内容の問題で1とする。)	}から3 100又は200
	数学	「旧数学Ⅰ,旧数学A」と 「旧数学Ⅱ,旧数学B」,「旧簿記・会計」,「旧情報関係基礎」から1	200
	外国語	「英語」,「ドイツ語」,「フランス語」,「中国語」,「韓国語」から1	200
情報	「旧情報」	50	

学部・学科	教科	科目名等【注1】	配点【注2】
法学部	国語	「国語」	200
	地歴	「旧世界史B」,「旧日本史B」,「旧地理B」	}から2
	公民	「旧倫理,旧政治・経済」	
	数学	「旧数学Ⅰ・旧数学A」と 「旧数学Ⅱ・旧数学B」,「旧簿記・会計」,「旧情報関係基礎」から1	200
	理科	「物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎」(2つの内容の問題を選択)	100
	外国語	「英語」,「ドイツ語」,「フランス語」,「中国語」,「韓国語」から1	200
	情報	「旧情報」	50

学部・学科	教科	科目名等【注1】	配点【注2】
経済学部	国語	「国語」	200
	地歴	「旧世界史B」,「旧日本史B」,「旧地理B」	}から2
	公民	「旧倫理,旧政治・経済」	
	数学	「旧数学I・旧数学A」と 「旧数学II・旧数学B」,「旧簿記・会計」,「旧情報関係基礎」から1	200
	理科	「物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎」(2つの内容の問題を選択)	100
	外国語	「英語」,「ドイツ語」,「フランス語」,「中国語」,「韓国語」から1	200
情報	「旧情報」	50	

学部・学科	教科	科目名等【注1】	配点【注2】
情報学部 自然情報学科	国語	「国語」	200
	地歴	「旧世界史B」,「旧日本史B」,「旧地理B」	}から1
	公民	「旧倫理,旧政治・経済」	
	数学	「旧数学I,旧数学A」と 「旧数学II,旧数学B」,「旧簿記・会計」,「旧情報関係基礎」から1	200
	理科	「物理」,「化学」,「生物」,「地学」から2	200
	外国語	「英語」,「ドイツ語」,「フランス語」,「中国語」,「韓国語」から1	200
情報	「旧情報」	50	

学部・学科	教科	科目名等【注1】	配点【注2】
情報学部 人間・社会情報学科	国語	「国語」	200
	地歴	「旧世界史B」,「旧日本史B」,「旧地理B」	}から2
	公民	「旧倫理,旧政治・経済」	
	数学	「旧数学I,旧数学A」と 「旧数学II,旧数学B」,「旧簿記・会計」,「旧情報関係基礎」から1	200
	理科	「物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎」(2つの内容の問題を選択)	100
	外国語	「英語」,「ドイツ語」,「フランス語」,「中国語」,「韓国語」から1	200
情報	「旧情報」	50	

学部・学科	教科	科目名等【注1】	配点【注2】
情報学部 コンピュータ科学科	国語	「国語」	200
	地歴	「旧世界史B」,「旧日本史B」,「旧地理B」	}から1
	公民	「旧倫理,旧政治・経済」	
	数学	「旧数学I,旧数学A」と 「旧数学II,旧数学B」,「旧簿記・会計」,「旧情報関係基礎」から1	200
	理科	「物理」と 「化学」,「生物」,「地学」から1	200
	外国語	「英語」,「ドイツ語」,「フランス語」,「中国語」,「韓国語」から1	200
情報	「旧情報」	50	

学部・学科	教科	科目名等【注1】	配点【注2】
理学部	国語	「国語」	300
	地歴	「旧世界史B」,「旧日本史B」,「旧地理B」	}から1
	公民	「旧倫理,旧政治・経済」	
	数学	「旧数学I,旧数学A」と 「旧数学II,旧数学B」,「旧簿記・会計」,「旧情報関係基礎」から1	100
	理科	「物理」,「化学」,「生物」,「地学」から2	100
	外国語	「英語」,「ドイツ語」,「フランス語」,「中国語」,「韓国語」から1	250
情報	「旧情報」	50	

学部・学科	教科	科目名等【注1】	配点【注2】
医学部 医学科【注3】 保健学科	国語	「国語」	200
	地歴	「旧世界史B」,「旧日本史B」,「旧地理B」	}から1
	公民	「旧倫理,旧政治・経済」	
	数学	「旧数学I,旧数学A」と 「旧数学II,旧数学B」,「旧簿記・会計」,「旧情報関係基礎」から1	200
	理科	「物理」,「化学」,「生物」から2	200
	外国語	「英語」,「ドイツ語」,「フランス語」,「中国語」,「韓国語」から1	200
情報	「旧情報」	50	

学部・学科	教科	科目名等【注1】	配点【注2】
工学部	国語	「国語」	200
	地歴	「旧世界史B」,「旧日本史B」,「旧地理B」 「旧倫理,旧政治・経済」 } から1	100
	公民		
	数学	「旧数学I,旧数学A」と 「旧数学II,旧数学B」,「旧簿記・会計」,「旧情報関係基礎」から1	100
	理科	「物理」と「化学」	100
	外国語	「英語」,「ドイツ語」,「フランス語」,「中国語」,「韓国語」から1	100
情報	「旧情報」	35	

学部・学科	教科	科目名等【注1】	配点【注2】
農学部	国語	「国語」	200
	地歴	「旧世界史B」,「旧日本史B」,「旧地理B」 「旧倫理,旧政治・経済」 } から1	100
	公民		
	数学	「旧数学I,旧数学A」と 「旧数学II,旧数学B」,「旧簿記・会計」,「旧情報関係基礎」から1	200
	理科	「物理」,「化学」,「生物」,「地学」から2	200
	外国語	「英語」,「ドイツ語」,「フランス語」,「中国語」,「韓国語」から1	200
情報	「旧情報」	50	

【注1】〈科目名等〉欄について

- 「旧簿記・会計」及び「旧情報関係基礎」を受験できる者は、高等学校又は中等教育学校の普通科・理数科系を除く学科においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高専課程の修了（見込み）者に限ります。
なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目（社会と情報・情報の科学等）を履修した者は該当しません。
- 「外国語」の「英語」を選択した場合には、リスニングテストを全学部で課します。
- 指定した教科・科目数を超えて受験した場合には、第1解答科目の成績を用います。第1解答科目が指定した教科・科目でない場合には、出願することができません。
ただし、理科で基礎を付した科目の選択を求めている学部学科等においては、基礎を付していない科目を選択した場合も出願を認めることとし、その場合は基礎を付していない1科目（理科を2科目選択した場合は第1解答科目）の成績を用います。（なお、教育学部については、（4）を参照のこと）
理科における基礎を付した科目とは「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」を示します。理科における基礎を付していない科目とは、「物理」,「化学」,「生物」,「地学」を示します。
- 教育学部における地歴・公民と理科の選択については、以下のとおりとします。ただし、理科において基礎を付した科目は2科目の内容の問題で1（科目）として扱います。
理科は同一名称を付した科目の組み合わせ（「物理基礎、化学基礎」と「物理」など）はできません。この組み合わせで受験した場合は、第1解答科目のみを有効とします。
地歴・公民及び理科をそれぞれ2科目受験し、いずれも有効な場合は、地歴・公民の第1解答科目、理科の第1解答科目に加えて、地歴・公民と理科の第2解答科目のうちから高得点の1科目を採用します。

【注2】〈配点〉欄について

大学入学共通テストの「外国語」の英語は、リーディングとリスニングの配点比率を「3：1」とし、リーディングは150点満点、リスニングは50点満点にそれぞれ換算し、合計点を200点満点とします。（理学部は250点満点、工学部は100点満点に換算します。）
なお、受験上の配慮事項によりリスニングテストを免除された者については、リーディングを200点満点に換算します。（理学部は250点満点、工学部は100点満点に換算します。）

【注3】医学部医学科（前期日程・後期日程）の2段階選抜について

前期日程については、大学入学共通テストの成績が950点満点中600点以上の者を第1段階選抜の合格者とします。
後期日程については、募集人員（5名）の約12倍までの者を、大学入学共通テストの成績に基づいて第1段階選抜の合格者とします。

2. 個別学力検査における経過措置について

各教科・科目において、新教育課程による出題科目とこれに対する旧課程の科目との共通内容を出題する等の配慮を行うが、特別な経過措置は取らない。

なお、各学部における個別学力検査の利用教科・科目及び配点については、「令和7年度以降の入学選抜方法について（一般選抜の実施教科・科目及び配点、学校推薦型選抜における大学入学共通テストの利用科目・教科等）」*のとおりとする。

*本要項の【参考②】（1）参照

(3) 理学部における令和7年度以降の入学選抜の変更について

1. 総合型選抜について

大学入学共通テストを課す総合型選抜を数理学科、物理学科及び地球惑星科学科の3学科で、大学入学共通テストを課さない総合型選抜を化学科及び生命理学科の2学科で実施します。

理学部では2年進級次に各学科に所属をしますが、本選抜による入学者は、2年次の学科所属において、優先的に合格した学科に所属となります。ただし、学生が合格学科以外の学科への所属を希望する場合はそれを妨げません。

■入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

(1) 入学者受入れの方針

自然界を貫く真理の探究に挑むため、総合的な基礎学力に加えて理学の諸分野における幅広い教養と深い知識を持ち、チャレンジ精神と知的好奇心に満ちあふれた、瑞々しい創造力をもつ人を求めています。

(2) 総合型選抜（大学入学共通テストを課す）の基本方針

総合型選抜では、専門分野への強い知的好奇心とチャレンジ精神を持った学生を選抜するため、学科独自の選考を行います。大学入学共通テストにより基礎学力を測ると共に、提出書類により高校での学習成果や様々な活動への自主的な取組状況を、面接により専門分野に対する理解力、表現力、説明力を評価します。

(3) 総合型選抜（大学入学共通テストを課さない）の基本方針

総合型選抜では、専門分野への強い知的好奇心とチャレンジ精神を持った学生を選抜するため、学科独自の選考を行います。提出書類により高校での学習成果や、様々な活動への自主的な取組状況を評価します。また、専門科目に対するチャレンジ精神、知的好奇心、表現力、説明力などを基礎学力とともに、学科の実施する小論文および面接（口頭試問）により評価します。

■出願資格（総合型選抜で共通）

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和5年度中に卒業した者及び令和6年度中に卒業見込みの者
 - (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を令和5年度中に修了した者又は令和6年度中に修了見込みの者
 - (3) 専修学校の高等課程で文部科学大臣が別に指定するものを令和6年度中に修了又は修了見込みの者
- なお、合格した場合に、必ず入学することを確約できる者を募集します。

※現役及び既卒（1浪）まで出願資格あり

総合型選抜の実施方法等の詳細は、P.73～74を参照してください。

2. 学校推薦型選抜の変更について

これまで、大学入学共通テストを課す学校推薦型選抜を実施し、書類選考で25名、面接選考で25名の合計50名の合格者を決定してきましたが、令和7年度入学者選抜以降については以下のとおりに変更します。

- ①実施時期：[変更なし] 1月下旬～2月上旬（出願時期：共通テスト後1週間）
- ②募集学科：[変更なし] 指定なし。理学部として募集する。
- ③募集人員：30名
- ④試験方法：提出書類と共通テストの成績をもとに、書類選考を行う。
- ⑤提出書類：志願理由書・推薦書・任意提出書類
- ⑥合格発表：[変更なし] 2月中旬

※大学入学共通テストを課す総合型選抜と学校推薦型選抜の併願は不可

3. 一般選抜（大学入学共通テスト及び個別学力検査の科目と配点）の変更について

令和7年度以降の入学者選抜から以下のとおり変更します。

【変更前】

	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	情報	配点合計
共通テスト	200	100	200	200	200	—	900
個別学力検査	150		500	500	300	—	1450
計	350	100	700	700	500	—	2350

【変更後】

	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	情報	配点合計
共通テスト	300	100	100	100	250	50	900
個別学力検査			600	600	300		1500
計	300	100	700	700	550	50	2400

4. 令和7年度以降の募集人員

学科	一般選抜 (前期日程)	総合型選抜		学校推薦型 選抜	合計
		共通テストを 課す	共通テストを 課さない		
数理学科	215	3		30	270
物理学科		9			
化学科			5		
生命理学科			5		
地球惑星科学科		3			

●総合型選抜（大学入学共通テストを課す）「数理学科」、「物理学科」、「地球惑星科学科」の3学科にて実施

令和7年度以降

	数理学科					物理学科					地球惑星科学科				
日程	出願期間：共通テスト後1週間（現行の共通テストを課す学校推薦型選抜と同時期） 実施日程：共通テストを課す学校推薦型選抜と同日程で実施 合格発表：現行の共通テストを課す学校推薦型選抜と同時期														
募集人員	3名					9名					3名				
大学入学共通テストの教科・科目と配点	教科	科目			配点	教科	科目			配点	教科	科目			配点
	数学	数学Ⅰ、数学A			700	数学	数学Ⅰ、数学A			300	国語	国語			100
		数学Ⅱ、数学B、数学C					数学Ⅱ、数学B、数学C					地理総合・地理探究、歴史総合・日本史探究、歴史総合・世界史探究、公共・政治・経済、公共・倫理から1			
	理科	物理、化学、生物、地学 から2			200	理科	物理			物理 300 その他100	数学	数学Ⅰ、数学A			300
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語 から1			100		化学、生物、地学 から1					数学Ⅱ、数学B、数学C			
						英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語 から1			物理、化学、生物、地学 から2			300			
									英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1			200			
												情報Ⅰ			50
入試区分の配点		共通テスト	書類	面接	合計		共通テスト	書類	面接	合計		共通テスト	書類	面接	合計
	第1次選考	500	500	-	1000	第1次選考	800	100	-	900	第1次選考	300	100	-	400
	第2次選考	150	150	700	1000	第2次選考	800	100	200	1100	第2次選考	300	100	200	600
提出書類	① 入学志願票・写真票 ② 調査書 ③ 志願理由書（以下の内容を含む）					① 入学志願票・写真票 ② 調査書 ③ 志願理由書（以下の内容を含む）					① 入学志願票・写真票 ② 調査書 ③ 志願理由書（以下の内容を含む）				
	1. 名古屋大学理学部を志望する理由 2. 数学・数理科学について興味をもっていること、将来的に期待すること 3. これまでの学習などを通じて興味を持った数学の内容、あるいは理数探究などで研究・探究した数学の内容					1. 名古屋大学理学部を志望する理由 2. あなたが物理を学びたい理由、物理を学ぶことによるあなた自身の将来像 3. 日常生活で物理を実感したエピソード 4. 物理への興味を深める上で、今まで特に意識して学習したことや通常の授業以外の活動 5. 自分の長所とそれを裏付ける事例（部活動などを含む）					1. 名古屋大学理学部を志望する理由 2. 地球惑星科学について興味をもっていること、将来的に期待すること				
その他類	〈任意で提出を求めるもの〉 提出書類は第1次選考もしくは第2次選考の際の参考資料として使用することがある 提出書類の詳細は、令和7年度「選抜要項」、「募集要項」で発表する														
選抜方法等	(1) 第1次選考 提出された書類並びに大学入学共通テストの成績を総合的に評価し、第1次選考合格者（面接受験者）を決定する (2) 第2次選考 第1次選考合格者に対し、口頭試問による面接を実施し、合格者を決定する														

※総合型選抜（大学入学共通テストを課す）と学校推薦型選抜（大学入学共通テストを課す）は併願不可。一般選抜との併願可能。

●総合型選抜（大学入学共通テストを課さない）「化学科」、 「生命理学科」 の2学科にて実施

令和7年度以降

	化学科	生命理学科																																
日程	出願期間：10月下旬～11月中旬を予定 実施日程：11月中旬～12月中旬を予定 合格発表：11月下旬～12月中旬を予定（実施時期の詳細は令和7年度「選抜要項」で発表）																																	
出願要件	次の全てに該当する者 (1) 化学分野の学問・研究に強い興味と情熱をもつ者 (2) 自己推薦により自らの化学に対する興味と情熱を明確に示せる者 (3) 合格した場合に、必ず入学することを確約できる者	次の全てに該当する者 (1) 生物学の研究に強い興味をもつ者 (2) 以下 a～g に相当する研究プログラムやコンテスト等で入賞あるいは上位の成績を修めたなどの活動実績のある者 (3) 合格した場合に、必ず入学することを確約できる者 a) グローバルサイエンスキャンパス (GSC) 全国受講生研究発表会 b) 日本学生科学賞 (JSSA) c) JSEC (Japan Science & Engineering Challenge) d) 三菱みらい育成事業 カテゴリー3 (名大みらい育成プロジェクトなど) e) 日本学術会議協力学術研究団体主催の学会での研究発表 f) スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 生徒研究発表会 (全体会) g) 上記以外の生物学の優れた自由研究や課題研究の発表 (研究発表を公的に証明できること：提出書類参照) ※令和7年度「選抜要項」の発表までに、上記 a～f に該当する企画が中止された場合、あるいは同様な研究プログラムやコンテストが新たに行われたときには変更、追加する場合があります																																
募集人員	5名	5名																																
提出書類	①入学志願票・写真票 ②調査書 ③志願理由書 ④自己推薦文 ⑤小論文	①入学志願票・写真票 ②調査書 ③志願理由書 ④研究報告書 ⑤志願者評価書 ⑥出願要件 (a～g) を証明する資料 研究内容の発表や入賞を主催者もしくは学校長などの公的立場の人物が示した書類 (書類には出願者の名前が含まれていること)																																
その他類	〈任意で提出を求めるもの〉 提出書類は、第1次選考もしくは第2次選考 (化学科では第3次選考) の際の参考資料として使用することがある 提出書類の詳細は、「選抜要項」、「募集要項」で発表する																																	
選抜方法等	3段階で選抜を実施する 第1次選考 書類選考 第2次選考 小論文 第3次選考 口頭試問を含めた面接選考 第1次選考及び第2次選考の小論文テーマ (例) については、理学部ホームページで公開している。 理学部ホームページ > 入試情報 > 令和7年度 (2025年4月入学) 以降の入学選抜の変更について > 大学入学共通テストを課さない総合型選抜 https://www.sci.nagoya-u.ac.jp/admission/folder405/	2段階で選抜を実施する 第1次選考 書類選考 第2次選考 総合選考 第1次選考で第2次選考候補者を選考する。第2次選考 (総合選考) では生命科学分野の講義に基づく小論文及び第1次選考時の書類に基づく面接で選考する																																
入試区分の配点	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>書類</th> <th>小論文</th> <th>面接</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1次選考</td> <td>100</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>第2次選考</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>-</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>第3次選考</td> <td>-</td> <td>100</td> <td>200</td> <td>300</td> </tr> </tbody> </table> <p>第3次選考の結果に基づき合格者を決定します。</p>		書類	小論文	面接	合計	第1次選考	100	-	-	100	第2次選考	100	100	-	200	第3次選考	-	100	200	300	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>書類</th> <th>総合選考</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1次選考</td> <td>100</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>第2次選考</td> <td>-</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>第2次選考の結果に基づき合格者を決定します。</p>		書類	総合選考	合計	第1次選考	100	-	100	第2次選考	-	100	100
	書類	小論文	面接	合計																														
第1次選考	100	-	-	100																														
第2次選考	100	100	-	200																														
第3次選考	-	100	200	300																														
	書類	総合選考	合計																															
第1次選考	100	-	100																															
第2次選考	-	100	100																															

※大学入学共通テストを課す総合型選抜、学校推薦型選抜及び一般選抜との併願可能。

(4) 令和7年度以降の工学部化学生命工学科および機械・航空宇宙工学科における学校推薦型選抜の変更について

工学部化学生命工学科および機械・航空宇宙工学科では、入学者の多様性を確保し、工学分野において、社会を構成する比率と大きな乖離が見られる女性比率の是正を目指すため、学校推薦型選抜において、令和7年度入学者選抜（令和6年度実施）から、女子枠を設定し、募集人員を以下のとおり変更します。

【化学生命工学科】

1. 学校推薦型選抜（大学入学共通テストを課す）

現 行：9名

変更後（令和7年度入学者選抜以降）：14名（一般枠 7名，女子枠 7名）

2. 一般選抜

現 行：90名

変更後（令和7年度入学者選抜以降）：85名

<背景>

化学生命工学科においては、革新的な材料を構成する新しい物質の開発のみならず、生命現象の分子レベルでの解明から生物の工学的応用まで幅広い研究領域を扱っており、さらに現在、社会で求められている環境問題の解決やエネルギー関連分野への展開などには、様々な視点や優れた能力を持った人材の確保が不可欠となっている。

工学部化学生命工学科では、学校推薦型選抜における募集人員を9名から14名に増やし、そのうち7名を女子枠とする。

【機械・航空宇宙工学科】

1. 学校推薦型選抜（大学入学共通テストを課す）

現 行：15名

変更後（令和7年度入学者選抜以降）：15名（一般枠 10名，女子枠 5名）

2. 一般選抜

変更なし（令和7年度入学者選抜以降）：135名

<背景>

機械航空宇宙工学分野は、産業構造の変化により、社会で求められる人材像や必要とされる研究分野が変革の時期を迎えている。多様な価値観を持った技術者、研究者を育成するため、学校推薦型選抜における募集人員15名のうち、5名を女子枠とする。

【参考③】名古屋大学 学生数

令和5年5月1日現在

学 部	学 生 数			研 究 科	学 生 数		
	男子	女子	計		男子	女子	計
文 学 部	229	342	571 [26]	人 文 学 研 究 科	149	286	435 [232]
教 育 学 部	113	200	313 [9]	教 育 発 達 科 学 研 究 科	98	141	239 [42]
法 学 部	401	285	686 [36]	法 学 研 究 科	155	130	285 [115]
経 済 学 部	626	287	913 [35]	経 済 学 研 究 科	95	63	158 [113]
情 報 学 部	499	125	624 [12]	情 報 学 研 究 科	414	97	511 [146]
理 学 部	975	241	1,216 [47]	理 学 研 究 科	441	128	569 [52]
医学部・医学科	504	184	688 [3]	医 学 系 研 究 科	626	316	942 [120]
医学部・保健学科	201	633	834 [5]	工 学 研 究 科	1,621	173	1,794 [304]
工 学 部	2,601	351	2,952 [57]	生 命 農 学 研 究 科	272	206	478 [82]
農 学 部	376	373	749 [27]	国 際 開 発 研 究 科	94	114	208 [151]
情報文化学部 ^(*)	1		1 [0]	多 元 数 理 科 学 研 究 科	175	6	181 [24]
計	6,526	3,021	9,547 [257]	環 境 学 研 究 科	260	188	448 [150]
				創 薬 科 学 研 究 科	68	31	99 [4]
				文 学 研 究 科 ^(*)	2	2	4 [0]
				情 報 科 学 研 究 科 ^(*)	3	1	4 [0]
				計	4,473	1,882	6,355 [1,535]

[]内は外国人留学生を内数で示したもの。

* 平成29年度から学生募集を停止

【参考④】大学案内及び学部紹介冊子の請求方法

以下の『モバっちょ』から請求してください。

携帯電話，スマートフォン，パソコンから請求できます。



<https://djcm-b.jp/nagoya-u9/>

【料金（送料）の支払い方法】

① 請求時払い

携帯払い，スマホ払い，クレジットカード払いができます。（別途手数料が50円必要です。）

※携帯電話・スマホの機種，携帯電話会社との契約状況によって，通話料金と一緒にお支払いできない場合がございます。その場合，コンビニ後払いを選択してください。

② コンビニ後払い

資料到着後，コンビニでお支払いください。（別途手数料が126円必要です。）

■上記請求方法についての問い合わせ先

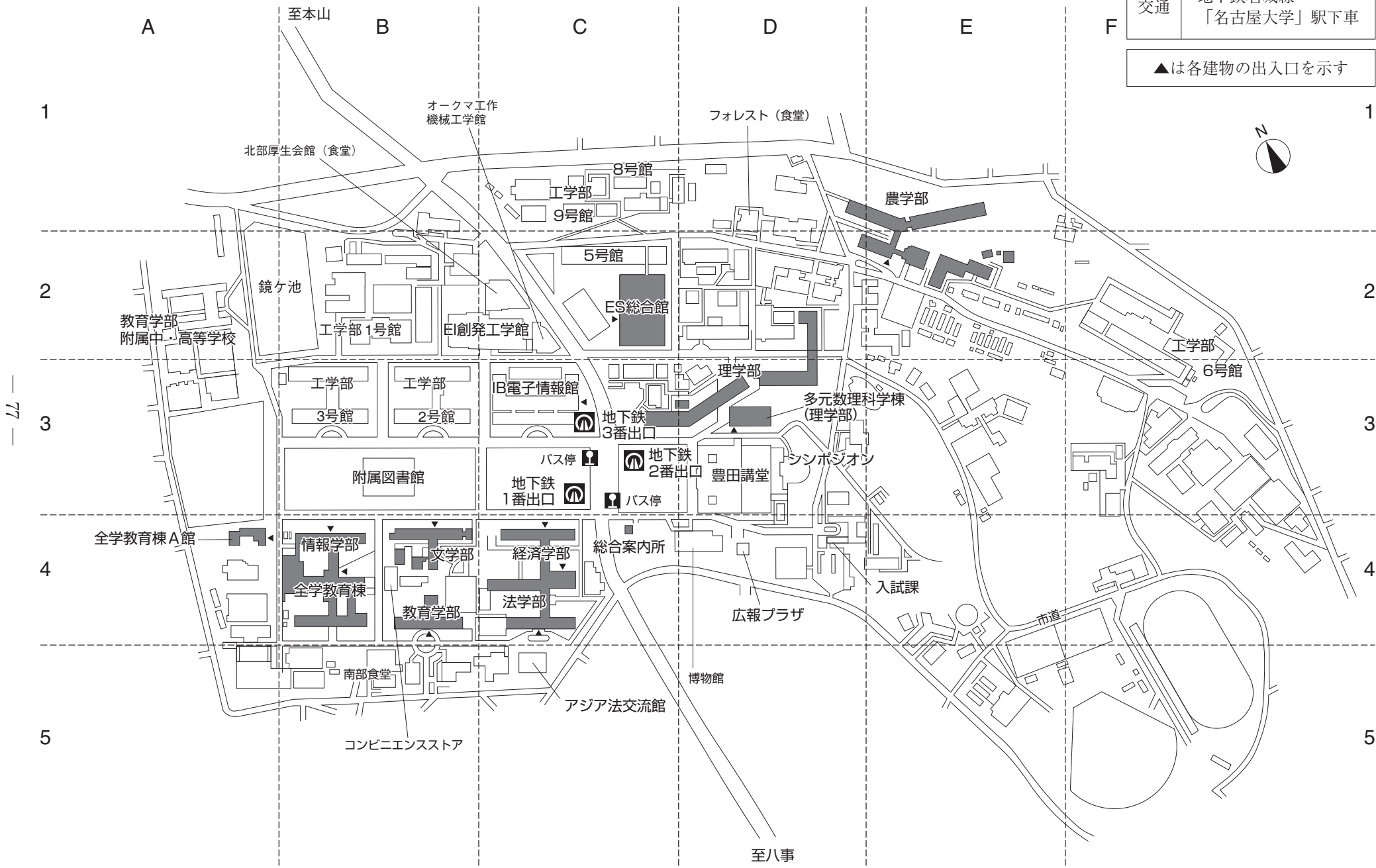
大学情報センター株式会社 モバっちょカスタマーセンター

TEL. 050-3540-5005（平日10：00～18：00）

名古屋大学東山地区配置図

交通	地下鉄名城線 「名古屋大学」駅下車
----	----------------------

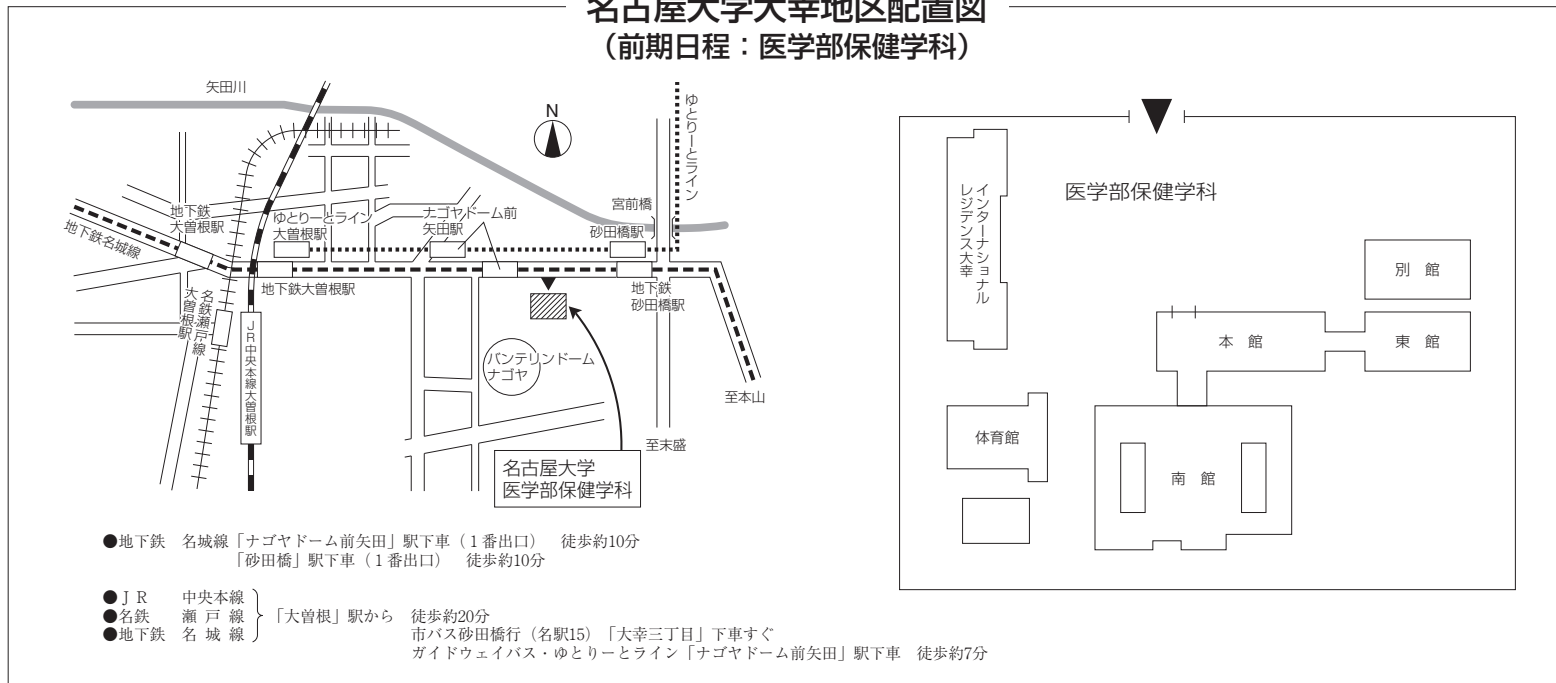
▲は各建物の出入口を示す



名古屋大学鶴舞地区配置図 (前期日程面接試験・後期日程：医学部医学科)

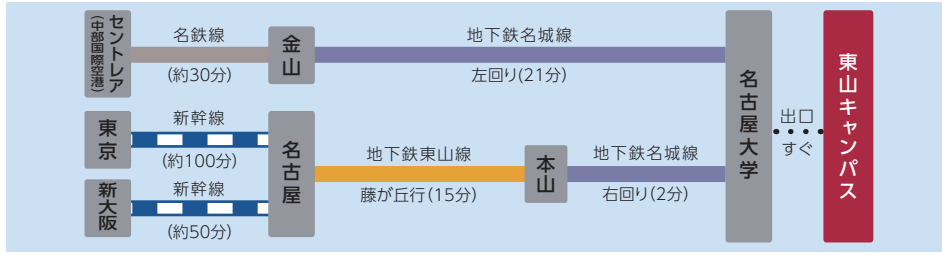


名古屋大学大幸地区配置図 (前期日程：医学部保健学科)

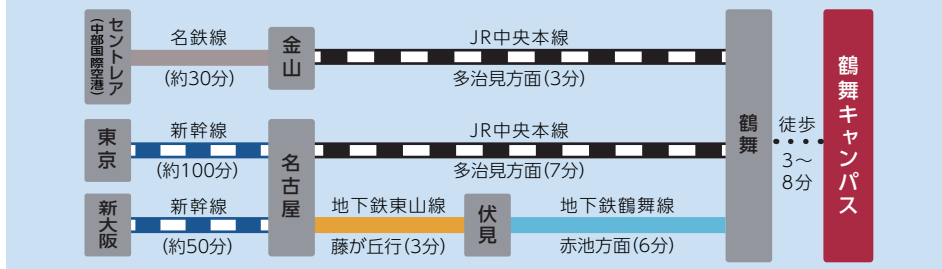


名古屋大学各試験場へのアクセス

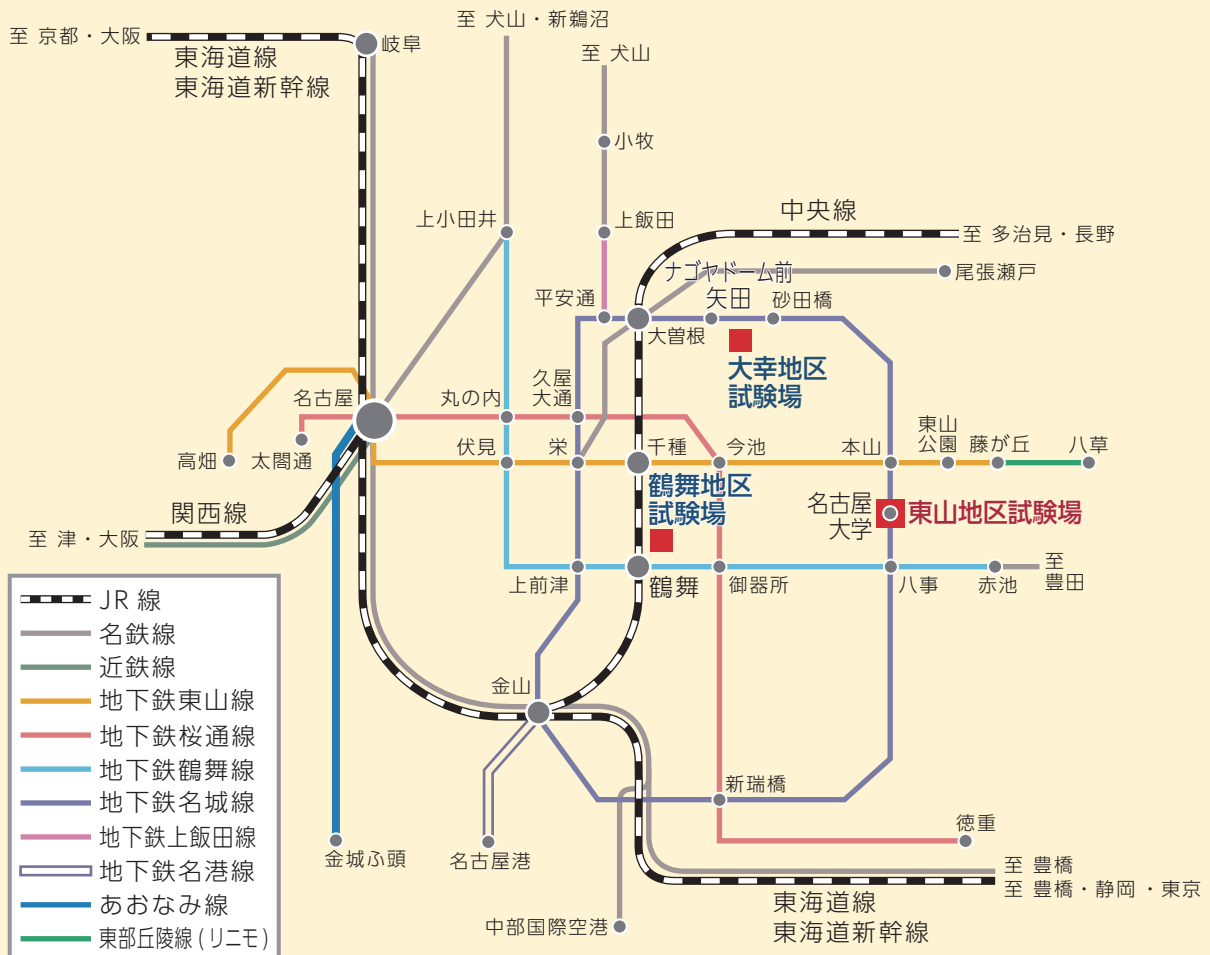
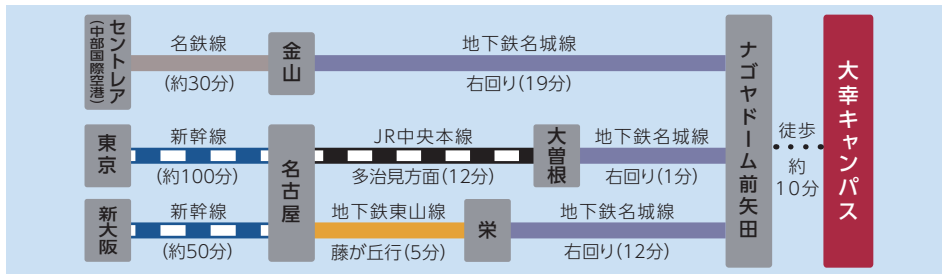
■東山地区試験場 (地下鉄名城線「名古屋大学」駅下車すぐ)



■鶴舞地区試験場 (JR中央本線「鶴舞」駅,地下鉄鶴舞線「鶴舞」駅下車 徒歩3~8分)



■大幸地区試験場 (地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」駅下車 徒歩約10分)



問い合わせ先

- ◆受付は、月曜日～金曜日 9:00～17:00(祝日、12月26日～1月8日を除く)
- ◆電話による問い合わせは、志願者本人が行ってください。
- ◆メールによる問い合わせは、件名に下記の事項を記し、メール本文のはじめに氏名・出願（予定）学部学科（出願後は受験番号）を入れたうえで、問い合わせ内容を入力ください。

事 項	問い合わせ先	電話番号／E-mail [a]を@に変えてお送りください
入試に関すること	名古屋大学 入学試験事務室	052-789-5765 nyuusi[a]t.mail.nagoya-u.ac.jp 〔検定料免除に関するサイト〕 https://www.nagoya-u.ac.jp/admissions/exam/cat/saigai/
自然災害等による「検定料免除」の申請		
受験上の配慮に関する申請		
入学金・授業料免除等に関すること	教育推進部 学生支援課 奨学支援係	※問い合わせ前にこちらのサイトをご参照ください。 https://www.nagoya-u.ac.jp/academics/support/index.html ----- shien-menjo[a]t.mail.nagoya-u.ac.jp 052-789-2172
日本学生支援機構の奨学金に関すること	教育推進部 学生支援課 奨学支援係	※問い合わせ前にこちらのサイトをご参照ください。 https://www.nagoya-u.ac.jp/academics/support/index.html ----- shien-jasso[a]t.mail.nagoya-u.ac.jp 052-789-2175
学生宿舎に関すること	教育推進部 学生支援課 学生総務係	※問い合わせ前にこちらのサイトをご参照ください。 https://www.nagoya-u.ac.jp/academics/others_campuslife/dormitory/index.html ----- shien-ryo[a]t.mail.nagoya-u.ac.jp 052-789-2173
障害のある学生への入学後の支援に関すること	アビリティ支援 センター	※問い合わせ前にこちらのサイトをご参照ください。 https://www.gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp/osd/ ----- osd[a]gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp 052-789-4756



名古屋大学入学試験事務室

〒464-8601 名古屋市千種区不老町D4-4(100) 名古屋大学本部内 入学試験事務室
TEL.(052)789-5765 FAX.(052)789-2188 E-mail. nyuusi@t.mail.nagoya-u.ac.jp